

一八八二年以來之ヲ廢止シ獨逸ニ於テモ近來著シク之ヲ輕減スルニ至レリ
 鐵道ハ一八二八年始テ亞米利加ニ布設セラレ次テ一八三〇年英國ニ布設セラレ
 爾來各國相次テ之ヲ布設セシカ其經營ハ或ハ之ヲ國家ノ事業トシ或ハ之ヲ民業
 ニ委ネタレトモ其之ヲ國家ノ事業トシタル場合ニ於テモ之ニ關シテ一定ノ賃金
 ヲ徵收スルニ至リテハ各國其軌ヲ一ニスル所ナリ郵便ハ古來各國ニ於テ多少驛
 遞ノ制度存在セルモ今日ノ制度ニ近ツキタルハ殆ト近世ノ初ナリ爾來各國ニ於
 テ概ネ之ヲ官業トシ之ニ付テ一定ノ料金ヲ徵收セサルナシ電信ハ一八三七年以
 來公衆通信ノ用ニ供セラレ電話ハ極テ最近ノ事業ニ屬シ二者共ニ或ハ官設ノモ
 ノアリ或ハ民業ニ委スルモノアリ然レトモ其料金ヲ徵收スルハ鐵道又ハ郵便ノ
 場合ニ同シ

航海事業ハ古來各國皆力ヲ盡シテ其發達ヲ獎勵セシモ之ヲ國家直接ノ事業トシ
 テ經營シタルハ極テ稀ナリ

斯ノ如ク交通業ハ其種類ニ依リ又時ト所トヲ異ニスルニ從ヒ其關係ヲ異ニスト
 雖モ概シテ言ヘハ其多數ハ專ラ國家若ハ公共團體ノ經營スル所タリ少クトモ其

重ナルモノニ付テハ主トシテ是等ノ施設ニ係ル斯ノ如ク國家又ハ公共團體力之
 ニ關係スル所以ノモノハ其性質上國民ノ生活ニ必要缺クヘカラサルノ機關タル
 ト又其自然的獨占的事業タルトニ依ルモノトス蓋國民ノ生活上絕對ニ必要ナル
 機關ニシテ而モ其利用者ノ範圍極テ廣ク到底各個ノ場合ニ一々其利用者ニ對シ
 テ報酬ヲ求ムルコト能ハサル場合ニ於テ何等ノ報酬ヲ得スシテ其經營ニ任スル
 ハ國家又ハ公共團體ヲ措テ他ニ之ヲ求ムヘカラサルノミナラス其事業ノ性質上
 多額ノ資本ヲ要シ又ハ自由競争ヲ爲スノ經濟上極テ不利益タリ且全國畫一ノ制
 度ニ依リテ其利用ヲ完全ナラシムルノ必要アルカ如キ自然的獨占的事業ニ於テ
 ハ其設備ハ國家又ハ公共團體ニ待ツニアラサルヨリハ到底其完キヲ期シ難キコ
 ト言フ俟タスシテ明ナレハナリ

國家カ交通業ヲ經營スル場合ニ於テ之ヨリ生スル收入ノ多少ハ之ニ關シテ國家
 ノ採ル所ノ收入主義如何ニ依リテ決スヘク而シテ國家カ如何ナル收入主義ヲ採
 ルヘキヤハ社會ノ進歩及經濟組織ノ變化等ニ依リテ漸々推移スヘキ問題ニシテ
 之ニ付キテ絕對的ノ理由及標準アルニアラス夫ノ道路及橋梁等ノ如キ古代ニ於

テ之ヲ人民ノ經營ニ任セ而シテ其創設者ニ許スニ其通行人ヨリ一定ノ使用料ヲ徵收スルコトヲ以テセルノミナラス國家カ自己ノ經營ニ係ルモノニ付テモ尙ホ之カ通行料ヲ徵收シタルコトハ獨リ過去ニ於ケル歷史上ノ事實タルニ止ラス現今ニ於テモ交通不便ノ山間僻地ニ在リテ其營業者ヲシテ相當ノ利益ヲ收メシムルノ例ナキニアラサルヲ見レハ蓋思半ニ過クルモノアラシク

斯ノ如ク古代ニ於テ交通料收入ノ主義ヲ採リ現今ニ於テ原則トシテ自由交通主義ヲ採ル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ財政及經濟組織ノ變遷是ナリ蓋古代ニ於テハ一般ノ土木事業未タ發達セサリシカ故ニ一道ヲ開キ一橋ヲ架スルモ其資本ト努力トヲ費スコト今日ノ比ニアラサリシハ之ヲ想像スルニ難カラス而モ政府ハ其財源ニ乏シキカ故ニ國家カ之ニ對シテ收入ノ途ヲ得ンコトヲ圖リシハ自然ノ理數ナリ且ヤ他ノ一方ニ於テハ交通ノ途未タ開ケサルニ當テハ人民ノ之ヲ利用スル者極テ少ナク從テ特別ニ之ヲ利用スル一部ノ人民ニ對シテ其負擔ヲ命シ以テ其費用ノ支辨ニ充ツルハ寧ロ機宜ニ適シタルノ處置ト云フヘシ然ルニ今ヤ經濟ノ組織全ク一變シ主トシテ交換的經濟殊ニ貨幣經濟若ハ信用經濟ノ行ハル、

ニ至リテハ國民ノ交通益類トナリ道路若ハ橋梁ノ機關ハ國民ノ生活上絕對的ニ必要ニシテ一日モ之ヲ缺クヘカラス而シテ其利用ノ途ハ直接ニ全國民ニ亘リ其間ニ厚薄ノ別ナク縱令其間ニ之ヨリ享クル利益ノ厚薄ニ差異アリトスルモ之ニ對シテ個々ノ通行料ヲ徵收スルカ如キハ雷ニ之ヲ徵收スル上ニ於テ煩シキノミナラス之カ爲メニ交通ヲ阻害スルコト甚シト云ハサルヲ得ス而モ國家ヨリシテ之ヲ云ヘハ必スシモ其財源ヲ茲ニ求ムルノ必要ナク一般歳入ノ内ヨリ之ヲ支辨シテ餘アルノミナラス之ヲ一般歳入ヨリ支辨スルハ理ニ於テ毫モ戾ル所ナシ何トナレハ其利用カ國民全體ニ亘リ少クトモ一地方全體ニ及フ場合ニ於テハ個々ノ利用者ヲ捉ヘテ其負擔ヲ命セサルモ國家又ハ其地方一般ノ歳入ヲ以テ其經費ヲ支辨スルハ其實ニ於テ即チ其利用者ニ之カ負擔ヲ課スルト毫モ異ル所ナケレハナリ是ニ於テカ是等ノ事業ハ歳入ノ問題ヨリ一轉シテ歳出ノ問題トナリ財政上ノ問題ヨリ移リテ行政上ノ問題トナレリ國家カ其財政上ノ問題ヲ離レテ單ニ行政上國家當然ノ職分トシテ之カ施設ヲ圖ルニ至レルハ又當然ノ順序ナリトフヘシ

斯ノ如ク道路橋梁等ヲ全ク人民自由ノ使用ニ任セ毫モ之ニ依リテ收入ヲ圖ラサル場合ニ於テハ是等ノ財産ハ即チ國家カ其行政上ノ目的ヲ遂行スルカ爲メニ直接ニ使用スル所ノ財産タリ普通ニ所謂公産ニ屬ス然ルニ郵便電信鐵道等ノ如キ之カ使用者ヨリ其使用料ヲ徵收スル所ノモノニ關シテハ其性質ニ付キテ今尙ホ學者間ニ異說アルヲ免レス或ハ之ヨリ生スル收入ヲ以テ主權ニ基ク收入トスル者アリ或ハ手數料ナリトスル者アリ若ハ之ヲ以テ私經濟的收入トスル者アリ是等收入ノ性質ニ關スル見解ノ異ルニ從ヒ是等ノ財産ノ性質ニ付キテ其說ヲ異ニス或ハ之ヲ以テ公産トシ或ハ之ヲ以テ私産トナス然レトモ單ニ行政法學上ノ見地ヨリスレハ是等ノ財産ハ其收益ヲ生スルト否トヲ問ハス等シク是レ公産タリ何トナレハ是等ハ皆國家行政上ノ目的ニ使用セラル、營造物ナレハナリ而シテ余ハ嘗テ説明セルカ如ク財政學上公産私産ノ名稱ヲ採用セサルカ故ニ是等ノ財産ハ其之ヨリ生スル收入カ公經濟的收入ナルト私經濟的收入ナルトヲ問ハス共ニ之ヲ稱シテ收益財産ト云ハントス

郵便、電信、鐵道等ハ總テ收益ヲ生スルヲ常トス蓋是等ノ機關ハ道路橋梁等ト異リ

其設備維持ノ爲メニ非常ナル資本ト經費トヲ要シ若シ之ヲ以テ一般歳入ノ支辨ニ委ヌルトキハ國家ノ負擔極テ重大ニシテ他ニ之ニ充ツヘキ好個ノ財源ヲ發見スルニ困難ナルノミナラス是等ノ機關ハ其利用ノ途廣カラサルニアラサレトモ現今ノ文明ノ程度ニ於テハ未タ之ヲ以テ道路橋梁等ト同一視スルコトヲ得ス從テ一般歳入中ヨリ其經費ヲ支辨スルハ全體ノ負擔ヲ以テ一部人民ニ私スルノ嫌アリ且其利用者ニ對シテ特別ノ負擔ヲ命スルモ之カ爲メ著シク交通ノ便ヲ妨クルモノト云フヘカラサレハナリ

是等交通機關ヨリ生スル收入ニ付キテモ其收入ノ性質及多少ハ又其收入主義ノ如何ニ依リテ同シカラス是等ノ機關ヲ認メテ行政上ニ於ケル必要ナル營造物トシ國民利福ニ重大ナル關係アルカ爲メニ之カ利用者ニ對シテ成ルヘク特別ノ負擔ヲ命スルコトナク縱令之ニ負擔ヲ命スルモ單ニ其費用ノ一部分ヲ得ルニ止リ若ハ其費用ニ充ツルノ度ヲ以テ満足スルトキハ其收入ハ即チ手數料ノ性質ヲ有ス此場合ニハ國家ノ之ヲ經營スルハ專ラ行政上ノ目的ニ存シ財政上ノ目的ニ出ツルモノニアラス之ニ反シテ國家カ之ヲ行政上ノ目的ニ供スルト同時ニ之ヲ財

政上ノ目的ニ利用シ資本勢力ニ對シテ相當ノ利益ヲ收メ尙ホ進ンテ其獨占的經營ニ依リテ一層多大ノ利益ヲ收メントセハ其收入ハ或ハ私經濟的收入トナリ或ハ公經濟的收入トナル學者或ハ之ヲ以テ手數料主義ニ據ラシムヘキモノナリト論スル者アルモ現今各國實際ノ狀態ニ於テハ多ク私經濟的收入主義ニ則リ更ニ進テ公經濟的收入主義ヲ採ルモノナキニアラス然レトモ其利益ノ詳細ナル割合ニ至リテハ之ヲ確知スルコト極テ困難ナリ何トナレハ政府ノ事業ニ在リテハ之ニ投セル資本並ニ毎年費ス所ノ經費ノ詳細ハ之ヲ知ルコト頗ル困難ナルモノアレハナリ

第二款 郵便

郵便
總說

第一項 總說

郵便トハ通常信書其他輕小ナル物品ノ送達ヲ目的トスル業務ニシテ時トシテハ或ハ旅客ノ運送爲替及貯金ノ事務ヲ包含ス郵便事務ハ政府ニ於テ之ヲ經營スルヲ常トス其初メ政府カ自ラ之ヲ營ミタルハ之ニ因リテ收入ヲ得ントスルニアラス又之ヲ以テ國民ヲ利セントスルノ趣旨ニモアラス專ラ政府部内ニ於テ各官衙

間ニ於ケル交通通信ノ用ニ供スルノ目的ニ出テタルモノナリ
驛遞ノ制度ハ各國共ニ其由來スル所久シク其發達ノ跡亦概不相類似ス而シテ其初ニ於テハ必スシモ政府ノ經營スル所ニアラス或ハ人民自由ノ事業タリ或ハ政府ノ特許ニ依リテ人民ノ經營スル所タリベルシヤニ於ケル歴史的ノ事實若ハ羅馬ニ於ケル公用郵便ノ制度ノ如キハ姑ク之ヲ措キ十三世紀ニ於ケル佛蘭西大學ノ郵便制度ノ如キ主トシテ學生ト其家族トノ間ニ於ケル通信ノ機關タリ兼テ又官廳ノ用ヲ處辨シタルモノアリ又獨逸ノ「ハンザ」同盟ニ於ケル商人間ノ定期郵便制度ノ如キ何レモ政府以外ノ者ノ管掌セシ所ナリ其後第十五六世紀ニ至リ歐洲各國ノ政府ハ事務モ公益ト密接ノ關係アルモノハ總テ之ヲ自己ノ掌中ニ收ムルノ政策ヲ採リ其結果驛遞ノ事業モ亦政府ノ掌中ニ歸スルニ至リシカ或ハ之ヲ私立會社ニ貸貸シ或ハ特許ニ依リテ之カ營業ノ權ヲ私人ニ與ヘタル等ノ例少カラ

英國ニ於ケル郵便制度ノ起源ハ遠クチャールス一世ノ時代ニ在リ一六三五年以來王國內ノ郵便局ニ於テ總テ公用通信ヲ掌リ其後クロムウエル政府時代ニ於テ是

等ノ制度大ニ發達シテ漸次政府ノ獨占ニ歸シタリ其後鐵道其他交通機關ノ發達ニ因リ郵便制度モ亦長足ノ進歩ヲ爲シ一八四〇年ニ至リテ夫ノローランド、ヒルノ主張ニ係ル所ノ「ペンニー」制度ノ採用セラル、ニ及ヒ著シク郵便制度ノ發達ヲ見ルニ至レリ

佛國ニ於テハ一四六四年ルイ第十一世ノ時代ニ於テ政府ノ郵便事業ヲ開始シ一六二七年ルイ第十三世ノ時代ニ至リテ大ニ之カ改良ヲ加ヘ定期ノ通信ヲ設ケタルカ一六七二年ニ至リテ之ヲ民間ニ貸貸シ同時ニ巴里大學ノ競争ヲ禁止セリ爾來政府ハ之ニ因リテ少カラサル收入ヲ得タリシカ一七九二年ニ至リ信書ノ送達ヲ政府直接ノ管掌ニ歸セシメタリ次テ革命ノ結果財政ノ困難ト事業ノ不成績ノ爲メ料金ヲ引上クルノ已ムヲ得サルニ至リ却テ一時其收入ヲ減シ大ニ郵便制度ノ廢頓ヲ來セシカ其後漸ク改良ヲ加ヘ一八四八年ニ至リ英ノ「ペンニー」制度ニ倣ヒ二十「サンチーム」ノ制ヲ採ルニ及ヒ大ニ其制度ノ擴張ヲ見ルニ至レリ

夫ノ獨逸ニ於テハ政治上其統一ヲ缺キタルカ爲メ全國書一ノ郵便制度ナカリシカ「プロイセン」ニ於テハ一六四六年始テ其制度ヲ設ケ獨逸聯邦ノ成立ト共ニ始テ

獨逸帝國ノ郵便制度トナルニ至レリ

我國ノ郵便制度ノ沿革モ亦概ネ歐洲ノ諸國ト同シク往時ニ於ケル驛遞ノ制度ハ專ラ政府自己ノ用ニ供スルノ目的ニ出テタルモノニシテ未タ之ヲ以テ公衆一般ノ用ニ供スルニ至ラザリキ徳川氏ノ時代ニ及ヒ三度飛脚ノ制度アリテ稍一部人民ノ使用ニ供スルニ至リシカ明治維新ノ後ニ至リ歐洲ノ制ニ倣ヒテ郵便制度ヲ設ケ爾來幾多ノ改良ヲ加ヘテ今日ノ盛況ヲ見ルニ至レリ

之ヲ要スルニ現今ニ於テハ世界各國皆郵便ノ事業ヲ以テ政府直接ノ管掌ニ歸セシメサルモノナシ廣キ意味ニ於ケル郵便事務ニ付テハ固ヨリ必スシモ皆然リト云フヘカラスト雖モ少クトモ信書ノ送達ニ關シテハ之ヲ官業トスルヲ常トス而モ之ヲ以テ單ニ官業トスルノミナラス政府ノ專業トシテ全ク私人ノ經營ヲ禁止ス我明治三十三年三月法律第五十四號郵便法第一條ニ於テ「郵便ハ政府之ヲ管掌ス」ト規定シ其第二條ニ於テ「何人ト雖モ信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス」ト規定セルハ即チ之カ爲メナリ

郵便事務ヲ以テ政府ノ專業トスルノ利害得失ニ關シテハ世間既ニ定説アリ極端

ナル官業反對論者ヲ除クノ外ハ未タ之ニ反對スル者アルヲ聞カス夫ノ自由放任主義ヲ以テ有名ナルアダムスミス氏ノ如キスラ尙ホ且曰ヘルアリ「凡テノ種類ノ政府ニ通シテ成效ヲ誤ラサリシモノ唯一ノ郵便事業アルノミ」ト蓋郵便ノ事業タル夫ノ總テノ官業ニ反對スル一派ノ學者ノ輩出セル以前ニ於テ既ニ久シク政府ノ手ニ經營セラレ而モ能ク其成效ヲ得タルカ故ナリ抑モ郵便ヲ以テ官業殊ニ政府ノ獨占業トスヘキ理由ハ主トシテ其自然的獨占的事業タルニ在リ今其主ナルモノヲ舉クレハ

第一 郵便事業ハ公益ニ關係スルコト最モ重大ナリ從テ營利的事業者ノ能ク其任ニ堪フル所ニアラス

第二 郵便事業ハ全國ニ普及スルノ必要アリ然ルニ之ヲ民業ニ委シテ願ミサルトキハ利益多キ地方ニ於テハ之カ施設ヲ見ルヘキモ利益少ナキ地方ハ措テ願ミサルノ結果ニ至ルヘシ

第三 郵便事業ハ全國書一ナラサルヘカラス縱令其制度全國ニ普及スト雖モ其地方毎ニ制度ヲ異ニスルトキハ人民ノ不便甚シカラサルヲ得ス其書一ナル制

度ノ必要ナル實ニ獨リ一國內ニ止ラス國際間ニ於テモ亦其制度ノ共通ナルヲ必要トス是ヲ以テ郵便ニ關シテハ一八七四年ベルヌニ於テ萬國郵便聯合會議ヲ開キ之ニ關スル條約ヲ締結シ我政府モ亦一八七七年即チ明治十年ニ於テ之ニ加入シタリ

第四 郵便事業ハ之ヲ一人ノ手ニ收メサレハ徒ニ費用ヲ要シ經濟上極テ不利益ナリ

第五 郵便事業ノ主タル目的タル信書ニ付キテハ之カ祕密ハ之ヲ官業ト爲スニアラサレハ充分ナル保障ヲ得ヘカラス 信書ノ祕密ハ最モ尊重スヘキ各人ノ權利ニシテ各國憲法ニ於テ之カ保障ノ規定アラサルナシ而シテ之ヲ保護スル上ニ於テハ私人ノ事業ニ比シテ國家ノ事業トスルノ勝レルニ如カサルナリ

第六 郵便ヲ民業ニ委スルトキハ取扱者ノ意思ニ依リ各人間ニ偏頗ノ處置アルヲ免レス

第七 郵便事業ハ極テ簡單ニシテ官業タルニ適ス 此事業ハ極テ簡單ニシテ其間ニ投機的分子ヲ含マス唯著實正確敏活ナルヲ以テ足レリトス是レ他ノ營業

ニ比シテ最モ能ク國家ノ事業タルニ適スル所以ナリ

第八 民業ヲ許ストキハ競争上官業ノ利益ヲ妨ク 以上ノ理由ハ皆郵便ヲシテ官業タラシムヘキモノナリト雖モ此他單ニ之ヲ官業トスルニ止ラス進テ之ヲ國家ノ專掌ニ歸セシメ人民ニ對シテ信書ノ送達ヲ業トスルヲ禁スルハ競争ノ結果官業ノ利益ヲ害シ政府ヲシテ郵便ニ關シテ公益的ノ施設ヲ爲ス能ハナラシムルニ至ルカ故ナリ何トナレハ政府カ郵便ノ事業ヲ營ム場合ニハ公益上之ヲ全國ニ普及セシメ又全國畫一ノ制度ヲ布クノ必要アルカ故ニ其有利ナル線路ニ於テハ其收ムル利益ハ費ス所ニ比シテ極テ多ク政府ハ此利益ヲ以テ他ノ收支償ハサル場所ニ其施設ヲ爲スノ用途ニ充テサルヲ得ス然ルニ今一私人ヲシテ自由ニ之カ事業ヲ營マシメンカ彼等ハ有利ナル線路ニ於テハ自由競争ノ結果政府ヲ壓倒シ而シテ敢テ其不利ナル線路ニ對シテハ何等ノ施設ヲ爲スコトナク遂ニ有利ナル線路ハ總テ私人ノ占有ニ歸シ政府ヲシテ不利ナル地方ニ公益的施設ヲ爲スノ資ヲ得ルノ途ナキニ至ラシムレハナリ

第九 郵便ハ好個ノ財源ナリ 郵便ノ制度ハ元來公益ニ基ク制度ナリト雖モ之

ヲ財政上ニ利用スレハ人民ニ苦痛ヲ感セシムルコト少クシテ多大ノ利益ヲ得ヘキ好個ノ財源ニシテ其經費ニ對シテ比較的多額ノ收益ヲ得ヘシ從テ之カ事業ヲ政府ニ屬セシメ依テ以テ國家ノ收益ヲ圖ルコト財政上最モ有益ナリトス

第二項 郵便收入

郵便收入

郵便ハ主トシテ前項ノ理由ニ因リ國家ノ專ラ營ム所タリ而シテ其之ヲ營ムヤ又主トシテ經濟行政上ノ理由ニ基クト雖モ而モ同時ニ之ヲ財政上ニ利用シ得ルコト前述ノ如シ而シテ其財政上ニ於ケル地位ハ其之ヨリ生スル純收益ノ多少ニ依リテ定リ又其純收益ノ多少ハ其總收益ト經費トノ如何ニ依リテ決セラル

郵便事務ノ經費ハ主トシテ其組織ノ如何ニ依リテ分ル語ヲ換ヘテ言ヘハ局所ノ設備、人員ノ配置及送達ノ方法並ニ郵便事務ノ範圍等ニ依リテ左右セラル、モノナリ就中最モ注意セサルヘカラサルハ送達ノ方法ニシテ其重ナル事項ハ郵便ト他ノ交通機關殊ニ鐵道及船舶トノ關係是ナリ佛蘭西、埃地利、瑞西等ノ諸國ニ於テハ多クノ民設鐵道ヲ有スルカ故ニ政府カ民設鐵道ニ認許ヲ與フル場合ニハ其報酬トシテ幾分ノ郵便送達費ヲ負擔セシム我國ニ於テモ亦此方針ヲ採リ現行郵便

法ハ其第三條ニ於テ運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得スト規定シ以テ前述ノ趣意ヲ明ニセリ而シテ同時ニ此場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料ヲ支給スト規定セリト雖モ鐵道船舶郵便法(明治三十三年三月法律第五十六號)ニ依レハ鐵道運送業者並ニ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ依リ土地建物ノ供用及郵便車又ハ郵便船室ノ設備其他郵便運送ニ關シテ各種ノ義務ヲ負擔シ而モ之ニ對シテ郵便官署ノ支給スル使用料金ハ普通ノ場合ニ比シテ極テ低廉ナリ

次ニ郵便事務ノ範圍即チ郵便物ノ種類ニ關シテハ各國皆其制度ヲ異ニス元來郵便事務ノ性質ハ極テ複雑ニシテ信書送達ノ外種々ノ目的物ヲ包含スルカ故ニ其種類ノ如何ニ依リ經費ヲ異ニス抑モ郵便ノ制ハ夫ノ旅客運送ニ起因シ後漸ク信書郵便ニ及ヒ今日ニ於テハ最初ノ旅客郵便ハ漸ク廢セラレ、ニ至レリ新聞紙及書籍ノ如キ信書ニ次テ普通郵便物トシテ取扱ハル、ノ常トシ其他小包郵便ノ如キモ普通ノ郵便ノ如ク政府ノ管掌スルモノ多シ是等信書以外ノ郵便物ハ多ク遞送費ヲ増加スルカ故ニ是等ノ種類ノ多少ニ依リテ其經費ニ影響ヲ及ホスコト論

ヲ俟タス

次ニ郵便收入ノ多少ハ一ハ人民ノ之ヲ利用スル程度如何ニ關シ一ハ其貸率ノ高低如何ニ依リテ分ル人民ノ之ヲ利用スル程度ハ(一)人口ノ多少(二)文化ノ程度(三)交通ノ繁閑等ニ依リテ差異ヲ生スルモノトス

次ニ論スヘキハ貸金ノ高低ニシテ郵便ノ收入ニ關シテ最も重要ナルモノナリ郵便貸率ニ關スル問題ハ從來學者ノ説ク所ニ分ル手数料主義及收益主義是ナリ元來國家ノ收入主義ハ嘗テ述ヘタルカ如ク四箇ノ主義アルモ郵便ニ關シテハ其性質上夫ノ一般經費充當主義ニ依ルヘカラサルコト説明ヲ俟タス自餘ノ三主義中公經濟的營業主義ニ至リテハ實際各國ニ於テ採用セラル、コト少ナシ何トナレハ郵便收入ヲ以テ租稅ト同一視シ郵便事業ニ依リテ單ニ收入ヲ得ンコトノミヲ是レ圖ルハ郵便制度ノ本質ニ反スルカ故ナリ

手数料主義ヲ主張スル者ハ曰ク郵便ノ制度ハ國民經濟上必要ナル機關ニシテ又教育上及道德上缺クヘカラサル手段ナルカ故ニ國家ハ其職分トシテ公益上當然之カ經營ニ努メサルヘカラス從テ之ヲ經營スルニ當リテ最も重ヲ公益ニ置キ毫

モ之ヲ以テ收益ヲ計ルノ手段ニ供スヘカラス何トナレハ之ニ依リテ收入ヲ計ラントセハ勢ヒ其賃率ヲ高メ從テ人民利用ノ途ニ障礙ヲ與ヘ其當初ノ目的ニ背反スルニ至ルヘケレハナリ故ニ郵便料金ハ高クトモ必ス其經費ヲ償フノ程度ニ止メ毫モ純收入ヲ得ンコトヲ企ツヘカラスト之ニ反シテ收益主義ヲ主張スル者ハ曰ク郵便制度存在ノ理由及其效用ハ眞ニ手數料主義論者ノ言ノ如シト雖モ人民カ之ヨリ受クル利益ハ國家カ之ニ對シテ費ス所ニ比シテ遙ニ大ナルモノアリ從テ相當ノ純收入ヲ得ルノ程度ニ於テ賃率ヲ定ムルモ之カ爲メニ毫モ人民ニ苦痛ヲ感セシムルコトナシ國家カ之ヲ以テ收益ノ手段ニ供スルハ毫モ其制度ノ存立ニ反スルモノト云フヘカラス徵收ノ容易ニシテ而モ比較的多額ノ收入ヲ得ヘキ好個ノ良財源ハ政府之ヲ利用スヘキコト財政上最モ策ノ得タルモノト云フヘシト

之ヲ要スルニ手數料主義ノ論者ハ文化的行政ノ必要ニ重ヲ置クニ過クルカ如キ觀ナキニアラス然レトモ之ヲ財政上ノ目的ニ供セントスルニ急ナルノ結果全然其當初ノ目的ヲ忘却シ徒ニ多大ノ收益ヲ計ラントスルカ如キハ其不可ナルコト

言ヲ俟タス能ク兩者ノ中間ニ立チ一國ノ公益ヲ害セサル範圍内ニ於テ之ヲ財政ノ目的ニ供スルハ應ニ財政家ノ努ムヘキ所ナリ

以上述ヘタル所ハ一國ノ郵便制度全體ニ於テ郵便收入ノ程度ヲ定ムヘキ大體ノ標準ナリ而シテ其何レノ主義ヲ採ル場合ニ於テモ其各個ノ郵便物ニ付キテ果シテ幾何ノ料金ヲ徵收スヘキカノ具體的問題ニ至リテハ之ヲ他ノ研究ニ讓ラサルヘカラス

抑モ各種ノ郵便物ニ付キテ相當ナル賃率ヲ定ムルハ極テ困難ナル事項ニ屬ス何トナレハ郵便制度ノ發達及其取扱高ノ増加ニ從ヒ各種ノ郵便物ニ對スル經費ハ彼此相錯綜シ到底其精確ナル區別ヲ知ルコト能ハス換言スレハ各個ノ郵便物ニ對スル經費ハ其全體ノ經費中ニ埋沒セラル、ニ至レハナリ從テ大體ノ標準ニ照シテ之ヲ數多ノ種類ニ大別シ其範圍内ニ於テハ現實的ニ生スル各個ノ經費ニ關セス總テ一定ノ料金ヲ徵收スルニ至ルハ已ムヲ得サル所ナリ而シテ其之ヲ定ムルヤ又多年ノ經驗ニ徵シ又幾多ノ改正ヲ經テ以テ漸ク其精確ヲ期スヘキコト言フ俟タス

郵便料金ノ割合ヲ定ムルニハ果シテ如何ナル方法ニ依ルヘキカ抑モ郵便ノ經費ヲ決定スヘキ元素ハ(一)重量又ハ容積(二)距離(三)線路及(四)性質等是ナリ初メ郵便制度ノ設ケラル、ニ當リテハ凡テ是等ノ元素ヲ以テ郵便料金ヲ決定スヘキ標準トセシカ爾來漸ク消滅シテ今日ニ於テハ其重量又ハ容積及性質ノ二ヲ餘スノミニ至レリ其第一ニ除外セラレタルハ線路ナリ蓋通路ノ便否ニ因リテ郵便物ノ遞送ニ著シク難易ノ差異アルハ疑ナキ所ナリト雖モ其方面ヲ異ニスルニ從ヒテ各個ノ賃率ヲ定ムルハ頗ル煩シキヲ以テ其線路ノ如何ニ關セス單ニ距離ノ遠近ニ依テ差等ヲ設クルニ至レリ然ルニ此距離ノ元素モ亦次テ其標準中ヨリ除外セララルニ至レリ元來郵便經費ノ種類ハ大別シテ二トス一ハ郵便物ノ運送費二ハ其類別及集配ニ關スル費用ナリ然ルニ郵便取扱高ノ増加スルニ從ヒ運送費ハ比較的ニ漸々減少シ類別及集配ニ關スル經費ハ郵便經費ノ大部分ヲ占ムルニ至レリ從テ郵便制度發達ノ第二段トシテ距離ノ元素ヲ廢止シタルコト固ヨリ其所ナリ英國カ一八四〇年夫ノローランドヒルノ主唱ニ從テ「ペンニー」制度ヲ採用シ全國畫一ノ制度ヲ設ケ次テ佛米兩國亦之ニ倣ヒタルハ之カ爲メナリ

今尙ホ存在スル標準ノ第一ハ重量又ハ容積ナリ既ニ運送費ノ比較的僅少トナリシ理由ヲ以テ距離ノ元素ヲ廢スヘシトセハ重量又ハ容積ニ依ル區別モ亦當然廢止スヘキ如シト雖モ重量又ハ容積ハ郵便經費ノ大部分ヲ占ムル類別及集配ノ經費ト密接ノ關係ヲ有スルノミナラス全然之カ差等ヲ設ケサルトキハ郵便制度ノ利用者ヲシテ濫用ノ弊ヲ生セシムルノ虞アルカ故ニ賃率ノ決定上今尙ホ重要ナル標準トシテ存在スル所ナリ然レトモ是レ亦制度ノ進歩ト共ニ漸ク其階級ヲ少ナクシ且又各階級間ニ存スル料金ノ差額ヲ減少シ以テ漸次統一的制度ニ近キツツアルハ爭フヘカラサル事實ナリ蓋斯ノ如ク線路距離及重量ニ關スル區別ヲ廢止若ハ減少スルニ依リテ著シク其取扱ニ關スル手數ヲ省キ從テ郵便ニ關スル經費ヲ節約シ得ヘケレハナリ

次ニ今日最モ重要ニシテ又漸ク重要ノ程度ヲ加フル所ノ標準ハ郵便物ノ性質ナリトス郵便物ノ性質ニ依リテ郵便料金ノ高低ヲ分ツハ一ハ其種類ニ依リテ之カ安全ヲ確保スルノ必要ニ差アルカ爲メニ經費ノ多少ニ影響ヲ及ホスカ爲メナリ例ハ信書ノ如キ秘密ヲ要シ且重要ナル事項ヲ包含スルモノハ其監督上自ラ他ノ

雜書類ニ比シテ經費ヲ増加スルヲ免レヌ然レトモ他ノ大ナル理由ハ應能提供ノ原則ヲ之ニ適用セントスルノ結果ナリ例ハ書狀ノ如キハ縱令其安全秘密ヲ保ツ爲メニ特別ノ注意ヲ要スルモ其集配運送ノ費用ニ至リテハ比較的極テ少ナシ之ニ反シテ新聞雜誌及小包郵便等ニ至リテハ其費用比較的多キニ拘ラス其賃率ハ却テ前者ニ高クシテ後者ニ低キハ全ク需要供給ノ關係及公益上ノ理由ニ基ク何ヲカ需要供給ノ關係ト云フ他ナシ是等信書以外ノ郵便物ハ其取扱ヲ政府ノ專掌ニ屬セシメサルカ故ニ自由競争ノ結果政府ノ專掌ニ屬スル信書等ト同一賃率ト爲スコト能ハサルコト是ナリ何ヲカ公益上ノ理由ト云フ他ナシ是等新聞雜誌等ノ郵便物ハ縱令夫ノ自由競争ニ堪ヘ得ルノ程度ニ於テ其賃率ヲ定ムルモ尙ホ今日ノ實際ニ比シテ其取扱高ノ著シク減少スルヲ免レヌ蓋是等ノモノハ之カ送達ニ關シテ自由競争ヲ許スト否トニ拘ラス之ヲ信書ニ比スレハ其人類生活上ノ必要途ニ少ナキカ故ニ其賃率ニシテ些少ノ高低アルモ之カ爲メニ其取扱高ニ著シキ影響ヲ及ホスヘケレハナリ故ニ是等國民ノ文化ヲ資クヘキ必要ナル手段ヲシテ成ルヘク低廉ニ全國ニ普及セシムルノ公益上極テ必要ナルカ爲メニ國家ハ一

方ニ其獨占權ノ結果トシテ又其本然ノ性質トシテ能ク比較的多大ノ負擔ニ堪ヘ得ル信書ノ賃率ヲ高ウシ新聞雜誌書籍等ノ賃率ヲ低ウシ前者ノ得ル所ヲ以テ後者ノ失フ所ヲ償ハシメ依テ以テ公益上ノ目的ヲ達セントスルハ即チ需要供給ノ關係ヲ利用シテ能ク應能提供主義ヲ茲ニ適用スル所以ナリ以上述フル所ハ主トシテ信書新聞雜誌及書籍等我國ノ郵便法ニ所謂通常郵便物ト稱スルモノ、賃率ニ關スルモノニシテ夫ノ時トシテ郵便事務中ニ包含セラルル旅客郵便及小包郵便等ニ至リテハ大ニ之ト其賃率ニ關スル原則ヲ異ニス而シテ是等ノモノニ付テハ線路距離等ノ問題ハ尙ホ重要ナル關係ヲ有ス少クトモ距離ニ付テハ其賃率ニ差等ヲ設ケサルヘカラサルハ自然ノ結果ナリ從テ小包郵便ニ付テハ信書ト殆ト同一視スヘキ極テ輕少ナルモノヲ除クノ外ハ距離及重量ニ比例シテ料金ヲ定ムルヲ常トス旅客ニ至テハ距離ノ如何ニ因リテ其料金ヲ異ニスヘキハ殆ト言フ俟タス蓋今尙ホ旅客郵便ヲ取扱フハ文明ノ程度低ク交通ノ便開ケサル所ニ限ルカ故ニ其取扱高極テ少ナク從テ其發達ノ程度尙ホ幼稚ノ域ニ在ルカ爲メナリ然レトモ小包及旅客郵便ニ付テモ漸ク其階級ノ數ヲ減シ以テ

統一ノ制度ニ近キツ、アルハ通常郵便物ト同一ノ傾向ヲ有ス是レ社會ノ進歩上當然ノ勢ニシテ最モ卑近ノ例ヲ以テセハ我等カ日常目撃スル市内ノ電氣鐵道ニ於ケル三錢均一ノ制度ノ如キハ最モ適切ノ實例ニシテ又如上ノ經濟的原則ニ依ルニ外ナラス

之ヲ要スルニ郵便ノ賃率ハ其全體ニ付キテ手数料主義ヲ採ルト營業主義ヲ採ルトヲ問ハス之ヲ各種ノ郵便物ニ付テ觀察スルニ或ハ遙ニ其經費ヲ超エテ一ノ獨占的收入トシテ租稅ノ性質ヲ有スルモノアリ或ハ又僅ニ其經費ヲ償フニ足ルカ若ハ其額ニ達セサルモノスラアルヲ免レス是故ニ郵便收入ノ財政上ニ於ケル性質ニ付テハ學者ノ論スル所區々ニ岐レ或ハ之ヲ以テ私經濟的收入トナス者アリ或ハ之ヲ以テ租稅中ニ列スル者アリ或ハ之ヲ以テ專業收入ノ一種ナリト説ク者アリ或ハ之ヲ以テ特權ニ基因スル收入即チ「レガリア」ナリト論スル者アリ或ハ又之ヲ手数料中ニ加フル者アリ斯ノ如ク種々ノ學說相對立スル所以ハ此複雜ナル種類ヲ包含スル郵便收入ヲ以テ簡單ナル一ノ種類トシテ説明セント企ツルノ誤ニ出ツルモノニシテ是等各種ノモノハ各其性質ヲ異ニシ到底一名義ノ下ニ包

括スルヲ得ヘキモノニアラス而シテ余カ茲ニ之ヲ私經濟的收入トシテ説明セントスルハ敢テ是等ノ全部ヲ以テ必スシモ私經濟的收入ト思惟スルカ故ニアラス唯各學者ノ之ヲ私經濟的收入トシテ論スルモノ多キト且是等ノ内私經濟的收入タル性質ヲ有スルモノアルノミナラス之ヲ全體トシテハ多クノ場合ニ於テ之ヲ私經濟的歳入ト見ルヲ適當トスルノ理由アルカ故ニ便宜上茲ニ之ヲ説明シタルニ過キス

以上郵便賃率ニ關スル主要ナル問題ヲ研究セリ以下少シク實例ニ就キテ其收入ト賃率トノ關係ヲ述ヘントス

交通機關ノ未タ發達セサル時代ニ於テハ郵便ノ經費巨額ニ上リ從テ其賃率比較的高カリシハ爭フヘカラサル事實ナリ而モ縱令賃率高シト雖モ其經費非常ニ多額ナルノミナラス又其利用ノ途充分ニ開ケサリシカ故ニ其總收入竝ニ純收入共ニ極テ少カリシコト疑ヲ容レス惟フニ社會ノ進歩ハ一方ニ於テ益之カ利用ノ途ヲ擴ムルト共ニ他方ニ於テハ愈其經費ヲ減スヘキカ故ニ他ニ特別ナル事情ノ存セサル以上ハ郵便ノ總收入ト純收入トハ共ニ年ヲ追フテ増加スヘキコト自然ノ

結果ナリ然ルニ各國何レモ其經費ノ減少スルニ從ヒ公益上ノ目的ヨリシテ漸次其貸率ヲ低減セル結果此趨勢時ニ或ハ中絶セラル、ノミナラス却テ一時減退スルノ傾ヲ呈スルコトナキニアラス一八四〇年英國ニ於テ「ペンニー」制度ヲ採用セル以來佛、澳、白及北米合衆國等相次テ貸率ヲ低減セル結果是等ノ諸國ハ其當時著シク郵便取扱高ノ増加セシニ拘ラス却テ其總收益及純收益ヲ減少スルニ至レリ就中其最モ著シキハ英國ニシテ一八四〇年ニ從來ノ料金ニ對シテ一躍七割五分ノ輕減ヲ行ヒタル結果一八三九年ニ於テ二百三十九萬磅ナリシ總收益ハ一八四〇年ニ至リ其四割三分ヲ減シテ百三十六萬磅トナリ又前年ニ百六十三萬磅ナリシ總收入ハ翌年ニ於テ殆ト七割ヲ減シテ五十萬磅トナレリ而シテ其總收益ハ十五年ノ後即チ一八五五年ニ至リテ始テ漸ク昔日ノ額ヲ超ユルヲ得又其純收入ニ至リテハ二十四年ノ歳月ヲ經一八六四年ニ及フマテ以前ノ額ヲ回復スルヲ得サリキ若シ夫レ社會自然ノ發達上前制度ヲ續行スルモ尙ホ且増加スヘキ取扱高ヲ計算中ニ加フルトキハ此改良ノ結果カ收入ノ減少ヲ來シタル高ハ更ニ一層甚シキモノアリト云ハサルヘカラス其他以上ノ諸國ニ於テ何レモ貸率低減ト共ニ收

入ヲ減少シタリト雖モ之ト同時ニ著シク取扱高ヲ増加シ英國ノ如キハ一八四〇年ニ於テ殆ト十二割ヲ増加セリ
 斯ノ如ク外國ニ於ケル實例ハ何レモ貸率ノ減少ト共ニ其郵便物數ヲ増加セルニ拘ラス其總收益及純收益ヲ減少セリト雖モ之ヲ以テ貸率ノ低減ニ伴フ必然ノ結果トナスヘカラス何トナレハ郵便物數ノ増加スルコトハ他ニ特別ノ事情ナキ限ハ之ヲ以テ貸率低減ニ因ル必然ノ結果ナリト云フコトヲ得ヘキモ其取扱高ノ増加ト共ニ其收入ヲ増加スヘキヤ將又却テ之カ減少ヲ來スヘキヤハ一ニ其貸率變更ノ程度如何及其當時ニ於ケル國民經濟上ノ狀態如何ニ依リテ岐ルヘキモノナレハナリ
 我國ニ於テハ全ク以上ノ例ニ反シ戰後財政計劃ノ一トシテ明治三十二年郵便及電信收入ノ増加ヲ圖リ信書ノ料金ニ對シ五割ノ増率ヲ斷行セル結果トシテ多少其取扱高増加ノ比例ヲ減少セリト雖モ(絶對的ノ取扱數ハ依然トシテ増加セリ)著シク其收入ヲ増加セリ蓋當時ノ増率ハ單純ナル増率ニアラスシテ一方ニ増率ヲ行フト共ニ他ノ一方ニ於テハ重量ニ關スル範圍ヲ擴メ特ニ新聞雜誌等ニ付テハ

別ノ理由アルカ故ニ其大部分ハ今尙ホ依然トシテ私立會社ノ經營スル所タリ
郵便ヲ以テ官業トスルヲ可トスル理由ハ又移シテ以テ電信ヲ官業ト爲スノ理由
トスルニ足ル殊ニ郵便ヲ以テ官業トスル以上ハ此兩者ヲ同一ノ手ニ經營セシム
ルハ經濟上最モ有利ノ方法タリ何トナレハ其事業ノ性質兩者最モ相近似スルノ
ミナラス其事業ノ範圍モ亦同一ナルヲ以テ各地ノ郵便局ハ之ヲ以テ同時ニ電信
局ニ充ツルコトヲ得ヘク又郵便局官吏ヲシテ同時ニ電信事務ヲ扱ハシメ兩者共
通シテ著シク資本ト費用トヲ節約スルコトヲ得ヘキカ故ナリ然ルニ郵便ノ專掌
ニ付テハ昔ニ各國實例ノ一致スルノミナラス理論上亦其當否ニ付キテ疑ヲ挾ム
者ナシト雖モ電信ニ關シテハ前ニ述ヘタルカ如キ民業ノ實例存スルノミナラス
學者間ニ於テモ之カ官營ニ反對ヲ唱フル者アルハ二者ノ間ニ多少性質上ノ差異
アルカ故ナリ今官業反對論者ノ理由トスル所ヲ見ルニ

第一 電信事業ハ郵便事業ト異リ私立會社ノ手ニ於テ充分ニ成功ヲ奏スヘシ殊
ニ海底電信ニ付テハ其多數ハ私立會社ノ營ム所ニシテ著々トシテ其成功ヲ示
セリ

第二 電信ハ郵便ト異リ資本ヲ要スルコト多大ナルカ故ニ政府ハ動モスレハ資
本ニ對スル利子ヲ以テ純益ト混同シ財政上不利益ナル處置ヲ執ルコト少カラ
ス

第三 電信ハ郵便ト其趣ヲ異ニシ充分ニ收益遞増ノ原則ノ行ハル、モノニアラ
ス從テ事業ノ統一ニ依リテ得ル所ノ範圍極テ少ナシ

第四 電信カ財政上不得策ナルハ事實ノ證明スル所ナリ此事タルヤ郵便ト電信
トヲ兼業スル政府ニ於テハ其關係ヲ明ニスルコト能ハサルモ其區劃ヲ明ニス
ルモノニ付テ一見明瞭タル事實ナリ

第五 此他電信官營ニ關シテハ財政上ヨリモ寧ロ經濟行政上ヨリシテ反對スヘ
キ理由アリ即チ電氣ニ關スル智識ノ進歩ト共ニ其技術ヲ改良スルハ官業ノ場
合ニ於テハ民業ニ比シテ甚タ劣ル所アリ

以上ノ反對論ハ必スシモ絶對ノ理由トスルヲ得ス何トナレハ論者自身モ認ムル
カ如ク此議論ハ主トシテ例ヲ英國ニ採レルカ故ニ之ヲ以テ廣ク一般ニ付キテ推
論スルヲ得サルノミナラス其第二點ノ如キハ或場合ニ於テハ寧ロ却テ官業反對

増率ナクシテ却テ重量ニ關スル制限ヲ緩メタルカ故ニ其改正ハ極テ複雑ナルモ
 ノアリ是ヲ以テ直ニ前述諸外國ノ例ニ比スヘカラスト雖モ其措置タル能ク應能
 提供ノ原則ヲ適用シテ國家ノ收入ヲ圖ルト同時ニ公益上ノ目的ヲ達スルコトニ
 於テ成功シタルモノト云ハサルヲ得ス今參考ノ爲メニ我國ニ於ケル最近ノ郵便
 收支ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

最近六個年間通常郵便收入支出累年比較表

年度	收 入	支 出	收入超過		前年度ニ對スル增加率	
			收入ニ對スル 支出ノ割合	收入	支出	
三十六年度	一二、一二七、二七三	八、〇〇一、三九一	四、一二五、八八二	六、六	〇、四五	〇、二〇
三十五年度	一一、六〇九、六七九	七、八四〇、八八五	三、七六八、七九三	六、八	〇、八七	〇、七六
三十四年度	一〇、六七七、九三六	七、二八六、〇三〇	三、三九一、九〇六	六、八	〇、一六	一、〇一
三十三年度	一〇、五〇八、九九四	六、六一六、九二三	三、八九二、〇七一	六、三	〇、八九	〇、九九
三十二年度	九、六四八、四三六	六、〇二二、七八七	三、六二五、六四八	六、二	三、二三	一、八七
三十一年度	七、二九四、八五〇	五、〇七三、二四〇	二、二二一、六一〇	七、〇	一、〇九	一、八一

電信及電話

第三款 電信及電話

電信及電話ハ共ニ電氣ノ作用ニ依リテ意思ヲ通スルノ方法ニシテ交通業中ニ於

テ其性質上郵便殊ニ信書ノ郵便ト其種類ヲ同ウス從テ郵便ト共ニ政府ニ依リテ
 經營セラル、ヲ常トス

電信及電話ハ共ニ科學的發明ノ結果ニシテ夫ノ郵便等ニ比較セハ其由來極テ新
 ナルコト言ヲ俟タス最モ早ク電信ヲ公衆通信ノ用ニ供シタルハ英國ニシテ一八
 三七年ヨリ九年ニ至ル間ニ政府ノ特許ヲ得タル私立會社ニ依リテ架設セラレタ
 リ次テ米國ニ於テハ一八四四年ニ同シク私立會社ノ手ニ依リテ公衆電報ヲ取扱
 フヘキ電信ヲ設ケ次テ埃獨兩國ニ於テハ一八四九年、佛國ニ於テハ一八五一年ニ
 何レモ官設ノ電信ヲ架設セリ而シテ英國ニ於テハ漸ク民設電信ニ反對ノ聲ヲ高
 メ一八七〇年ニ至リ政府ハ遂ニ總テノ電信ヲ買收シテ電信事業ヲ官設トスルニ
 至レリ我國ニ於テハ明治ノ初年官設ノ主義ヲ採用シ遂ニ全國至ル所ニ官設ノ電
 線ヲ見ルニ至レリ米國ニ於テモ輿論ハ既ニ官營ヲ是認スト雖モ未タ之ヲ實行ス
 ルニ至ラサル所以ノモノハ夫ノ國ニ於テハ私立電信會社ノ勢力尙ホ甚ク強大ナ
 ルカ故ナリ斯ノ如ク特別ノ事情アルモノヲ除キ多數ノ國ニ於テハ電信事務ハ之
 ヲ官業トシテ政府ノ經營スル所ナレトモ夫ノ海底電信ニ至リテハ國際關係上特

別ノ理由アルカ故ニ其大部分ハ今尙ホ依然トシテ私立會社ノ經營スル所タリ
郵便ヲ以テ官業トスルヲ可トスル理由ハ又移シテ以テ電信ヲ官業ト爲スノ理由
トスルニ足ル殊ニ郵便ヲ以テ官業トスル以上ハ此兩者ヲ同一ノ手ニ經營セシム
ルハ經濟上最モ有利ノ方法タリ何トナレハ其事業ノ性質兩者最モ相近似スルノ
ミナラス其事業ノ範圍モ亦同一ナルヲ以テ各地ノ郵便局ハ之ヲ以テ同時ニ電信
局ニ充ツルコトヲ得ヘク又郵便局官吏ヲシテ同時ニ電信事務ヲ扱ハシメ兩者共
通シテ著シク資本ト費用トヲ節約スルコトヲ得ヘキカ故ナリ然ルニ郵便ノ專掌
ニ付テハ管ニ各國實例ノ一致スルノミナラス理論上亦其當否ニ付キテ疑ヲ挾ム
者ナシト雖モ電信ニ關シテハ前ニ述ヘタルカ如キ民業ノ實例存スルノミナラス
學者間ニ於テモ之カ官營ニ反對ヲ唱フル者アルハ二者ノ間ニ多少性質上ノ差異
アルカ故ナリ今官業反對論者ノ理由トスル所ヲ見ルニ

第一 電信事業ハ郵便事業ト異リ私立會社ノ手ニ於テ充分ニ成功ヲ奏スヘシ殊
ニ海底電信ニ付テハ其多數ハ私立會社ノ營ム所ニシテ著々トシテ其成功ヲ示
セリ

第二 電信ハ郵便ト異リ資本ヲ要スルコト多大ナルカ故ニ政府ハ動モスレハ資
本ニ對スル利子ヲ以テ純益ト混同シ財政上ノ利益ナル處置ヲ執ルコト少カラ
ス

第三 電信ハ郵便ト其趣ヲ異ニシ充分ニ收益遞増ノ原則ノ行ハル、モノニアラ
ス從テ事業ノ統一ニ依リテ得ル所ノ範圍極テ少ナシ

第四 電信カ財政上不得策ナルハ事實ノ證明スル所ナリ此事タルヤ郵便ト電信
トヲ兼業スル政府ニ於テハ其關係ヲ明ニスルコト能ハサルモ其區劃ヲ明ニス
ルモノニ付テ一見明瞭タル事實ナリ

第五 此他電信官營ニ關シテハ財政上ヨリモ寧ロ經濟行政上ヨリシテ反對スヘ
キ理由アリ即チ電氣ニ關スル智識ノ進歩ト共ニ其技術ヲ改良スルハ官業ノ場
合ニ於テハ民業ニ比シテ甚タ劣ル所アリ

以上ノ反對論ハ必スシモ絕對ノ理由トスルヲ得ス何トナレハ論者自身モ認ムル
カ如ク此議論ハ主トシテ例ヲ英國ニ採レルカ故ニ之ヲ以テ廣ク一般ニ付キテ推
論スルヲ得サルノミナラス其第二點ノ如キハ或場合ニ於テハ寧ロ却テ官業反對

論ニ對スル攻撃ノ一材料トナスコトヲ得ヘケレバナリ蓋一方ニ於テ動モスレハ資本ニ對スル利子ト純益トヲ混同スルハ特ニ電信ニ關シテ新ニ増加シタル費用ト看做スヘカラサルモノ、存在スルカ爲メニシテ其然ル事情ノ存スル所以ノモノハ即チ郵便ニ關スル既存ノ資本及勢力ヲ直ニ電信ノ事業ニ利用スルノ餘地ニ當ムヲ示シ又他ノ一方ニ於テハ寧ロ全然之ニ反シテ電信ニ關シテハ將來ノ新營改良ノ爲メニ費ス所ノ資本ヲ經費ト混同シ純收入ヲ測定スルコト却テ少ナキニ失ストノ說ヲ唱フル者サヘアレハナリ唯茲ニ注意スヘキハ第三點ニ關スル議論ナリ蓋電信ノ收入カ郵便ノ收入ト其性質上異ル所アルハ免ルヘカラサル數ニシテ兩者ノ差異ハ主トシテ此點ニ在リ

電話ハ電信ニ比スレハ其利用ノ日一層淺ク且私設ニ屬スルモノ多シ之ヲ官設トセルハ一八八一年ニ獨逸帝國ノ郵便局ニ於テ之ヲ電信ノ附屬事業トナシタルヲ以テ始トス電話ハ其極テ短距離ノ間ニ行ハレ且其利用者極テ少數ナル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ官設トスヘキノ理由ナシト雖モ其距離長ク且其利用者ノ數多キニ從ヒ漸ク之ヲ官營トスルノ必要ヲ増スニ至ル我國ニ於テハ初ヨリ官營主義

ヲ採リ明治二十三年以來之ヲ開始セリ

之ヲ要スルニ郵便、電信、電話ノ三者ヲ比較スレハ其間ニ理論上之ヲ官營トスルノ必要及實際上ニ於テ之ヲ官營スルノ程度ニ付キテ差異アルヲ見ルヘシ蓋利用ノ途ニ大小廣狹ノ差アルカ故ニ之ヲ獨占の事業トスル必要ノ程度ニ等差アルカ故ナリ而シテ實際ノ現象ハ明ニ此經濟的原則ヲ説明スルモノト云フヘシ然レトモ電信、電話等ニ付テモ今後益利用ノ途擴張セララル、コト明白ナルヲ以テ是レ亦今日ニ於テ既ニ郵便ト同シク之ヲ國家ノ獨占ニ歸セシムルヲ以テ財政上又經濟上最モ策ノ得タルモノトスヘキハ疑ヲ容レサル所タリ我政府カ電信、電話ニ付キテモ亦初ヨリ專掌主義ヲ採用セルハ寧ロ文明國ノ他ノモノヨリ進歩シタル措置ニシテ最モ事宜ニ適セル政策ナリト云ハサルヘカラス我電信法(明治三十三年五月法律第五十九號)第一條ニ於テハ明ニ此主義ヲ規定シ又其第二條ニ於テ特別ノ場合ニハ一個人ノ專用ニ供スル爲メニ私設ノ電信、電話ヲ設クルコトヲ許セルハ信書ノ送達營業ヲ禁止セルト同一ノ趣旨ニ出ツルモノニシテ營業ノ目的ニ出テサル電信、電話ヲ絶對ニ禁スルノ理由ナキカ故ナリ且其第三條ニ於テ特別ノ場合ニ是等私設ノ電信

電話ヲ公衆通信又ハ軍用ニ供セシムルコトヲ得ト規定セルハ一國ノ資本ヲ經濟的ニ利用スル上ニ於テ必要ナル手段ト云ハサルヲ得ス

次ニ電信ノ收入ニ關シテ一言説明ヲ與ヘントス電信電話ノ料金ニ付テモ亦郵便ノ料金ト同一ニ論スルコトヲ得唯其性質上ノ差異ニ因リ其間多少關係ヲ異ニスルモノアリ今其異レル主要ノ點ヲ舉クレハ

第一 電信電話ハ郵便ニ比シテ一層多額ノ資本ヲ要ス

第二 電信電話ハ郵便ノ如ク收益遞増ノ原則完全ニ行ハル、コト能ハス 此差異ヲ生スル理由ハ電信電話ノ場合ニ於テハ個々ノ通信カー々取扱者ノ手ヲ煩シ郵便ノ如ク同時ニ多數ノ通信ヲ取扱フコト能ハサルカ故ナリ從テ郵便ニ於テハ其取扱高ノ増加ニ比例シテ其經費ハ比較的減少スルニ反シ電信電話ニ於テハ個々ノ通信ニ付キ各個ノ經費ヲ要シ其通信數ノ増加ニ比例シテ漸次經費ヲ減少スルノ範圍極テ少ナシ是レ收益遞増原則ノ適用ヲ妨タル所以ナリ

第三 前項ノ理由ノ結果トシテ電信電話ノ料金ニ付テハ其統一ハ郵便ニ比シテ進歩ノ遲緩ナルヲ免レス然レトモ電信ニ關シテハ既ニ距離ノ問題ハ重要ナラ

ス我國ニ於テハ一市内ノモノニ限リテ特別ノ料金ヲ徵收スルモ市外ニ於テハ遠近ニ依リ其料金ニ等差ヲ設ケス之ニ反シテ電話ニ至リテハ今尙ホ距離ノ遠近ハ其費率ニ大ナル影響ヲ及ボサ、ルヲ得ス是レ一ニハ距離ノ遠キニ從ヒテ其接續、交換等ニ手數ト費用トヲ要スルコト多キニ因ルト雖モ其主タル原因ハ需要供給ノ關係上未タ距離ノ區別ヲ除クノ域ニ達セサルカ爲メナリ蓋電信ト電話トハ其效用同シカラサルカ故ニ若シ電話ノ料金ニシテ全國均一ナランカ其距離ノ遠キニ從ヒテ其需要ハ電信ニ比シテ愈多ク電話事務ノ擴張ニ伴ヒテ電話ハ愈電信ヲ壓倒スヘク而モ政府ハ到底斯ル多大ノ需要ニ應スヘキ設備ヲ爲スコト能ハサルヘケレハナリ

第四 電信ハ郵便ノ如ク其通信ノ分量換言スレハ語數ノ多少ニ依リテ其料金ヲ異ニス而シテ其徵收ノ方法ニ關シテ二種ノ別アリ即チ全然語數ニ比例シテ料金ノ多少ヲ定ムルモノ及一定ノ語數ニ對スル最低價格ヲ定メ其以上ノ語數ニ付テハ比例法ヲ採ルモノ是ナリ我國ニ於テハ後者ヲ採用セリ又電話ニ至リテモ一定ノ加入料ノ外ニ現實ニ使用セル度數ニ應シ料金ヲ徵收スルモノト

確定ノ使用料ヲ徴收スルモノトノニアリ我國ニ於テハ是レ亦第二ノ方法ヲ探用セリ

第五 電信、電話殊ニ電話ニ付テハ其利用ノ範圍國民全體ノ數ニ比例シテ極テ少數ナリ今日ノ文明ノ程度ニ於テハ過去ノ或時代ニ於ケルカ如ク之ヲ以テ一ノ者修ト見ルヘカラサルモ郵便ニ比スルトキハ公衆通信ノ機關タル程度未タ極テ低シト云ハサルヘカラス而シテ其利用者ハ比較的ニ資力アル者ニ限ラレ且其特種ノ利用價值頗ル大ナルヲ以テ郵便ニ比シテ一層收益的ニ管理スヘキノ理由アリ從テ其料金ハ郵便ニ比シテ其經費ノ額ニ超ユルコト一層大ナルヲ可トスヘシ

以上郵便ノ料金ト電信、電話ノ料金トノ間ニ於ケル差異ノ重ナルモノヲ述ハタリ其他ノ點ニ付テハ書テ郵便ニ關シテ説明セル所ニ依リテ之ヲ類推スルヲ得ヘシ我國ニ於テハ明治三十二年郵便收入ト同シク電信、電話ノ賃率ヲ引上ケタルモ其結果ハ大體ニ於テ郵便ヲ異ル所ナキカ故ニ今特ニ之ヲ説明セス今參考ノ爲メニ最近我國ノ電信收支ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

最近六ヶ年間電信收入支出累年比較表表中△印ハ不足又ハ減少ヲ示ス

年度	收入	支出	收入過不足	前年度ニ對スル増減率
三十六年度	四、九〇七、二七五	四、〇七〇、三一八	八三六、九五七	△〇、九三
三十五年度	四、三一四、六七三	四、四八六、〇五九	△一七一、三八六	〇、五八
三十四年度	四、〇七七、〇〇四	四、三六五、〇四八	△二八八、〇四四	〇、七
三十三年度	四、三〇七、〇八二	四、〇〇七、五二四	二九九、五五八	〇、八九
三十二年度	三、七五三、〇一一	三、四四二、二一一	三一一、八〇〇	一、四八
三十一年度	三、二五四、七二七	二、七三四、一五六	五二〇、五六一	一、五三

第四款 鐵道

第一項 總說

現今ノ組織ニ於ケル鐵道ノ起源ハ前世紀ノ前半ニ在リ一八二八年北米合衆國ハルチモニア、オハイオ間ニ於テ始テ鐵道ノ布設ヲ見次テ一八三〇年ニ至リ英國ノリゾーアブル、マンチエスタール間ニ之ヲ布設シ爾來七十餘年ノ間ニ於テ益々世界各國ニ延長セラレ今ヤ殆ト五十萬哩ノ多キニ達セリ而シテ鐵道カ他ノ交通機關ト相俟テ近代ノ文明ニ貢獻シタル所多キハ今更論スルヲ要セザル所ニシテ近世ノ社

會的經濟的組織ハ實ニ是等ノ交通機關ヲ基礎トシテ成立セルモノト云ハサルヘカラス加之近代ノ國家ハ政治上若ハ軍事上國權ノ發展ヲ是等交通機關ニ藉ラサルヘカラスアルカ故ニ實際家ハ勿論學者ノ近來之ヲ論スル者多キコト寔ニ偶然ニアラサルナリ斯ノ如ク各國何レモ鐵道ニ關シテ密接ナル關係ヲ有スト雖モ其關係ノ疎密ニ至リテハ國情ニ依リテ自ラ異ル所アリ今簡短ニ各國ノ狀況ヲ述ヘ然ル後鐵道ニ關スル財政上ノ問題ヲ研究セント欲ス

第一 英吉利 世界ニ於テ最モ早ク鐵道ヲ建設セル英米兩國ハ鐵道ニ付キ共ニ自由放任ノ主義ヲ採用セリ抑モ英國ハ夫ノ自由放任ノ經濟學說ノ根據地ニシテ總テノ事皆之ヲ自由ノ競爭ニ放任スルヲ以テ最モ公益ニ適スルモノト信シタリ鐵道ニ付テハ他ノ各種ノ產業ニ關スルモノニ比スルトキハ稍干涉的政策ヲ採リタルモ尙ホ他國ノ政策ニ比スルトキハ之ニ及ハサルコト遠シ而シテ英米兩國ノ主義ニ依レハ鐵道業ハ元來一ノ營業ニシテ其性質上他ノ農工商業ト何等ノ擇フ所ナシ唯之ヲ建設スルニ付キ特權ヲ付與スルノ必要上之カ爲メニ特ニ立法的ノ行動ヲ必要トスルニ止ルモノトセリ故ニ英國ニ於テハ始テ鐵道

ヲ布設スルニ當テ之ヲ舊來ノ國道ト同一視シ之ニ適用スルニ從來「ダーンバイク、トラスト」私設道路ニ關シテ開設者カ關門的ニ通行料ヲ徵收セル制度及運河會社ニ關シテ適用シ來レル法律ヲ以テセリ從テ軌道ハ恰モ國道ノ如ク看做サレ瀛車ヲ所有シテ之ヲ通行セント欲スル者ハ何人ト雖モ一定ノ料金ヲ徵シテ之ヲ許スヘキモノトセリ而シテ軌道ノ所有者ト瀛車ノ所有者トハ同一ナルヘカラスト云フカ如キ規定ヲ設ケタルコトハ今日ヨリ見レハ極テ奇異ノ感ナキヲ得ス斯ル政策ノ到底實行スヘカラサルハ固ヨリ其所ニシテ當時重ナル政治家カ鐵道ヲ以テ自由競爭ニ一任スヘキモノトスル從來ノ學說ノ誤謬ナルヲ發見シ夫ノモリソン氏ノ如キハ既ニ一八三六年ニ於テ鐵道ハ自然的獨占的事業ナリトノ理ヲ説明スルニ至レリ然レトモ當時未タ充分ニ鐵道ニ關スル取締法ノ設ナキト其自由放任主義ノ爲メニ鐵道盛ニ各地ニ布設セラレ殊ニ一八四四年銀行條例ノ改正ニ伴フ金融ノ緩漫ニ因リテ一層其勢ヲ助長シ遂ニ一八四四年ヨリ七年ニ亘リ有名ナル鐵道熱ノ勃興ヲ見タルノ結果一八四七年ニ至リ非常ナル恐慌ヲ來シ鐵道ノ布設ニ一頓挫ヲ見タリ是ニ於テカ營業者ハ競爭ノ自

家ニ不利益ナルヲ覺リ政府モ亦自由競争ノ公益ヲ保護スル所以ノ途ニアラザルヲ知リテ各地ノ鐵道會社相次テ合同スルニ至レリ爾來英國ニ於テハ屢鐵道委員會ヲ組織シ鐵道ニ關スル政策ノ利害ヲ調査セシメタルカ是等ノ調査ノ結果漸ク鐵道ノ獨占的性質ヲ認メ其取締ノ必要ナルヲ主張セシカ故ニ國家ノ干涉的政策次第ニ其歩ヲ進メ就中一八五四年ヲ以テ嚴重ナル取締規則ヲ設クルニ至レリ然レトモ英國ノ政策ハ單ニ鐵道線路ノ選定建設及營業ノ方法若ハ賃金ノ割合等ニ關シテ一定ノ制限ヲ設ケ行政官廳ヲシテ之ヲ監督セシムルニ過キス學者ハ大體ニ於テハ國有說ヲ主張スル者ナキニアラサレトモ其事業ノ經營ニ至リテハ當初ヨリ全ク私人ニ一任シ國家ハ毫モ之ニ關係スル所ナシ從テ英國ノ鐵道ニ付キテハ其經濟政策以外ニ於テ財政上特ニ研究スヘキ問題少ナシ

第二 佛蘭西 佛國ハ英國ト大ニ其趣ヲ異ニシ國家ハ最初ヨリ鐵道事業ニ付キテ積極的ノ方針ヲ採用セリ蓋同國ハ從來交通機關ノ發達セル國ニシテ旅客ノ運送ニ關スル事業モ郵便制度ノ一部トシテ革命時代ニ至ルマテ實行セラレ其

他道路運河等皆國家ノ事業トシテ營マレタレハナリ一八三五年政府ハ國家ノ經營上將來全國各地ニ鐵道ヲ布設スルノ必要ヲ認メ夫ノ有名ナルチエールカ國會ノ承認ヲ經テ之カ計劃ノ調査ニ從事セリ而シテ一八四二年政府ハ始テ九箇ノ會社ニ鐵道布設權ヲ付與シ一定ノ條件ヲ以テ其鐵道建設ヲ補助セリ今政府ト鐵道會社トノ關係ニ付キ其重要ナル點ヲ舉クレハ政府ハ鐵道ノ布設ニ必要ナル土地ヲ供給シ其他軌道ヲ建築スルニ必要ナル費用ハ主トシテ政府ノ負擔トシ唯一定ノ割合ヲ以テ會社ヲシテ其費用ノ一部分ヲ負擔セシメ會社ハ軌條車輛及其他運轉ニ必要ナル資本ヲ供給スルモノトシ而シテ政府ハ會社ヲシテ毎年配當金ノ外ニ會社ノ純益金ノ幾分ヲ國庫ニ納メシムルコト、シ若シ會社ノ純益カ配當及資本ノ消却金ニ滿タサルトキハ政府ハ最モ寬大ナル方法ニ於テ其不足額ヲ會社ニ貸付スルコト、セリスノ如クニシテ開業後一定ノ年限ヲ經ルトキハ政府ハ其會社カ出捐セル資本ニ對シテ相當ナル補償ヲ與ヘテ其鐵道ヲ政府ノ有ニ歸セシムルノ條件ヲ附シタリ其期限ハ最初ハ開業後五十年ト定メタリシカスル條件ハ到底鐵道ノ建設ヲ獎勵スルニ足ラサルヲ發見セル結

果最後ニ九十九年ノ長期間ヲ與フルコト、セリ其他政府ハ開業後十五年ヲ經過セハ一定ノ方法ニ依リテ評價セラレタル代價ヲ以テ鐵道ヲ政府ノ手ニ買上ケ其營業年限ノ殘期間ハ毎年一定ノ金額ヲ會社ニ付與スヘキモノトセリ斯ル重大ナル補助ヲ受クル報酬トシテ會社ハ或ハ無報酬ニテ郵便、電信其他官廳ノ用務ヲ辨シ若ハ低廉ナル料金ヲ以テ官廳ノ物品ヲ運送スヘキ義務ヲ負擔セリ斯ノ如クシテ一八七一年ノ普佛戰爭後政府ハ益鐵道布設ノ急ヲ感シ一八七八年ニ或私設線路ヲ買收シ自ラ之ヲ管理シ且將來ニ向テ國有鐵道布設ノ大計劃ヲ企テタリシカ資本ノ缺乏ニ苦ミ遂ニ一八八三年ニ至リテ各私立會社ト協定ノ結果全國七條ノ幹線中政府ハ最モ不利益ナル一線ヲ引受ケ他ノ重要ナル六線ハ總テ會社ノ有ニ歸スルニ至レリ斯ノ如キ事情ヨリシテ佛國ノ國有鐵道ハ現在ニ得ル所ノ利益最モ少ナク且特ニ補助利子トシテ政府ノ支拂フモノ亦少カラス從テ從來財政上重大ナル負擔タルヲ免レサリシモ前述ノ如ク同國ニ於テハ私設鐵道ニ關シテ歸屬主義ヲ採用スルカ故ニ將來是等ノ鐵道ハ國家ノ所有ニ歸スヘク從テ又政府カ毎年支出スル金額ハ必スシモ之ヲ以テ損失ト認ム

ヘカラス加之是等ノ補助利子ハ四箇ノ會社ニ對シテハ一九一四年他ノ二會社ニ對シテハ即チ一九三四年及五年ニ於テ其年限盡クルヲ以テ同時ニ國庫ノ負擔ハ著シク減少スヘク又六會社ノ特許營業年限ハ一九五〇年ヨリ六〇年ニ於テ何レモ滿期トナルヘキカ故ニ今後五十年ヲ經過セハ佛國政府ハ鐵道ヨリシテ大ナル歲入ヲ得ルノ時期到來スヘキコト從來彼國財政家ノ唱道スル所ナリ

第三 白耳義 白耳義ハ一八三四年官設鐵道ヲ布設シタリ蓋世界ニ於ケル官設鐵道ノ嚆矢ナリ思フニ同國ハ其地理的關係ヨリシテ商業ヲ以テ立國ノ基礎トスルノ必要ヲ認メ先ツ之カ必要ナル機關トシテ他國ニ率先シテ國有鐵道ヲ布設シタリ而シテ爾來益之ヲ延長スルノ必要上私設ノ線路ヲ許セル結果是等ノ私設鐵道ハ相互ニ競爭スルノミナラス官設鐵道ニ對シテモ亦競爭ヲ試ミ大ニ其收益ヲ減スルニ至リシヲ以テ之カ弊害ヲ除カンカ爲メ一八七一年ニ至リテ政府ハ私設線路ノ大部分ヲ買收シ自ラ之ヲ管理スルニ至リシモ其營業上收支相償ハス國庫ハ毎年莫大ノ損失ヲ免レサリシヲ以テ政府ハ已ムヲ得ス其質率

ヲ引上ケ近來ニ至リテ漸ク相當ナル收益ヲ見ルニ至レリ一九〇一年末ノ統計ニ依レハ白耳義ノ全國ニ於ケル鐵道ノ延長ハ二千八百四十三哩ニシテ其內政府ノ事業ニ屬スルモノ二千五百十三哩ナリ

第四 獨逸 獨逸ノ鐵道ハ最初主トシテ聯邦各國ノ補助ニ依リテ私立會社ノ手ニ建設セラレ又時トシテ各國政府自ラ建設セシモノアルモ當初之ニ付キテ何等統一的ノ計劃ナカリシ爲メ各聯邦政府ハ全國ニ對スル交通機關ノ統一ニ意ヲ留メス唯自國ノ便宜ニ基キ任意ノ線路ヲ選擇セリ斯ノ如ク同國ノ鐵道ハ初メ一定ノ主義ナク又主トシテ私立會社ニ依リテ建設セラレタルカ爾來各種ノ事情ハ各國ヲ刺激シ漸ク鐵道國有ノ利益ヲ覺ラシメ相次テ或ハ私設鐵道ヲ買收シ或ハ新ニ官線ヲ布設スルニ至レリ而シテ獨逸帝國ノ建設及貨幣並ニ銀行制度ノ統一ハ大ニ交通機關ノ發達改良ヲ促シ鐵道官有並ニ官營ハ早クヨリ輿論ノ認ムル所トナレリ是ヲ以テプロイセン政府ハ重ナル線路ヲ舉ケテ帝國ノ所有ニ歸セシメンコトヲ計劃セルモ各聯邦ノ之ヲ喜ハサルカ爲メ遂ニ其計劃ヲ廢シ盛ニ其國內ニ於ケル私設鐵道ヲ買收シ自ラ之ヲ管理セリ次テ他ノ小邦

ニ於テモ亦之ニ倣ヒ其國內ノ私設鐵道ヲ買收セルカ故ニ今日ニ至リテハ獨逸諸國中官設ニ比シテ私設ノ多キモノ唯一ノヘッセンアルノミ而シテ是等政策ノ結果甚タシク官設ヲ増加シ一九〇一年ニ於ケル獨逸國ノ廣軌鐵道ノ延長三萬九百七十四哩中私設ニ屬スルハ僅ニ二千五百八十七哩ニ過キス其他ノ線路ハ總テ帝國政府又ハ各聯邦政府ノ有ニ屬ス其割合ハ百分中官有九十一以上ヲ占ムルノ多キニ至レリ而シテプロイセンハ世界ニ於テ最モ鐵道國有制度ノ發達セルモノ、一ニシテ一九〇二年ノ統計ニ依レハ廣軌鐵道總哩數二萬一千百十哩中政府ノ所有又ハ管理ニ屬スルモノ一萬九千四百四十哩ニシテ私有且私營ニ屬スルモノハ一千六百七十哩ナリ此外國有ニ屬スル所ノ狹軌鐵道百十一哩アリ總テ是等ノ鐵道ヨリ生スル所ノ收入ハ非常ニ多額ニシテ一九〇二年度ノ豫算ニ依レハ實ニ十四億一千六百萬マルクニ達シ同國全歲入中ノ半ヲ超エタリ

第五 其他ノ歐洲諸國 以上ノ外ノ歐洲諸國ニ就テ見ルニ埃地利、匈牙利二國ニ於テハ初メ國有主義ヲ採リシカ其後一旦之ヲ私立會社ニ賣却シ近來ニ及テ再

國有主義ヲ採ルニ至レリ其茲ニ至リタル所以ハ一八七三年ニ於ケル財政困難ノ結果トシテ政府カ嘗テ私立會社ニ保障ヲ約シタル利子支拂ノ重大ナル負擔ニ堪ヘサルニ至リ其救済トシテ重ナル私設鐵道ヲ買收シタルニ因ル而シテ現今ニ於テハ官有鐵道ハ此兩國ニ於ケル鐵道ノ大部分ヲ占メ一九〇一年ノ統計ニ依レハ奧地利ノ鐵道總延長一萬九千九百六十六哩中其官有又ハ官營ニ屬スルモノ合計六千八百四十九哩ノ多キニ達シ匈牙利ニ於テハ全國ノ鐵道總延長一萬七千二百七十〔キロメートル〕中官有又ハ官營ニ屬スルモノ一萬四千二百九十六〔キロメートル〕ニ及ヘリ伊太利ニ於テハ官有鐵道ヲ政府ノ補給ヲ受クルニ大私立鐵道會社ニ貸貸セリ即チ地中海線及アドリヤ海線ノ兩會社はナリ而シテ此兩線競争ノ結果ハ結局政府ノ損失タルヲ免レス和蘭ニ於テモ近來此方法ニ倣ヒ官有鐵道ヲ私立會社ニ貸貸スルノ方法ヲ採レルモ此方法ハ適當ナル政策ト云フヘカラス次ニ露西亞ニ於テハ從來私立會社ニ利子ヲ保障シ之ニ依リテ全國鐵道ノ大部分ヲ建設シタリシカ近來ニ及テ大ニ官有鐵道ヲ増加スルニ至レリ統計ニ據ルニ一九〇一年十月一日ニ於ケル同國ノ鐵道總延長三萬六千

四百九十六哩ニシテ其中二萬九千七百八十八哩ハ歐羅巴露西亞ニ四千五百四十五哩ハ亞細亞露西亞ニ千七百六十二哩ハフィンランドニ屬セリ而シテ此中官有又ハ官營ニ屬スルモノ總テ二萬三千五百五十三哩ナリ斯ノ如ク露西亞ハ多クノ官有鐵道ヲ有スト雖モ其利益極テ少ナク一八八九年ニ於テハ約三千萬ルブルノ損失ヲ生シ一八九五年以來漸ク多少ノ收益ヲ見ルニ至リシカ其割合極テ僅少ナリ蓋夫ノシベリヤ鐵道ノ如キ之カ建設ノ爲メニ殆ト十億ルブル以上ノ資金ヲ費セシニ拘ラス其目的ハ主トシテ軍事上ニ存シ未タ之ヲ經濟上ニ利用スルノ時期ニ至ラサルカ爲メニ年々國庫ニ生スル損失極テ莫大ナレハナリ

第六 歐洲以外ノ諸國 南北兩米ニ於テハ鐵道ノ布設ヲ獎勵スルカ爲メ政府ニ於テ或ハ土地ヲ給與シ或ハ利子ヲ保障セルモノ多シ北米合衆國ハ世界中最モ多クノ鐵道ヲ有スルモノニシテ一九〇一年ニ於テ其總延長實ニ十九萬八千哩以上ノ多キニ達セリ而シテ理論トシテハ或ハ國有鐵道ノ主義ヲ唱ヘ或ハ又干渉的政策ノ利ヲ説ク者ナキユアラスト雖モ其實際ニ於テハ民有主義ヲ實行シ

且營業上ノ取締最モ寛大ナリ從テ同國ニ於ケル鐵道ハ英國ト同シク財政上特ニ論スヘキモノナシ次ニ加奈陀ニ於テハ英本國ト異リテ數多ノ國有鐵道ヲ有シ又南米ニ於テハ夫ノブラジル及ヒチリ一等ノ諸國ニ於テモ多少ノ國有鐵道アリ
 翻テ濠洲植民地ニ於テハ其鐵道多クハ各州政府ノ經營スル所タリ而シテ人口未タ稠密ナラサルカ故ニ其收入ハ財政上尙ホ未タ重ヲ成スニ至ラサルモ今後同地方ノ發達ニ伴ヒ漸次其收入ヲ増加スヘキコト疑ヲ容レサル所ナリ其一九〇一年ニ於ケル鐵道總延長ヲ見ルニ一萬三千五百哩以上ニ達シ其大部分ハ官有ニ屬セリ

印度ニ於テモ亦濠洲ト同シク政府ノ建設ニ係ルモノ多シ初メ私立會社ニ補給利子ヲ與ヘ之ニ依リテ數多ノ幹線ヲ布設シタリシカ後軍事上及饑饉救助上ノ必要ニ因リ漸ク官線ヲ布設セリ其後又財政上ノ必要ニ因リ官設ノ主義ヲ廢シ利子補給ノ主義ニ改メ前日ニ比シテ極テ低利ニシテ而モ期限附ノ補助ヲ與フルコト、セリ而シテ一九〇一年ニ於テハ其總延長二萬五千三百哩以上ニシテ其中官有又ハ官營ニ屬スルモノ一萬八千五百餘哩アリ斯ノ如ク英本國ニ於テハ今尙ホ民有主義ヲ實行シ尙ホ國民一般ニ保守的精神ニ富ムニ拘ラス其植民地ニ於テハ能ク新開地ニ適スル政策ヲ採用シテ膠ラサルハ吾人ノ最モ留意スヘキ所ナリ

第七 日本 我國ニ於テハ明治二年十月(一九〇六年)政府ハ鐵道布設ノ議ヲ決定シ東京神戸間ノ幹線ヲ初トシ其他主要ナル鐵道線路數百哩ヲ豫定シテ全國ノ鐵道建設ノ基礎ヲ定メタリ然ルニ當時人民未タ鐵道事業ノ智識ニ乏シク其利用ノ程度又ハ管理ノ方法等ヲ解セサルモノ多カリシカ故ニ民間敢テ自ラ進テ巨萬ノ資本ヲ投シ其布設ヲ試ミントスル者ナカリシヲ以テ政府ハ自ラ其經營ノ任ニ當ランコトヲ決シ明治三年中東京橫濱間及神戸大津間ニ起工シ前者ハ明治五年後者ハ明治十二年ニ竣功セリ初メ政府ノ採用セル鐵道政策ハ頗ル廣大ナル規模ニ依リ一定ノ計劃ヲ以テ著々其工事ヲ進行スルノ豫定ナリシカ國歩漸ク艱難ヲ來シ爲メニ鐵道事業モ一時殆ト之ヲ願ルノ遑ナキニ至レリ其後明治十一年ニ及ヒテ機運稍轉回セルモ尙ホ未タ充分ノ經營ヲ試ムルニ及ハザリシ

カ明治十七年度ヨリ初テ舊時ノ計劃ニ依リテ其工事ヲ進行スルヲ得明治二十五年ニ至リテ全ク最初ノ豫定線ノ落成ヲ告クルニ至レリ
 斯ノ如ク我國ノ鐵道ハ最初官設主義ヲ採リタルモ官設鐵道ノ實例ハ漸ク人民ノ之ニ對スル企業心ヲ誘發シ民間ニ於テ之カ布設ヲ計劃スルモノアルニ至リ
 明治十四年日本鐵道會社ニ對シ上野青森間ノ鐵道布設ヲ許可シタリ是レ實ニ我國ニ於ケル私設鐵道ノ濫觴タリ然レトモ該鐵道タル其線路極テ長ク規模頗ル廣大ニシテ工事ノ困難亦少カラサルノミナラス從來運輸上ニ充分ノ經驗ナキカ故ニ其收益ヲ精確ニ豫算スルコトヲ得ス從テ政府ノ保護ヲ受クルニアラサレハ到底其創立ヲ見ルヲ得サルノ事情アリシカ爲メニ政府ハ東京ヨリ青森ニ至ル特許條約ヲ以テ該會社ニ對シテ收益ノ擔保其他二三ノ補助ヲ與フヘキコトヲ許可セリ斯ノ如ク最初政府ハ日本鐵道ニ對シテ保護ノ政策ヲ採リタルモ是レ單ニ特別ノ必要アルモノニ對シテ特別ノ取扱ヲ爲シタルニ過キスシテ固ヨリ之ヲ以テ一般私設鐵道ニ對スル主義方針トシタルニアラス明治十七年以後ニ設立セラレタル阪堺鐵道以下ニ對シテハ斯ル特典ヲ付與セサルヲ以テ

原則トセリ明治二十年五月勅令第十二號ヲ以テ私設鐵道條例ヲ發布シ私設鐵道ニ關スル原則ヲ規定シ鐵道布設ノ免許及營業其他ニ關スル監督方法及公益上國家ニ對シテ負擔スヘキ會社ノ特別義務等ヲ規定シ且特ニ營業ノ期間ヲ定メタルモノハ其滿期後其期間ノ定ナキモノハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五年ヲ經過シタルトキハ政府ハ鐵道及其附屬物件ヲ買上クルコトヲ得ルモノトシ其代價ハ該會社ノ株式ノ最近五個年間ノ平均價格ニ依リテ之ヲ定ムルモノトセリ(此條項ハ後明治三十三年三月法律第六十四號私設鐵道法ヲ以テ更ニ其平均價格カ會社ノ利益配當額ノ二十倍ニ超ユルトキハ利益配當額ノ二十倍ヲ以テ買上價格トスト改メタリ)斯ノ如ク私設鐵道條例ハ日本鐵道ノ條例ニ比スルトキハ甚シク保護ノ程度ヲ減シタルモ文明ノ進步ハ益鐵道布設ノ必要ト利益トヲ増加シ爾來益各地ニ私設鐵道ノ布設ヲ見ルニ至レリ

斯テ一方ニハ政府ニ於テモ其鐵道ノ布設ヲ努メタリシカ明治二十五年六月法律第四號鐵道布設法及二十九年五月法律第九十三號北海道鐵道布設法ノ二法ヲ以テ全國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲メ漸次豫定ノ線路ヲ調査シ且建設ス

ルモノトセリ而シテ全國各地ノ主要ナル線路ヲ豫定シ又其必要ノ緩急ニ應シ之ヲ數期ニ分チテ布設スルコト、シ且其費用ハ所謂鐵道公債ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトセリ而シテ同時ニ私設鐵道ノ處分ニ關シテハ既成ノ私設鐵道ニシテ豫定線路ニ當リ其買收ノ必要アルモノハ之ヲ買上クルコトヲ得ルモノトシ又豫定線路中私設會社ニ布設ヲ許可セルモノハ會社ノ全線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲ爲シタル上ニアラサレハ之ヲ布設セサルモノトシ又豫定線路中政府ニ於テ未タ布設ニ著手セサルモノニシテ若シ私設鐵道會社ヨリ布設ヲ出願スル者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ爾來此最後ノ規定ニ依リ其豫定線路ニシテ私設鐵道會社ニ布設ノ許可ヲ與ヘタルモノ少カラス

斯ノ如ク我國ノ鐵道ハ最初官設ヲ以テ始リタレトモ當時全國ノ鐵道ヲ總テ官設ト爲スノ趣意ニアラス其後主要ナル線路ヲ官設線トシテ豫定シタルモ是レ亦私設鐵道ノ布設ヲ許可シタルコト前述セル所ノ如シ而シテ政府ハ明治二十四年中ニ一旦私設鐵道買收法案ヲ議會ニ提出シタリシモ遂ニ其通過ヲ見ルニ

至ラス且私設ノ鐵道ニ付テモ最初充分ナル保護ヲ與ヘタルモ其後之ヲ廢シタルヲ以テ鐵道ニ關スル我國ノ政策ハ官私兩線併行ノ主義ニシテ純然タル官有主義ニアラス又純然タル私有主義ニモアラス而シテ事實ニ於テハ財政ノ困難ハ屢官設ノ實行ヲ妨ケ現今私線ハ官線ニ比シテ極テ長シ今我國ニ於ケル鐵道ノ開業哩數増加ノ狀況ヲ舉クレハ官線ハ明治五年ノ十八哩ニ始リ私線ハ十六年ノ六十三哩ニ始レリ明治二十二年度ニ至リ官線五百五十哩私線五百八十五哩ニシテ兩者殆ト相匹敵セシカ翌二十三年度ニ至リ官線ハ前ノ如ク五百五十哩ナルニ私線ハ八百四十八哩ニ増加セリ爾來私線ハ官線ニ比シ遙ニ長足ノ進歩ヲ爲シ三十五年度末ニ於テハ官線千二百二十六哩餘私線三千〇十哩餘合計四千二百三十七哩餘ニ達シ其割合ハ官線二割八分九厘私線七割一分一厘トナレリ

以上述ヘタル所ヲ概括スレハ鐵道ノ建設ニ付キテハ各國ノ政策ニ自ラ二ノ主義アリ官設主義及私設主義即チ是ナリ前者ノ好例ハブローイセンニシテ後者ノ適例ハ英米兩國ナリ而シテ此兩者ノ中間ニ位スルモノハ或ハ官設私設ヲ併行シ或ハ

私設鐵道補助ノ方法ヲ採用ス而シテ其私設鐵道補助ノ主義ヲ採ルモノハ會社ニ對スル資金ノ贈與、利子ノ補給、各種租稅ノ免除、敷地ノ給與又ハ資金ノ貸付、其他株式ノ引受、殊ニ後拂株ノ引受等種々ノ保護ヲ與フルヲ常トセリ、次ニ鐵道ノ管理ニ關シテハ官營私營ノ兩主義アリ、官有鐵道主義ヲ採ルモノハ自ラ官營主義ニ依リ又私設鐵道主義ヲ採ルモノハ私營主義ニ從フハ一般ノ傾向ナリト雖モ而モ私有鐵道ニシテ官營ニ係ルモノアリ、官有鐵道ニシテ私營ニ係ルノ例ナキニアラス以下項ヲ分テ之カ利害得失ヲ説明スヘシ

第二項 鐵道官有又ハ官營ノ可否

前項ニ於テ説明シタルカ如ク鐵道ノ建設及管理ニ付テハ其主義ニ岐レタリト雖モ文明各國中如何ナル官有主義ノ實行者ト雖モ一ノ私有線ナキモノナク又如何ニ官營主義ヲ採用スル所ト雖モ一ノ私營線ナキモノアラス、交通業中鐵道ノ占ムル地位及其發達ノ跡ニ照セハ是レ蓋自然ノ結果ト云ハサルヘカラス、前述ノ如ク郵便、電信、電話等各種ノ事業ヲ比較スルニ其官營ノ程度ニ關シテ自ラ緩急ノ差アリ、此點ニ付テ鐵道カ尙ホ是等ノ事業ニ及ハサル所アルノ理由モ亦自ラ明ナル

鐵道官有又ハ官營ノ可否

ヘシ

鐵道ノ官有官營ニ關スル利害得失ハ久シク學者、實際家間ニ於テ議論ノ爭點タリシカ世論未タ必スシモ一ニ歸セリト云フヘカラス、今項ヲ分テテ兩說ノ主要ナル論點ヲ説明セント欲ス

第一 鐵道ノ官有及官營ヲ可トスル論者ノ主張

(甲) 財政經濟上ノ理由

(一) 鐵道ハ自然的獨占業ナリ、自然的獨占業ノ官業ニ適スルコトハ既ニ屢述ヘタル所ナリ而シテ鐵道カ其自然的獨占業タル主ナル所以ヲ舉示スル

(1) 鐵道ニ關シテハ自由競争ノ行ハル、餘地ナシ、鐵道ノ布設ハ總テ多額ノ資本ヲ要ス、從テ一ノ場所ニ於テ兩々相對立シテ競争ヲ試ムルカ如キ鐵道ヲ布設スルヲ得ス、縱令法律ニ於テ競争線ノ布設ヲ禁セサルモ是等一國ノ資本ヲ徒費スルカ如キ經濟上ノ利益ナル方法ハ事實ニ於テ發生スルヲ得ス、假ニ政府之ヲ許シ經濟上ノ事情亦之ヲ容ル、トスルモ二箇以上ノ

鐵道カ自由競争ニ依リテ永ク賃金ヲ低減セシムルコトハ多額ノ資本ヲ投シタル會社ノ事情ノ許サ、ル所ナリ從テ激烈ナル競争ノ結果遂ニ全ク一方ノ敗北ニ歸スルカ若ハ其合同ヲ見ルニ至リテ止ムヘシ夫ノ競争ノ不能ナル場合ニハ常ニ合同ノ行ハル、モノナリトノ經濟上ノ原則ハ鐵道ノ場合ニ於テ最モ著シキ所ナリ

(2) 鐵道ハ全國劃一ノ制ニ依リテ管理スルヲ必要トス 軌道ノ廣狹及客車貨車ノ大小其他運賃ノ高低發車時刻ノ繁閑等皆各線路ニ通シテ統一ノ制度ヲ設ケ同一ノ管理者ノ手ニ支配スルニアラサレハ充分ニ交通ノ便益ヲ望ムヘカラス縱合連絡運輸若ハ直通運輸等ノ方法ニ依リテ各線ノ間ニ多少ノ便益ヲ圖ルコトヲ得ヘシトスルモ到底全國ニ通シテ同一管理者ノ手ニ管理スルカ如キ偉大ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ス且之ヲ同一ノ管理者ノ手ニ歸スルニ依リテ著シク其經費ヲ減シ收益ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

斯ノ如ク鐵道ニ付キテハ同一ノ地方ニ競争ヲ見ルコト能ハス又全國ヲ通

シテ劃一ノ制度ヲ布クカ爲メニ自ラ鐵道ヲ一人ノ手ニ歸セシムヘシトセハ其獨占權カ社會經濟上ニ影響ヲ及ホスコト極テ大ナリ若シ之ヲシテ私利ヲ圖ルニ汲々タル私立會社ノ手ニ歸セシメンカ彼等ハ其特權ヲ濫用シテ經濟上非常ナル弊害ヲ流スヘキコト疑ヲ容レス能ク此獨占權ヲ利用シ之ヲ公益ノ目的ニ應用シ得ルモノハ唯國家アルノミ

(3) 鐵道ヲ全國ニ普及セシムルハ交通政策上最モ必要ナリ 今此鐵道事業ヲ舉ケテ私立會社ニ一任セハ彼等ハ單ニ利益アル地方ニノミ之ヲ布設シ利益少ナキ地方ハ措テ之ヲ顧ミス其結果斯ル利益少ナキ地方ニ於ケル鐵道ノ設備ハ遂ニ國家ノ負擔タルヲ免レス且私立會社ハ全國ニ通シテ統一スル所ナキヲ以テ各地方ニ於ケル鐵道布設ノ必要上自ラ其緩急ヲ誤ルコト多シ

(二) 國家ハ私立會社ニ比シテ資本ヲ得ルニ容易ナリ 國家ノ信用ヲ以テスレハ私立會社ニ比シテ頗ル低利ニ且多額ノ資本ヲ融通シ得ルヲ以テ若シ鐵道ヲ國有トシテ政府自ラ之ヲ經營スルトキハ裕ニ其資本ノ利子ヲ仕拂

ヒ得ルノミナラス他ノ一般ノ歳出ヲ補ヒテ餘アルヘシ且私設會社ハ専ラ金融市場ノ形勢如何ニ依リテ事業ノ難易ヲ來スヘシト雖モ國家ハ必スシモ之ニ關スルコトナク金融逼迫ノ際ニ於テモ尙ホ或程度マテハ之ニ堪フルコトヲ得ヘシ

(三) 官有鐵道ハ大ニ經費ヲ減スルコトヲ得 前述セル如ク統一的管理ニ依リテ經費ヲ節減シ得ルノ外ニ政府カ其官吏ニ仕拂フ俸給ハ會社ノ使用人ニ仕拂フ俸給ニ比シテ低廉ナルカ故ニ私立會社ニ比シテ大ニ其經費ヲ節減スルコトヲ得ヘシ

(四) 官有鐵道ノ運賃ハ低廉ニシテ且其取扱公平ナリ 政府ハ公益上ヨリ其實率ヲ定ムルヲ以テ縱令鐵道ニ付キテ獨占權ヲ有スルモ之ニ依リテ不當ノ利益ヲ占ムルコトナク且各人ニ對シテ愛憎偏頗ノ別ナク能ク公平ニ社會ノ便益ヲ期スルコトヲ得ヘシ

(五) 財政上ヨリスルモ亦官營ヲ可トス 鐵道ノ收益ハ極テ多額ナリ縱令鐵道ヲ以テ徒ニ收益ヲ圖ルノ手段ニ供スルヲ不可ナリトスルモ適當ノ程度

ニ於テ之ヲ財政上ニ利用スルハ必スシモ不當ニアラス夫ノ反對論者カ利益アル線路ノ多クハ既ニ私設會社ノ占有スル所トナリ國家カ公益上已ムヲ得スシテ單ニ不利益ナル地方ニノミ布設シタル鐵道ヨリ生スル利益ノ少ナキヲ見テ直ニ國家ノ經營ヲ以テ財政上ノ不利益ナリト結論スルハ極テ皮相ノ見ナリ且鐵道ハ社會ノ進歩ニ從ヒ漸ク收入ヲ増加スルモノナルカ故ニ此利益ヲシテ國庫ニ歸屬セシムルハ策ノ最モ得タルモノナリト云ハサルヘカラス

(乙) 政治上ノ理由

鐵道ハ斯ノ如ク自然的獨占業ニシテ縱令政府カ之ヲ專有セサルモ自然ノ結果全國ノ私設鐵道ハ漸次合併シテ一箇又ハ數箇ノ大鐵道會社ノ成立ヲ見ルハ經濟上自然ノ趨勢ナリ之ヲシテ私設會社ノ手ニ歸セシメハ遂ニ勢力ノ集中ヲ來シ非常ナル社會力トシテ政治上極テ危險ナル影響ヲ及ホスニ至ルヘシ

(丙) 軍事上ノ理由

財政學 輸入論 私經濟的輸入 官業ヨリ生スル收入 交通業

鐵道ノ單ニ經濟上必要ナルノミナラス軍事上亦極テ必要ナリ此必要ハ近來各國競争シテ軍備ヲ擴張スルノ結果益其度ヲ加フルヲ見ル然ルニ軍事上必要ナル線路ハ必スシモ經濟上必要ナル線路ト一致スルヲ得ス否ナ寧ロ相一致セサルヲ以テ常態トス今經濟上ノ不利益ヲ顧ミス主トシテ軍事上必要ナル鐵道ヲ布設スルノ任ニ當ルモノハ唯國家アルノミ

第二 鐵道ノ官有及官營ヲ否トスル論者ノ主張

(一) 鐵道ノ普及ハ寧ロ私設ヲ可トス 蓋官設ノ場合ニ於テハ鐵道ノ發達經濟上ノ事情ニ依ラスシテ却テ他ノ政治上ノ關係ニ基クモノ多シ例ハ民心ヲ收攬スルカ爲メニ又ハ政治上或目的ヲ達センカ爲メニ全ク不必要ナル地方ニ鐵道ヲ布設スルコトアリ反對論者カ私設ノ場合ニハ利益少ナキ線路ノ布設ヲ見ルコト能ハスト説クモ是レ寧ロ經濟上ノ原則ニ適合スルモノニシテ何等非難スヘキノ點アルコトナシ之ニ反シテ官設ノ場合ニハ經濟上ノ規矩ヲ脱シ時ニ感ハ濫設ノ弊ニ陥リ時ニ感ハ注意ニ過クルノ結果却テ發達ノ遲々タルヲ免レヌ

(二) 鐵道布設ノ資金ヲ得ルニ容易ナルノ點ハ官設論ノ根據トスルニ足ラス若シ其レ官設論者ノ言ヲ以テスレハ總テノ事業ハ皆舉テ官業ヲ可トスルニ至ラン加之低利ノ資金ヲ融通シ得ルハ一國鐵道ノ資本ヲ主トシテ外國ニ仰ク場合ノ外國家全體ノ上ニ於テ毫モ利益トスル所ニアラス若シ眞ニ官有鐵道ニシテ經濟上利益アリトセハ是レ其營業上ニ於ケル收益カ私設ノ場合ニ比シテ多額ナルヘキトキニ存ス而モ營業上ニ於テ不利益ナル場合ニ於テハ畢竟財政上損失タルヲ免レサルナリ

(三) 國家ハ鐵道建設ノ事業ニ適セス 鐵道建設ノ技術ハ官吏ニ比シテ民間事業家ノ精通熟練ナルヲ見ル且官吏ハ民間事業家ヨリモ鐵道ノ成效不成效ニ付キ切實ナル利害ヲ感セサルカ故ニ徒ニ建設費ヲ増加スルノ恐アリ

(四) 國家ハ鐵道事業ノ經營ニ適セス 官吏ハ營業ノ成績ニ付テ毫モ直接ノ利益ヲ感セサルカ故ニ其行動ハ事業ニ忠實ナラス從テ經費ヲ増加シ收益ヲ減スルコト各國官有鐵道ノ證明スル所ナリ官有鐵道ニ於テ成功セルブロイセシノ唯一ノ例ヲ以テ一般ニ他ノ諸國ヲ推斷スルハ早計ナリト云ハサルヲ得

ス多數ノ國ニ於テ國家カ低利ナル公債ヲ發行シ株式ノ市場價格ニ依リテ私設鐵道ヲ買收シタル場合ニ於テモ尙ホ其收益ノ額公債ノ利子ニ及ハサルコト遠キハ明ニ其結果ノ不良ナルコトヲ證スルモノト云ハサルヘカラス

(五) 鐵道ノ官有ハ財政上ノ基礎ヲ紊スノ恐アリ 政府カ多數ノ鐵道ヲ有スルトキハ或ハ商業ノ不振、物價ノ變更若ハ新規ノ發明等ニ依リ著シク鐵道ノ價格ヲ減少シ若ハ其收益ヲ減スルノ恐アリ從テ他日經濟上ノ形勢變動スルニ當リテ財政上ノ基礎ヲ紊スノ虞アリ

要スルニ以上ノ兩說ハ各一理アリ官有論者ノ言フ所必スシモ皆眞理ナラサルト同時ニ民有論者ノ言モ亦必スシモ皆之ヲ排斥スルヲ得ス元來是等議論ノ基ク所ハ一ハ演繹的抽象的議論ニ據リ一ハ歸納的具體的ノ結果ニ出ツ之ヲ實際ノ例ニ照スモ官有主義ニ於テ甚タシク成效セルモノアリ民設鐵道ノ著シク發達セルモノアリテ其結果必スシモ同一ナラス時ト場合トニ依リ自ラ其方針ヲ異ニセサルヘカラサルコト明ナリ我國ニ於テモ嘗テ類ニ鐵道國有ノ論アリ民間ノ實業家等切ニ私設鐵道ノ買上ヲ主張シタリシカ其一旦經濟界ノ好況ヲ呈スルヤ直ニ類テ

官有鐵道ノ拂下ヲ主張シ其後又金融市場ノ逼迫ニ遭ヒ拂下論ノ舌未タ乾カサルニ再ヒ國有主義ヲ主張シ私設鐵道ノ買上ヲ主唱シタルカ如キ眞ニ一國經濟財政上ノ大勢如何ヲ察スルノ明ナク又其大勢ニ依リテ進退セントスル人士ニアラサルコト明ナリト雖モ竊ニ其間ノ消息ヲ考フルトキハ官設私設兩者共ニ時ト所トニ依リテ大ニ難易適否ノ別ヲ異ニスルノ事情アルコトヲ窺知ルニ足ラン斯ノ如ク兩者各一理アリ又時ト所トニ依リテ其利害ヲ同ウセサルモ之ヲ其交通機關タルノ性質ニ鑑ミ又之ヲ社會進步ノ狀勢ニ照スニ原則トシテハ鐵道官有官營ノ主義ヲ採用スヘキモノナルコト疑ヲ容ルヘカラス何トナレハ其自然的獨占的事業タル性質ニ依リ又交通業トシテ大規模ナル經營ヲ要スルノ點ニ基キ將又郵便、電信等ト同一管理者ノ手ニ歸セシムルコトノ便宜ナル點等ニ考フルモ大體ニ於テ國家ヲシテ其經營ニ任セシムルコトハ政治上經濟上最モ有益ナル方法ナレハナリ夫ノ國家又ハ官吏カ鐵道事業ニ適セストノ議論ノ如キハ鐵道ノ如キ大規模ノ事業ヲ以テ區々タル小企業家ノ經營スル小事業ト區別スルヲ知ラサル論者ノ言ノミ

第三項 鐵道收入

官有鐵道ノ收入ニ付テモ亦郵便電信等ト同シク手数料主義及收益主義ノニアリ
 手数料主義ヲ主張スル者ハ曰ク鐵道ハ一國經濟上最モ重要ナル機關ニシテ產業
 ノ發達商業ノ進歩ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ成ルヘク其貸率ヲ低廉ニシ
 成ルヘク其利用ノ道ヲ容易ニセサルヘカラス從テ其收入ハ其經費ノ一部ヲ償フ
 ニ足ルカ若ハ多クトモ其經費ノ額ヲ超ユヘカラスト收益主義ヲ主張スル者ハ曰
 ク鐵道ハ必要ナル交通機關タリト雖モ其利用ハ國民全體ニ亘リテ平等一様ナル
 能ハス縱令其利用ハ平等ナリトスルモ鐵道事業ニ費ス資本並ニ經費ハ頗ル巨大
 ナルヲ以テ之ヲ支辨スルニ他ノ一般歳入ヲ以テスルコトハ到底一國財政ノ許サ
 サル所ナリ果シテ然ラハ事口之ヲ以テ財政ノ一手段ニ供シ之ニ依リテ收入ヲ圖
 ルコト策ノ最モ得タルモノナリ且之カ利用者ノ享有スル利益ハ之カ經費ニ比シ
 テ甚タ大ナルノミナラス相當ノ程度ニ於テ之ヲ徵收スル場合ニハ之カ爲メニ毫
 モ負擔者ニ苦痛ヲ感セシムルコトナク又毫モ交通ヲ阻害スルノ恐ナキヲ以テ當
 ニ經費ヲ償フニ止ラス進テ私經濟的若ハ公經濟的收益主義ニ依リ更ニ一層ノ收

益ヲ圖リ其剩餘ヲ以テ他ノ一般ノ經費ニ充ツルヲ可トスト
 之ヲ要スルニ兩者各一理アリ輕々シク論斷スルヲ得スト雖モ今日文明ノ程度ト
 各國財政ノ狀況ニ照セハ手数料ノ主義ハ未タ之ヲ實際ニ行ヒ難キモノト云ハサ
 ルヘカラス

鐵道收入ノ全體ニ於テ以上二箇ノ主義中其何レヲ採用スルニ拘ラス其各個ノ貸
 率ヲ定ムルニ當リテ生スヘキ經濟上ノ問題ハ自ラ別種ノモノナルコト夫ノ郵便、
 電信ノ場合ニ異ラス鐵道ノ貸率ニ關シテハ一方ニ交通業トシテ郵便等ト相似タ
 ル點アルト同時ニ他ノ一方ニ於テ大ニ其性質ヲ異ニスル所アルヲ以テ今簡短ニ
 其重ナル差異ヲ述ヘント欲ス乞フ前ニ郵便電信等ニ關シテ説明セル所ヲ參照シ
 テ以テ其詳細ヲ究メンコトヲ

第一 線路 ニ付テハ鐵道ノ建設費其他ニ非常ノ相違アルヲ以テ多少貸率ニ差
 異ヲ及ホスコトヲ免レス我國ニ於テモ嘗テ此區別ヲ認メタルモ現今ニ於テハ
 總テ同一ニ歸シ線路ノ如何ハ又貸率ノ標準タルコトナキニ至レリ

第二 距離 ハ鐵道ノ貸率ニ關シテ最モ重要ナル標準ナリ何トナレハ鐵道運輸

ノ經費ハ郵便等ノ場合ト異リ其大部分ハ純然タル運輸其モノ、費用ニ屬シ其費用ハ距離ニ比例シテ増減スルモノナルカ故ニ郵便ト同シク距離ノ遠近ヲ問ハス凡テ均一ノ貸金ヲ徴スルヲ得サルハ自然ノ結果ナリ然レトモ其距離ノ短縮スルニ從ヒ其關係漸ク消滅スルカ故ニ一定ノ短距離ノ間ニ於テハ凡テ同一ノ貸金ヲ徴スルノ場合ナキニアラス而シテ距離ニ關スル問題中最モ重要ナルハ距離ト貸率トノ割合ヲ定ムル方法はナリ之ニ關シテ二ノ方法アリ即チ一ハ比例法ト云ヒ全然距離ニ正比例シテ其貸金ヲ定ムルモノニシテ他ノ一ハ遞減法ト稱シ距離ノ増加スルニ從ヒ其割合ヲ減少スルモノナリ遞減法又細別シテ二トナス甲ハ單純ニ距離ノ増加スルニ從テ全距離ニ對スル貸率ヲ減少スルモノニシテ乙ハ距離ノ増加スルニ從ヒ貸率ヲ減スルモ其減少ハ甲ノ如ク全距離ニ對スル貸率ヲ減スルニアラスシテ唯増加シタル距離ニ對シテノミ次第ニ其貸率ヲ減スルモノトス我國ニ於テハ各國多數ノ實例ト同シク後者中乙ノ主義ヲ採ル

第三 重量及容積 ノ貸率ニ付キ重要ナルコト説明ヲ要セス

第四 目的物ノ性質 ニ依リテ貸率ヲ異ニスルハ大體ニ於テ郵便ノ場合ト同一ノ趣旨ニ出ツ例ハ貨物ノ價格危險ノ有無賣買ノ難易若ハ取扱ノ便否等ニ依リテ之ヲ數多ノ種類ニ區別スルハ多少其間ニ經費ヲ異ニスルノ點ニ基クヘシト雖モ主トシテ貸金ノ負擔力ノ大小ニ依リ其率ヲ定メントスルニ在リ何トナレハ鐵道ノ場合ニ於テハ郵便等ノ場合ニ比シテ應能提供ノ原則ヲ適用スヘキ範圍更ニ大ナルカ故ナリ夫ノ固定資本ノ割合ノ増加スルニ從ヒ生産費ノ結合一層其度ヲ加フルハ經濟上ノ原則ナリ鐵道ノ如キ多額ノ固定資本ヲ要スルモノニ在リテハ或貨物又ハ旅客ヲ運送スル爲メニ要スル特別ノ費用ハ比較的頗ル僅少ナルカ故ニ或目的物ニ對シテハ極テ低廉ナル貸金ヲ徴收スルモ尙ホ多少ノ利益ヲ見ルコトヲ得ヘシ從テ如何ナル物ニ一般ノ經費ヲ補償スルニ足ルヘキ高率ノ貸金ヲ負擔セシメ如何ナルモノニ僅ニ其特別ノ經費ヲ補償スルニ足ルヘキ低率ノ貸金ヲ負擔セシムヘキカハ主トシテ營業者ノ任意ニ決定スル所タリ故ニ國家ハ此場合ニ或ハ需要供給ニ關スル經濟上ノ狀況ニ照シ或ハ國民經濟ニ關スル公益上ノ理由ニ因リ各種ノ目的物ニ對シテ各種ノ貸率ヲ課スル

ヲ必要トスルニ至ル

此點ニ關シテ注意スヘキ事項ハ需要供給ノ關係及公益上ノ理由ニ基ク乘車賃ノ割引ナリトス各國ノ實例ニ依ルニ或ハ職工ノ乘車賃若ハ學生殊ニ多數團體ノ乘車ノ場合ニ於ケル貸金其他廻遊列車往復切符定期乘車券等既定貸金ニ對シテ割引ヲ爲ス場合極テ多シ國ニ依リテハ實際ニ徵收スル貸金ノ平均額殆ト其定率ノ三分ノ二ニ過キサレモノアリ

斯ノ如ク運輸ノ目的タルモノ、負擔力如何ニ依リテ貸率ヲ分ツトキハ其料金ハ既ニ純然タル私經濟的收入ノ本領ヲ去リテ租稅ノ性質ヲ帶フルニ至ル此關係ハ管ニ官有鐵道ノ場合ノミナラス一般ノ鐵道ニ付テモ亦均シク存スル所ナリ否管ニ鐵道ノミニ止ラス精密ニ之ヲ論スレハ各種ノ事業ニ付テモ斯ル經濟上ノ關係ハ多少存在スル所ナレトモ而モ獨占業殊ニ鐵道業ニ付テ最モ其著シキヲ見ル從テ之ヲ經濟上ノ關係ニ照スニ鐵道營業者ハ其實一種ノ租稅ヲ課スルモノナリト云フモ過言ニアラス一個人ニ與フルニ斯ル重大ナル關係ヲ有スル收入權ヲ以テスルノ不可ナルコトハ是レ官有鐵道ヲ主張スル者ノ主要ナル

論點ノ一ナリ私立會社ハ勸モスレハ此特權ヲ弄シテ單ニ自家ノ收益ヲ圖ルノ手段ニ供セントス之ニ反シテ國家ヲシテ此權ヲ有セシムルトキハ一ハ需要供給ノ關係ヲ利用シテ產業ヲ保護スルノ手段タラシメ一ハ之ヲ公益ノ目的ニ供シテ社會政策ノ一端ヲ實行スルノ具トスルヲ得ヘシ

鐵道ノ場合ニ於テモ其貸率ト收入トノ經濟的關係ハ大凡郵便電信等ノ場合ニ於ケルト同シ蓋貸率ノ高低ニ依リテ利用ノ度ヲ増減スルハ需要供給ニ關スル經濟上ノ一般ノ原則ナレハナリ但前者ニ在リテハ其經濟上ノ關係複雜ナルカ故ニ貸率ノ高低カ其收入ニ及ホス影響モ亦後者ニ比シテ頗ル複雜セルモノアルハ自然ノ數ナリ

我國ニ於ケル鐵道收入ハ郵便電信等ニ比シテ極テ多額ナリ若シ全國ノ鐵道ヲ以テ國有ニ歸セシメハ其額ハ頗ル大ナルニ至ルヘシ今參考ノ爲メニ最近六個年間の收入ヲ擧クレハ左ノ如シ

最近六個年間の官有鐵道收入支出累年比較表

公經濟的
歳入
精論
公經濟的
歳入ノ觀念

年 度	收 入	支 出	純 益	收入ニ對スル 經費ノ割合
三十六年度	二〇、一〇九、一一五	九、八九六、九〇一	一〇、二一二、二一四	四、九二
三十五年度	一八、三三六、五八二	九、〇六六、一六五	九、二七〇、四一七	四、九四
三十四年度	一六、七七六、五一九	八、五四七、二二六	八、二二九、二九三	五、〇九
三十三年度	一六、〇四五、七七五	七、二七一、五六五	八、七七四、二一〇	四、五三
三十二年度	一三、八〇四、三七五	六、七〇六、一一二	七、〇九八、二六三	四、八六
三十一年度	一一、一六五、八八九	六、三八〇、九五二	四、七八四、九三八	五、七一

二五二

第二卷 公經濟的歳入

緒 論

第一章 公經濟的歳入ノ觀念

公經濟的歳入トハ國家又ハ公共團體カ其公經濟ノ主體タル本質ニ基キ其權力者
タリ優等者タル地位ニ依リテ收納スル所ノモノヲ謂フ換言スレハ國家又ハ公共

團體ノ強制命令權ノ行使ニ依リテ收納スル所ノ經濟的歳入ナリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ公經濟的歳入ハ財政ノ特質ニ屬ス何トナレハ私人ハ斯ノ如
キ手段ニ依リテ其收入ヲ得ルコト能ハサレハナリ之ニ反シテ私經濟的歳入ハ國
家ノ之ヲ收納シ得ルト同時ニ一個人モ亦能ク之ト同一性質ノ收入ヲ納ムルコト
ヲ得ヘシ

公經濟的歳入ハ公經濟ニ於ケル收入ナリ私經濟的歳入ハ私經濟ニ於ケル歳入ナ
リ公私經濟ノ區別ハ獨逸ノ學者ヘルマン氏ノ始テ之ヲ明ニセシ以來學者ノ議論
未タ一致セサル所ナリ余ハ此點ニ付キテ本講義ノ始ニ財政ノ特質トシテ其概略
ヲ論述シタルヲ以テ重テ茲ニ之ヲ詳論セサルヘシ公經濟的歳入ト私經濟的收
入トノ區別ハ之ヲ收納スル所ノ目的又ハ意思カ公益ニ關スルト私益ニ關スルト
ノ區別ニ由ルモノニアラス又此收入ノ手段ニ依リテ滿足スル慾望カ公共的ナル
ト個人的ナルトノ區別ニ由ルモノニモアラス將又國家ノ收入ナルト私人ノ收入
ナルトノ差異ニ由ルモノニモアラス兩者ノ區別ハ一ニ其強制的分配ノ手段ニ依
リテ收納セラル、ト交換的分配ノ方法ニ依リテ收納セラル、トノ差異ニ因ルモ

ノトス私經濟的收入ハ一個私人モ亦之ヲ收納シ得ルヲ以テ其間ニ權力作用ノ存在ヲ許サス獨立對等ノ關係ニ於テ相互ノ間ニ財貨ヲ交換取得スル爲メニハ其雙方ノ意思ノ合致ニ基カサルヘカラス而シテ意思ノ合致アルニハ兩者ノ間ニ利益ノ交換アルコトヲ必要トス之ニ反シテ公經濟的收入ニ於テハ財貨ノ獲得ハ自己ノ意思ニ因リテ相手方ヲ強制シ得ルカ故ニ毫モ其間ニ意思ノ合致ヲ必要トセス從テ亦其間ニ利益ノ交換セラル、モノアルコトヲ必要トセス其分配ノ有無收入ノ程度ハ實ニ一方ノ意思ノミヲ以テ決定セラル、モノナリ

斯ノ如ク公經濟的收入ハ管ニ國家又ハ公共團體ノミカ之ヲ能クスルノミニ止ラス國家又ハ公共團體ノ財政ニ缺クヘカラサル手段タリ蓋私經濟的收入ノミニ依頼シテ國家ノ需要ヲ満足スルハ到底事實ニ於テ之ヲ爲シ得サルノミナラス國家ノ歳入ヲ私經濟的收入ノミニ限ルトキハ之ヲ處理スル財政ナルモノハ毫モ個人ノ經濟ト差異ナキニ至ルヘケレハナリ

公經濟的歳入ハ私經濟的歳入ト同シク經濟主義ニ則ルコトヲ要ス夫ノ私經濟的歳入ノミニ獨リ經濟主義ニ則ルヘキモノナリトスル說ノ謬レルコトハ嘗テ説明セシ所ノ如シ然レトモ公經濟的歳入ハ之ヲ律スルニ宜シク私經濟的歳入ト異レル原則ナカルヘカラス前者ハ配分的正理ニ依リテ決セラレ後者ハ交換的正理ニ依リテ決セラル、モノトス換言スレハ前者ハ公經濟的歳入主義ノ支配スル所ニシテ後者ハ私經濟的歳入主義ノ支配スル所ナリ尙ホ詳言スレハ公經濟的歳入ナルモノハ或ハ一般經費充當ノ主義ニ依リ或ハ特別經費充當ノ主義ニ依リ又或ハ公經濟的營業ノ主義ニ依リテ收納セラル、モノトス何トナレハ國家カ私經濟的歳入主義ニ依リテ歳入ヲ得ンカ爲メニハ毫モ其權力ヲ行使スルノ必要ヲ認メサルカ故ナリ抑一般ノ經費ニ充當スル爲メニ何等ノ報償ヲモ與フルコトナクシテ財貨ヲ徵收シ若ハ其費ス所ニ超ユルコト甚タ多キ報酬ヲ他人ニ求ムルコトハ到底權力ノ發動ニ基ク公經濟ニアラスンハ之ヲ能クスルコトヲ得ス之ト同時ニ其經費ノ一部ヲ補フニ止リ若ハ其全部ヲ補フニ足ルノ收入ニ甘スルコトハ到底一人ノ能ク永ク堪フル所ニアラサルノミナラス其收入タル自由競争ノ結果ニ出ツルモノニアラサルカ故ニ此三箇ノ歳入主義ハ獨リ公經濟的歳入ニノミニ適用スヘキモノニシテ之ヲ私經濟的歳入ニ應用スルヲ得サルコトハ明白ナル事實ナリ

第二章 公經濟的歳入ノ沿革

財政殊ニ歳入ノ實質ハ時ト所トニ依リテ一樣ナラサルコトハ嘗テ屢述ヘタル所ナルカ公經濟的歳入カ著シク發達ヲ見ルニ至リシハ實ニ近世ノコトニ屬ス何トナレハ公經濟的歳入ノ發達ハ社會經濟ノ發達ニ伴フ自然ノ進歩ナリト雖モ政治法律ニ關スル智識ノ進歩亦與テ大ニ力アルカ故ナリ

抑公經濟私經濟ノ區別ハ獨リ其觀念ニ於テ最モ公法私法ノ區別ニ酷似スルノミナラス其發達ノ跡ニ於テ兩者最モ密接ノ關係ヲ有ス前述セル如ク私經濟的歳入ハ宮中府中ノ別ナク公法私法ノ觀念明ナラサリシ歐洲中世ニ於ケル封建時代ニ其源ヲ發セリ當時帝王及諸侯ハ多大ノ私有財産ヲ有シ之ヨリ生スル收入少カラス而シテ一方ニ行政ノ組織簡單ニシテ其歳出少カリシカ故ニ財政ハ能ク私經濟的歳入ヲ以テ之ヲ維持スルコトヲ得タリシカ近世ニ至ルニ及ヒ社會ノ進歩ト共ニ國家ノ職分漸ク繁雜トナリ歳出ノ額益增加スルニ拘ラス各國帝王ノ私有財産ハ却テ漸次減少ヲ來セルカ故ニ財政ハ到底其私有財産ヲ以テ之ヲ支フルヲ得サルニ至リ歳入ノ範圍次第ニ擴張セラレ公經濟的歳入愈增加スルニ至レリ而シテ

此發達ヲ助ケタルモノハ實ニ政治法律ノ進歩ナリトス

惟フニ私經濟的歳入ハ當事者間ノ意思ノ合致ニ因リ私益ヲ交換スルニ基クモノナルカ故ニ其間ニ強制ノ分子ナク從テ毫モ私人ノ財産權ノ思想ト衝突スルコトナキモ公經濟的歳入ニ至リテハ國家カ其權力ヲ以テ強制徵收スルモノナルカ故ニ各個ノ臣民カ國家團體ノ一員トシテ其全體ノ生存發達ニ必要ナル經費ヲ支辨スルカ爲メニ各自自己ノ所得財産ヲ提供シテ公ニ奉スルハ其本分ナリトノ思想ノ發達スルニアラサレハ到底各人ノ財産觀念ト相容ル、コトヲ得ス而シテ此私益ヲ以テ公益ニ殉スルノ觀念ハ實ニ近世國家說ノ教フル所ナリ

公經濟的歳入就中租稅殊ニ直接稅ニ關スル制度ノ多クハ中世ノ終並ニ近世ノ初ニ於ケル獨立自由都府ニ於テ發達シタルモノナリ蓋是等ノ自由都府ハ實ニ近世國家ノ標本ニシテ國家ニ關スル觀念並ニ公共的ノ思想ハ最モ能ク茲ニ發達シタルカ故ナリ而シテ是等ノ觀念思想カ都會ニ於テ一步ヲ先テ發達シタル所以ハ都會ニ於テハ其政治上ノ施設直接ニ人民ノ耳目ニ觸ル、カ故ニ人民カ進テ公ノ事ニ奉セントスル思想ニ富メルノミナラス是等ノ自由都府ニ於テハ夙ニ貨幣經

濟行ハレ盛ニ通商貿易ヲ營ミ資本ノ増殖工業ノ進歩等經濟上ノ發達著シカリシ
 カ故ニ其課税ノ目的最モ豊富ナリシカ爲メナリ彼等カ田舎ニ於ケル人民ニ比較
 シテ早ク公經濟的歲入ニ關スル觀念ヲ得タルハ誠ニ偶然ニアラス
 斯ノ如ク公經濟的歲入ノ發達ハ公共心及近世國家說ノ發達ニ伴フモノナルカ故
 ニ等シク公經濟的歲入ト云フモ其實質ニ依リテ發達ノ跡同一ナラス今之ヲ歴史
 上變遷ノ跡ニ照スニ最モ早ク發達セルハ夫ノ「レガリーヤ」ナリトス「レガリーヤ」ハ
 他ノ公經濟的歲入ト異リ事口中世ノ私經濟的歲入時代ニ於テ之ト相混シテ發達
 シタルモノニシテ公經濟的歲入ノ原始的形態ヲ有ス蓋權力ニ依リテ強制徵收セ
 ラル、モ其性質報償的ナルカ故ニ事口私經濟的歲入ニ類スル所アレハナリ是レ
 財政學者ノ多數カ「レガリーヤ」ヲ以テ私經濟的歲入ト租稅トノ過渡的歲入ト看做
 ス所以ナリ抑國家歲出ノ漸ク増加セントスルニ當リ歲入ノ増加ヲ圖ルニ急ナル
 國家カ其私經濟的歲入ノ外ニ各種ノ產業ヲ認メテ自己ノ特權ニ屬スルモノトシ
 之ヲ一個人ニ許スニ因リテ自己ノ收入ヲ圖リタルハ固ヨリ自然ノ趨勢ニシテ其
 各人ノ經濟的能力ヲ付與スルノ對價トシテ一定ノ收入ヲ收メタルハ其思想ニ於

テ最モ私經濟的歲入ニ近似シタルモノト云フヲ得ヘシ之ニ次テ起リタルハ間接
 税其他ノ消費税ニシテ「レガリーヤ」ニ比スレハ更ニ一步ヲ公經濟的歲入ニ進メタ
 リト雖モ尙ホ夫ノ直接税ニ比スレハ人民ニ負擔ヲ感セシムルコト輕ク其財產權
 ノ思想ト抵觸スルコト少ナシト云ハサルヘカラス直接税ニ至リテハ人民ノ之カ
 負擔ヲ感スルコト最モ重ク其性質上私經濟的歲入ト相距ルコト最モ遠シ是レ直
 接税カ公共心ノ發達ト共ニ最後ニ發達セル所以ナリ而シテ是等ノ制度ノ發達ト
 共ニ嘗テ「レガリーヤ」ニ屬セル各種ノ歲入ハ漸次其形體ヲ變シテ租稅若ハ手數料
 トナリ次テ是等ノ手數料モ亦漸ク租稅ニ轉化スルニ至リシハ財政ノ發達及政治
 法律ニ關スル思想ノ變遷ニ伴フ自然ノ結果ナリト云ハサルヲ得ス
 之ヲ要スルニ公經濟的歲入ハ近世ニ至リテ益増加セル歲出ノ膨脹ニ伴フ歲入ノ
 不足ヲ補フ爲メニ發生シ而シテ其發達ハ公共心ノ發達ト相伴ヘリ從テ國家ノ進
 歩ト共ニ其財政上ニ於ケル地位ハ益重要ノ度ヲ加フルモノト云ハサルヘカラス
 何トナレハ私經濟的歲入ハ其數ニ於テモ其量ニ於テモ自ラ制限アリ其額ハ毎年
 殆ト一定不動ナリ從テ變化常ナキ財政上ノ必要ニ應シテ能ク私經濟的歲入ノ不

足ヲ補フモノハ之ヲ屈伸力アル公經濟的歳入ニ待タサルヘカラス蓋國家ノ需要ニ應シテ能ク屈伸増減スルモノハ即チ私ヲ以テ公ニ奉スルノ思想ニ基カサルヘカラサルコト明白ナレハナリ

第一部 手數料

第一章 總論

第一節 手數料ノ觀念

手數料ノ觀念
總論
手數料ノ

公經濟的歳入中國家又ハ公共團體ノ賦課徵收ニ依ルモノヲ分テ絶對的收納及相對的收納トス前者ハ租稅ニシテ後者ハ即チ手數料ナリ

手數料ノ財政上ニ於ケル地位ハ最モ錯綜セリ手數料ト租稅トノ區別ニ付テハ學說未タ一定セサルモ其實際ノ制度ニ至リテハ一層紛糾セルモノアルヲ見ル手數料制度ノ最モ能ク發達シ明ニ之ヲ租稅ト區別セルハ獨逸諸國ニシテ英佛露白等ノ諸國ニ於テハ立法上未タ此區別ヲ認メス蓋一ハ之ニ關スル學理ノ未タ明白ナラサル所アルト一ハ各國ニ於ケル特別ナル沿革ノ結果ナリ學者或ハ之ヲ以テ私經濟的歳入ニ屬セシムルモノアリ或ハ全然租稅ト同一視スルモノアリ其始テ公

經濟的歳入中ニ於テ之ヲ租稅ト區別セル者ハ夫ノハインリッヒ、ラウナリトス爾來獨逸ノ學者專ラ之カ說明ヲ試ミ其結果立法上此區別ヲ認ムルニ至リシモ其詳細ノ點ニ於テハ尙ホ彼等ノ間ニ其說ヲ異ニシ未タ其軌ヲ一ニセス余ハ今之カ定義ヲ下シテ「手數料トハ國家又ハ公共團體ノ特別ノ經費ニ充當スルヲ限度トシテ其經費ニ特別ノ關係ヲ有スル者ヨリ賦課徵收スルモノヲ謂フ」ト云ハントス今此定義ヲ分解説明スレハ左ノ如シ

第一 手數料ハ國家又ハ公共團體ノ賦課徵收スル所ノモノナリ

此性質ハ二箇ノ要素ヲ含ム即チ一ハ其公經濟的歳入ナルコトヲ示シ他ノ一ハ其賦課徵收ニ係ルモノナルコトヲ示ス既ニ國家又ハ公共團體ノ賦課徵收スル所ナルカ故ニ其權力ノ發動ニ依ル收入ナルコト明白ナリトス是レ手數料ノ公經濟的歳入タル所以ナリ然レトモ公經濟的歳入ハ必スシモ皆賦課徵收ニ依ルニアラス手數料ハ賦課徵收ニ依ル歳入ナリ是レ同シク公經濟的歳入ニ屬スルモ而モ夫ノ專賣又ハ「レガリーヤ」等ト區別セラル、所以ナリ斯ノ如ク手數料ハ權力ニ依リテ賦課徵收セラル、モノニシテ此點ニ於テハ全ク租稅ト共通ノ性

質ヲ有スルモノトス此觀念ニ付テハ手數料ヲ以テ公經濟的歲入ノ一種ナリトスル一般財政學者ノ相一致スル所ナリ

第二 手數料ハ國家又ハ公共團體ノ特別ノ經費ニ充當スルヲ限度トス是レ手數料ト租稅トヲ區別スル所以ノ第一ノ要點ナリ蓋租稅ハ一般ノ經費ニ充當スルヲ以テ目的トスルカ故ニ或種類ノ租稅ノ額ハ單ニ一般經費ノ大小ニ因リテ定リ毫モ特別ノ經費ニ關係ナシ之ニ反シテ手數料ハ特別ノ經費ニ充當スルヲ目的トスルカ故ニ其額ハ此經費ノ高ヲ限度トス財政ノ實際ニ於テハ租稅ト雖モ或ハ特別ノ經費ヲ支辨スルカ爲メニ其必要ノ程度ニ依リテ新ニ稅目ヲ起シ若ハ既存ノ租稅ニ付キテ稅率ヲ増加スルコトアルハ勿論ナリト雖モ此場合ニ租稅ノ額ト特別ノ經費ノ額トノ關係ハ單ニ財政ノ外形ニ止リ其實ハ此特別ノ經費ノ増加ニ因リテ一般ノ經費ヲ増加シタルカ爲メニ外ナラス換言スレハ特別ノ經費ノ増加ニ因リテ租稅ヲ賦課スルハ單ニ財政上ノ計劃又ハ立法上ノ緣由タルニ止リ兩者ノ間ニ毫モ性質上ノ關係ヲ有スルモノニアラス之ニ反シテ手數料ノ場合ニ於テハ或經費ト之ヲ支辨スルカ爲メニ徵收セラル、手

數料トノ關係ハ單ニ財政上ニ於ケル事實的關係タルニ止ラス全ク性質上ノ問題タリ若シ兩者ノ間ニ此關係ノ存スルナクンハ之ヲ手數料ト稱スルコトヲ得ス他ノ一方ヨリ見レハ財政上ノ實際ニ於テハ寧ロ手數料ヲ以テ一般ノ經費ヲ支辨スルカ如キ外形ヲ有スル場合ナキニアラス換言スレハ一般歲出ノ増加ニ應センカ爲メニ特殊ノ手數料ヲ新設又ハ増率スルコトアリ然レトモ此場合ニ於テハ前ノ租稅ノ場合トハ全ク正反對ニシテ手數料ト一般ノ經費トノ關係ハ單ニ一ノ外形ニ止リ一般經費ノ如何ハ單ニ手數料徵收ノ緣由タルニ過キスシテ其緣由ノ如何ニ拘ラス之ヲシテ手數料タルノ資格ヲ得セシムル所以ノモノハ專ラ其額ハ或特別經費ノ額ヲ限度トスルノ點ニ存ス

斯ノ如ク手數料ハ或特別ノ經費ニ充當スルヲ目的トスト云フト雖モ夫ノ特別會計ノ如クニ會計ノ整理上其歲入ヲ以テ其經費ヲ支辨スヘシトノ意味ニアラス從テ會計法上手數料ヲ以テ一般歲入トスルハ毫モ手數料ノ性質ヲ害スルモノニアラス要ハ唯其收入ノ程度カ或特別ナル經費ニ對シテ計數上ノ關係ヲ有スト云フニ止ル而シテ手數料ハ經費ノ額ヲ限度トスルモノナルカ故ニ之ニ超

過スル所ノモノハ既ニ手数料ニアラス嚴格ニ云ハ、其超過部分ニ付テハ全然租税ノ性質ヲ有スルニ至ルヘシ之ニ反シテ手数料ノ額カ或經費ニ滿タサルコトハ毫モ手数料ノ性質ニ反スルモノニアラス何トナレハ手数料ナルモノハ單ニ經費ノ額ヲ限度トスルヲ要スルニ止レハナリ此觀念ニ付キテハ手数料ヲ以テ租税ト區別スル多數學者ノ一致スル所ナリ

第三 手数料ハ該經費ニ特別ノ關係ヲ有スル者ヨリ徴收スルモノナリ是レ手数料ト租税トヲ別ツヘキ第二ノ要點ニシテ多數學者ノ大體ニ於テ一致スル所ナレトモ其詳細ニ至リテハ學者間説明ヲ異ニセリ
手数料ヲ以テ特別ナル利益ニ對スル報償ナリトスル者ハ曰ク國家ノ勤務ハ公共一般ノ利益ノ爲メニスルモノナレトモ其間特ニ之ニ依リ利益ヲ享クル者アル場合ニ於テハ之ヲシテ特ニ其經費ヲ負擔セシムト然レトモ利益ノ有無ハ手数料ノ觀念ノ要素ニアラス手数料ノ徴收セラル、多數ノ場合ニ於テ被徴收者カ特別ノ利益ヲ享受スルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ是レ唯一般普通ノ狀況タルニ止リ若ハ單ニ手数料ヲ徴收スヘシトスルノ緣由タルニ過キス手数料ヲ徴收

セラル、各個ノ場合ニ於テ利益ノ享有アリタルヤ否ヤハ毫モ其要件トスル所ニアラス時トシテハ制度ノ上ニ於テ全ク個人ノ享有スヘキ利益ノ存シ得ヘカラサル場合ニ於テモ亦手数料ヲ徴收スルコトナキニアラス從テ此説明ハ未タ以テ正確ナル議論ト云フヲ得ス或ハ此缺點ヲ補ハンカ爲メニ手数料ヲ以テ國家又ハ公共團體ノ勞費ヲ請求シ又ハ煩ス者ヨリ徴收スルモノナリト云フ者アリ此說ハ前說ニ比シテ一步ヲ進メタルカ如シ何トナレハ個人ノ受クヘキ利益ノ有無ニ關係セス單ニ國家ノ爲シタル勞費ノ點ヨリ觀察シタルヲ以テナリ然レトモ國家カ手数料ヲ徴收シ之ニ依リ補ハントスル勞費ナルモノハ必スシモ個人ノ請求ニ出ツルモノニアラス又之ニ依リテ煩サル、カ爲メニアラス例ハ個人カ國家ノ公有物ヲ使用スル場合ニ於テ私人ハ毫モ國家ノ勞費ヲ請求スルコトナク又之ヲ煩スコトナシ寧ロ其既ニ爲シタル勞費ノ結果ヲ利用スルニ過キス從テ此說モ亦首肯スルヲ得ス蓋前說ハ勞費ニ對シテ其結果タル個人ノ利益ヲ求メ後說ハ國家ノ勞費ニ對シテ原因タル個人ノ意思ヲ求メントスルノ結果ニ出ツ二者共ニ未タ盡サ、ル所アルノ憾ナシトセス余ハ此缺點ヲ避クルカ

爲メニ勞費ニ對スル特別ノ關係ヲ以テ觀念ノ要素トナシ手数料ヲ以テ國家ノ勞費ニ因リテ利益ヲ受クルト否トヲ問ハス又之ヲ請求シ若ハ煩シタルト否トヲ問ハス一般人民ニ比シ其勞費ニ關シテ特別ノ關係アル者ニ對シテ賦課徵收スルモノナリト云ハント欲ス

第二節 手数料ノ沿革

前述ノ如ク手数料ノ制度ハ各國ニ於テ區々ニ亘ルノミナラス學說亦一ニ歸セサル所以ノモノハ要スルニ古來各國ニ於ケル特種ノ沿革ニ基クモノト云ハサルヘカラス從テ其真相ヲ知ラントセハ之ニ關スル沿革ノ大要ヲ研究スルノ必要アリ然レトモ各國ノ沿革ニ付キテ一々之ヲ詳述スルハ煩ニ堪ヘサル所ナルカ故ニ唯其大體ニ亘リテ變遷ノ跡ヲ述フルニ止メント欲ス今其發達ノ跡ニ照スニ之ニ關シテ大約三箇ノ時期アルヲ認ムルヲ得ヘシ

第一期 手数料ノ始テ發生セルハ中世ノ末葉若ハ近世ノ初ニ於テ歐洲各國ニ於ケル政治並ニ經濟上ノ組織漸ク變遷シ其行政事務益繁多ナラントセルノ時ニ在リ嘗テ行政事務ノ簡單ナル時代ニ於テハ夫ノ封建ノ武門武士ノ如キ者モ尙

ホ能ク行政ノ任ニ堪ヘタリシカ其複雜トナルニ及ヒテハ之ニ關スル専門ノ智識アルニアラスンハ到底之ヲ能ク處理スル能ハサルニ至レリ就中收稅裁判教育等ノ事務ニ於テ最モ然リトス而シテ收稅事務ハ君主諸侯ノ財政ト密接ノ關係ヲ有セシカ故ニ夙ニ獨立官吏ヲシテ之カ任ニ當ラシメタリシカ之ニ反シテ裁判教育等ノ事務ニ至リテハ其國家的行政事務タルニ拘ラス永ク之ヲ専門ノ智識アル一個人ノ手ニ委ネ政府ハ單ニ法律ヲ以テ彼等ノ勞務ニ對スル報償ニ關シテ規定セル所アルニ過キス是レ實ニ手数料ノ起因ノ第一ニシテ裁判教育等ノ任ニ當レル専門家ハ國法ノ定ムル所ニ從ヒテ直接ニ各個私人ヨリ手数料ヲ徵收シ之ヲ以テ自家ノ勤勞ニ對スル報酬トセリ而シテ其第二ノ起因タルモノハ即チ君主ノ特權ニ基クモノニシテ夫ノ王侯ノ領土權ニ基キテ交通上徵收シタル道路橋梁若ハ運河等ノ通行稅ノ如ク嘗テ「レガリーヤ」トシテ認メラレタルモノ即チ是ナリ夫ノ海關稅ノ知キ永ク手数料中ニ加ヘラレタルモ亦此理ニ外ナラス故ニ此時期ニ於テハ手数料ハ一方ニハ純然タル報償ノ性質ヲ有シ他方ニハ君主ノ特權ニ屬シタルモノナリ

第二期 第十七世紀ノ頃ニ至リ政府ノ機關タル公ノ裁判官ヲシテ司法事務ヲ司ラシムルニ及ヒ之ニ對シテ政府ヨリ俸給ヲ支給シ又裁判官ト訴訟當事者トノ間ニ直接ニ報償ヲ授受スルヲ許サ、ルコト、ナリ始テ政府ノ收入タルヘキ司法上ノ手数料ヲ生シタリ次テ十八世紀ニ至リ夫ノ證券及印紙ニ關スル制度發明セラレ之ヲ裁判上ノ書類ニ用ヒシメ又廣ク一般法律關係ノ書類ニ適用スルニ及ヒ夫ノ手数料ト印紙證券ハ併行ハレ殆ト之ヲ區別スルコト能ハサルニ至レリ從テ一方ニ於テハ此二者ヲ同一視スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ之ヲ租稅ト區別セリ斯ノ如クシテ租稅ハ政府ノ收入トシテ國庫ニ入ルヘキモノトセルモ證券及印紙ハ君主ノ特權ニ屬スルモノト認メラレタルカ故ニ手数料モ亦君主ノ特權トシテ君主ノ手ニ歸屬スルモノトセリ此時期ニ於ケル手数料ハ即チ君主ノ特權ニ基ク收入タリキ

第三期 ニ至リテハ各國政治財政ノ組織一變シテ公私ノ區別漸ク明白ニ所謂近世國家ノ形態次第ニ完備スルニ及ヒ官吏ハ君主ニ屬スル機關ニアラスシテ國家ノ公ノ機關タリ從テ之ニ給スル所ノ俸給ハ之ヲ國庫ヨリ支辨スヘク官吏勤

手数料存在ノ理由

勞ニ對スル收納ハ君主ノ收入ニアラス宜シク政府ノ收入トシテ國庫ニ歸屬スヘキモノト解釋セラル、ニ至レリ加之手数料ノ外租稅ノ徵收ニ關シテモ證券及印紙ノ制度ヲ應用スルニ及ヒ手数料ノ納付義務ヲ一般人民ノ上ニ及ホシ且之ニ對シテ種々ノ階級ヲ付スルニ至レリ是ニ於テカ手数料ハ租稅ト同シク財政上收入ヲ得ルノ目的ヲ有スルモ而モ租稅ト其性質ヲ異ニスル所アルノ理漸ク明白トナリ遂ニ現時ノ觀念ニ到達スルニ至レリ

第三節 手数料存在ノ理由

前二節ニ於テ述ヘタルカ如ク手数料ノ性質ハ國ニ依リ又時ニ依リテ同一ナラス或ハ純然タル私經濟的歲入タルモノアリ縱令公經濟的歲入ニ屬スルモ或ハ君主ノ特權ニ因ル收入ト認メラル、モノアリ或ハ租稅ト同性質ヲ有スルモノアリ詳細ニ之ヲ論スレハ一國一時代ニ於テモ手数料ハ殆ト發達ノ各時期ニ於ケル性質ヲ兼有スルモノアリ是ニ於テカ學者或ハ之ヲ以テ獨立ノ收入ト認ムルヲ否認スル者アリ其說ニ曰ク手数料ハ其有スル性質ニ從ヒテ或ハ之ヲ私經濟的歲入中ニ列シ或ハ之ヲ「レガリーリヤ」ト同一ニ分類シ若ハ之ヲ租稅ト同一ニ論スルヲ以テ足

レリ敢テ特別ノ目ヲ設クルヲ要セスト然レトモ是レ其一ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラサルモノト云ハサルヘカラス各國ノ財政上實際ノ必要ニ應シテ變化スヘキ歳入ノ現状ニ於テハ名ヲ同ウシテ其性質ヲ異ニスルモノ多シ是レ專口財政上自然ノ結果ナリ從テ各國ノ制度區々ニ岐ル、ノ一理由ヲ以テ其歳入ノ存在ヲ否認スルヲ得ス又縱令一ノ歳入カ他ノ歳入ト同一ナル點アリトスルモ此一事ヲ以テ直ニ其歳入ノ獨立存在ヲ認ムルコトヲ否定スルヲ得ス手数料カ報償ノ性質ヲ有ストスルモ其報償ナルモノハ之ヲ以テ直ニ私經濟的歳入ニ於ケル交換ノ意義ト解スルヲ得ス又縱令租稅ト共通ノ性質ヲ有ストスルモ之ヲ以テ直ニ兩者同一ナリト云フコトヲ得ス手数料カ私經濟的歳入ト異リ又租稅ト異ルノ本領ヲ有スル以上ハ之ニ與フルニ獨立ノ地位ヲ以テセサルヘカラサルノミナラス縱令純然タル學理的抽象的觀念ニ於ケル手数料ノ制度ニシテ實在セストスルモ學問上之ヲ以テ歳入ノ一トナスハ毫モ不可ナル所ナシ況ヤ實際ニ於テ其存在ヲ認メ得ヘキニ於テヲヤ

手数料ノ性質果シテ前述ノ如シトセハ手数料ヲ以テ獨立ノ歳入種目ト看做スヘ

キ理由果シテ何レニ存スルヤ抑國家各般ノ政務ハ國民全體ノ幸福ヲ目的トシ其活動ハ公共一般ノ利益ヲ進捗セシメンカ爲メナリ從テ之ニ要スル經費ハ國民全體ニ於テ分擔セサルヘカラサルノ理ナリ然レトモ國家カ其經費ヲ國民全體ニ分擔セシムルニ當テハ成ルヘク公平ニ之ヲ各社會階級ニ分配シ出來得ル限リ其負擔ヨリ生スル苦痛ヲ輕減セサルヘカラス今若シ國家ノ制度又ハ活動ニシテ或人ニ與フルニ他ノ一般人民ニ比シテ特種ノ利益ヲ以テスル場合ニ於テハ是等ノ利益ヲ享受スル人民ヨリシテ其制度ノ維持又ハ活動ノ費用ヲ徵收スルハ國家ノ經費ト人民トノ關係的地位ニ從ヒテ最モ公平ニ其負擔ヲ分ツモノト云ハサルヘカラス縱令各人ニ特殊ノ利益ヲ與ヘサル場合ニ於テモ國家ト或個人トノ關係上之ヲ其特定ノ個人ニ負擔セシムルヲ適當トスル場合ニ於テモ亦同一ナリ然レトモ此制度及國家ノ活動ハ國民全體ノ爲メニ存スルモノニシテ特ニ或個人ノ利益ノ爲メニスルモノニアラス而モ此場合ニ於テ國家ハ又收益手段トシテ之ヲ行フニアラサルカ故ニ毫モ國家ト私人トノ間ニ利益ヲ交換スルノ意思ヲ有セス其經費ヲ負擔セシムルハ單ニ分配ノ問題ニ屬シテ交換ノ理ニ依ラス從テ其徵收スル

モノハ經費ノ額ニ達スルヲ必要トセス是レ此種ノ歳入カ私經濟的歳入ト異ル所以ナリ

手数料ハ斯ノ如ク專ラ分配ノ理ニ基クト雖モ而モ租稅ト其性質ヲ同ウセス租稅ハ前ニ述ヘタルカ如ク一般ノ經費ニ充當スルモノナルカ故ニ其額ハ毫モ特別ノ經費ニ關係ナク又其負擔者ト經費トノ間ニ何等ノ關係ノ存スルコトヲ得ス何トナレハ一般ノ經費ハ即チ一般人民ノ關係スヘキモノニシテ特ニ或一部ノ人民ニ付キテ特別ナル關係ノ存在スヘキニアラサレハナリ故ニ之ヲ各人ニ分擔セシムルニ當リテハ單ニ之ヲ負擔スル者ノ能力ニ應シテ徵收セサルヲ得ス之ニ反シテ手数料徵收ノ程度ハ經費ノ額ニ超ユルコトヲ許サス何トナレハ其經費ハ一般國民ノ爲メニ必要缺クヘカラサル國家ノ職分ヲ遂行スルカ爲メニ生スルモノニシテ特ニ一私人ノ利益ノ爲メニスルモノニアラサルカ故ニ元來之ヲ負擔スヘキモノハ國民全體ニシテ之ヲ一部ノ人民ニ負擔セシムルハ單ニ其負擔ヲ公平ニスルノ趣旨ニ過キス今若シ此一部ノ人民ニ負擔セシムルニ經費以上ノ額ヲ以テスルトキハ一般人民ハ其當然負擔スヘキ犧牲ヲ免ル、ノミナラス却テ其剩餘ニ依リ

テ一般ノ負擔ヲ減シ寧ロ不公平ノ結果ヲ來スヘキカ故ナリ抑手数料ノ場合ニ於テ其經費ニ關係アル一部ノ人民ニ之ヲ負擔セシムルハ彼等カ享有スル特別ノ利益ヲ以テ彼等ノ負擔能力ヲ表示スルモノトスルノ趣旨ニアラス從テ租稅ノ場合ノ如ク主觀的ニ各人ノ能力ヲ標準トシテ負擔ヲ分配スルコトヲ得ス全然客觀的ナル經費ノ額ヲ基礎トシテ其負擔ヲ分タサルヘカラス是レ其分配ノ理ニ基クト云フト雖モ手数料ト租稅トノ間ニ性質上根本的ノ差異アル所以ナリ
手数料ノ本領實ニ茲ニ存ス而シテ其「レガトリヤ」又ハ專賣收入ト異ルコトハ特ニ說明ヲ要セスシテ明ナリ手数料ノ本質既ニ斯ノ如シトセハ其歳入中ニ於テ一個獨立ノ地位ヲ占ムヘキコト明白ナリ縱令財政組織ノ實際ニ於テハ或ハ政治上行政上等ノ理由ニ依リ之ニ加味スルニ私經濟的歳入若ハ租稅等ノ性質ヲ以テスルコトアルモ其制度ノ本領ニシテ既ニ茲ニ存スル以上ハ之ヲ手数料ト稱スルヲ妨ケス又其觀念ノ抽象ニ於テ手数料ノ存在ヲ疑フコトヲ得サルナリ

第四節 手数料ノ率ヲ定ムル標準

手数料ノ本質既ニ前述ノ如シトセハ其率ヲ定ムルノ標準ハ主トシテ國家ノ支出

手数料ノ率ヲ定ムル標準

財政學 歳入論 公經濟的歳入 手数料 總論 手数料ノ率ヲ定ムル標準

シタル經費ノ額ニ依テサルヘカラス是レ手数料カ租税ト異リ外形の客觀的ノ標準アリト稱セル、所以ナリ人或ハ之ヲ稱シテ手数料ノ經費的要素ト云フ然レトモ手数料賦課ノ標準タルヘキ經費ハ各個ノ場合ニ於テ生シタル實費ノ謂ニアラス何トナレハ國家機關ノ設備又ハ其活動ニ要スル費用ハ到底各個ノ場合ニ就キテ正確ニ之ヲ計算シ一々其實費ニ依リテ之ヲ各個ノ人ヨリ徵收スルヲ得サレハナリ從テ手数料賦課ノ標準ハ之ヲ其平均額ニ求メサルヘカラス換言スレハ各個ノ場合ニ就キテ之ヲ觀察セスシテ其大體ヲ通覽シ其各個ノ場合ニ生スヘキ費用ノ平均額ニ據リテ之ヲ徵收セサルヘカラス是ヲ以テ現實ニ各個ノ場合ニ就キテ手数料ヲ觀察スレハ其額或ハ經費ノ額ヲ超ユルコトアルヘシト雖モ其大體ノ標準ニシテ經費ノ額ヲ超ユサル限ハ之カ爲メニ毫モ手数料タルノ性質ヲ妨ケサル、モノニアラス

斯ノ如ク手数料賦課ノ基本的標準ハ即チ經費ニ在リト雖モ之ヲ實際ニ應用スルニ當リテハ時ト所トニ依リテ多少ノ變更アルヲ免レス其第一ハ國家ノ經費ニ因リテ各個人ノ享受スヘキ主觀的利益ノ大小ヲ標準トシテ手数料ノ額ヲ増減スル

場合ナリ抑國家ノ經費ハ必スシモ之ニ因リテ生スル各個人ノ利益ノ多少ト相比例セス否ナ手数料ヲ賦課スヘキ多クノ場合ニ於テハ寧ろ兩者相併行セサルヲ常トス故ニ各個人ノ利益ノ大小ヲ標準トシテ手数料ヲ徵收スルトキハ手数料ノ率ハ漸ク其經費的標準ト相違ラサルヲ得是レ手数料ノ基本的標準カ利益ノ標準ニ依リテ左右セラル、所以ナリ人或ハ之ヲ稱シテ手数料ノ主觀的又ハ利益的標準ト云フ

次ニ手数料ノ基本的標準ニ變更ヲ及ホスモノ、第二ハ行政上ノ理由ニ基キテ手数料ノ額ヲ左右スル場合ナリ例ハ一個人ノ受クル利益ハ之カ爲メニ要スル國家ノ經費ニ比シテ極テ多大ナル場合ノ如キ其全經費ヲ徵收スルモ未タ之ヲ以テ個人ノ之ニ對スル需要ヲ滿スニ足ラス斯ル場合ニ於テハ公益上其濫用ヲ防止制限スルカ爲メニ手数料ノ率ヲ引上クルコトアリ從テ又其額ハ基本的標準ニ從ハサルニ至ル或ハ之ヲ稱シテ行政的標準ト云フコトヲ得ヘシ

斯ノ如ク手数料賦課ノ基本的標準ヲ左右スヘキ原因ノ存在スルカ爲メニ實際ニ於ケル手数料ノ額ハ必スシモ經費ノ大小ニ依ラス從テ或ハ租税ト混同セラレ或

ハ私經濟的歲入ト同視セラル、ヲ免レスト雖モ實際上ノ制度ハ便宜ト實益トヲ主トスルモノナルカ故ニ必スシモ學理的ノ性質ト一致スルコトヲ得ス手数料ノ基本的標準ニ加味スルニ多少是等ノ變更ヲ以テスルモ之ヲ以テ直ニ手数料ニアラストスルコトヲ得ス然レトモ手数料ノ本領ハ其基本的標準タル經費ニ存スルカ故ニ其標準ハ主トシテ此ニ求メサルヲ得ス若シ主觀的標準ニ依リ若ハ行政上ノ理由ニ基キ此基本的標準ヲ動スコト大ナルニ過キテ遂ニ其本領ヲ沒却スルニ至ラハ復之ヲ以テ手数料ト稱スルコトヲ得ス何トナレハ客觀的ノ標準ヲ避ケテ主觀的ノ標準ニ從フノ結果或ハ各個人ノ受クル利益ノ大小ニ依リ或ハ各個人ノ有スル能力ニ從ヒ直接、間接ニ各個人ノ有スル負擔力ヲ標準トシテ手数料ヲ課スル場合ニ於テハ其賦課徵收ハ既ニ特別經費充當ノ主義ニアラス縱令其經費ト關係アル所ノ特定ノ個人ヨリ之ヲ徵收スルモ是レ夫ノ手数料ノ本旨トスル特別ノ經費ヲ之ト關係アル特別ノ者ニ課スルノ趣意ニアラスシテ單ニ此關係ヲ認メテ一ノ負擔力存在ノ現象トシテ之ニ依リテ歲入ヲ得ントスルモノナルカ故ニ其性質全ク租稅ト變シ其手数料ト相似タルハ單ニ外形的ノ關係ニ止ルニ至ルヘキ故

ナリ例ハ我國ニ於ケル狩獵免許料カ其手数料タル性質ヨリ一變シテ租稅ノ性質ヲ帶フルニ及ヒテ狩獵稅ト改稱セラル、ニ至リ又登記料カ變シテ登錄稅トナルニ至リシカ如キ即チ是ナリ蓋狩獵免許出願者ニ免許ヲ與ヘ又ハ登錄申請者ノ爲メニ登錄ヲ爲スカ如キ場合ニ於テ出願者ノ身分、地位、事件ノ大小、價格等ハ毫モ免許又ハ登錄ノ經費ニ影響ヲ及ホスヘキ原因タラサルニ拘ラス是等ノ事項ノ異ルニ從ヒ著シク其賦課スル所ノ金額ヲ異ニスルハ、是等ノモノカ手数料ノ性質ヲ帶ヒスシテ租稅ノ性質ヲ有スルニ至リタルカ故ナリ

第五節 手数料ノ種類

手数料ハ種々ノ觀察點ヨリ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシ今便宜上形式及實質ノ上ヨリ之カ分類ヲ試ミント欲ス

第一款 形式上ノ區別

形式上ノ區別ニ付テモ亦種々ノ分類アリ今其重ナルモノヲ舉クレハ
 第一 國庫手数料及官吏手数料

此區別ハ手数料制度發達ノ沿革上ヨリ來レル區別ニシテ其收納ノ歸屬スル所

形式上ノ區別

手数料ノ種類

ニ基ク分類ナリ國庫手數料トハ直接ニ國家ニ收納セラレ、モノニシテ國家歲入ノ一部トナルモノヲ謂ヒ官吏手數料トハ直接ニ官吏ニ於テ之ヲ收納スルト又一旦之ヲ國庫ニ納メタル後更ニ之ヲ官吏ニ拂渡ストヲ問ハス結局官吏ノ收納ニ歸スルモノヲ謂フ之ヲ嚴格ナル理論ヨリスレハ國家ノ歲入タルヘキ手數料ニ付キテハ其間ニ以上兩者ノ區別ヲ認ムルコトヲ得スト雖モ手數料ノ沿革上前ニ述ヘタルカ如ク手數料ノ初期ニ於テハ手數料ハ總テ官吏手數料タリシカ漸次變化シテ國庫手數料トナリタルモノナルカ故ニ姑ク之カ區別ヲ爲スニ過キス今尙ホ純然タル往時ノ狀態ヲ存シ所謂官吏手數料ト稱スヘキモノハ夫ノ獨逸大學ニ於テ教授カ學生ヨリ徵收スルノ授業料ナリ我國ノ公證人及執達吏ノ手數料ノ如キ亦之ニ類ス唯一ハ純然タル官吏ニシテ一ハ然ラサルノ差アリト雖モ共ニ公ノ職務ヲ執行シタル勤勞ニ對シテ收納スルモノニシテ又國庫收入ノ一部ヲ成サ、ルノ點ニ於テハ即チ一ナリ

官吏手數料ハ官吏ノ俸給ノ一部又ハ全部ニ代ルモノニシテ國庫ノ支出ヲ節約シ兼テ官吏ノ勤勞ヲ獎勵スルノ益アリ實物經濟ノ時代ニ於テハ實際上便宜ノ

制度ナリシカ貨幣制度ノ行ハル、今日ニ於テハ財政ノ統一ヲ妨クルノ弊害少カラス且其徵收ヲ監督スルノ便宜ナキカ爲メ其徵收ハ自ラ擅斷ニ流ル、コトナキヲ得ス加之官吏ヲシテ徒ニ其報酬ヲ得ルカ爲メニ勤務ニ服スルノ念慮ヲ起サシメ公務ニ當ル者ヲシテ其間ニ營業的ノ思想ヲ懷カシムルノ結果ヲ生スルコトハ夫ノ獨逸大學ニ於ケル教授ノ手數料ニ徵シテ明ナリ故ニ近來ニ於テハ手數料ハ原則トシテ國庫ニ歸屬スヘキモノトス

第二 確定手數料及變動手數料

確定手數料トハ同種類ノ公務ニ付テハ其徵收スル手數料ノ額一定不動ニシテ其場合ノ如何ニ依リテ變動スルコトナキモノヲ謂ヒ變動手數料トハ之ニ反シテ其事件ノ異ルニ從ヒ又ハ其場合ノ如何ニ依リテ其率ヲ異ニスルモノヲ謂フ而シテ變動手數料ハ之カ率ヲ定ムル方法ノ如何ニ依リテ更ニ分テ二トス限界手數料及階級手數料是ナリ

限界手數料トハ法規ヲ以テ手數料ノ最大最小兩限度ヲ定メ其範圍内ニ於テ任意ニ官吏ヲシテ決定徵收セシムルモノヲ謂ヒ階級手數料トハ法規ニ依リテ定

メラレタル種々ノ標準ニ從ヒテ之ヲ徵收スルモノヲ謂フ而シテ其階級手数料ノ標準トナルヘキモノハ通常公務ノ繼續時間記録文書ノ紙數大小又ハ其取扱フヘキ事件ノ金額ノ多少等ナリ而シテ此最後ノ金額ヲ標準トスル階級手数料ハ更ニ之ヲ小別シテ等級手数料及比例手数料ノ二トス前者ハ其金額ノ大小ニ比例セス機械的ニ分類シタル等級ニ依リ同一等級内ニ於テハ確定シタル手数料ヲ徵收シ後者ハ全然金額ニ比例シテ徵收セラル、モノナリ

第三 單獨手数料及合同手数料

單獨手数料トハ一ノ連續シタル事件ニ關シテ各個ノ事項ニ付キ各個ノ手数料ヲ徵收スルモノヲ謂ヒ合同手数料トハ一ノ事件全體ヲ一括シテ手数料ヲ徵收スルモノヲ謂フ

實質上ノ區別

第二款 實質上ノ區別

手数料ノ實質換言スレハ手数料ヲ徵收スヘキ場合ニ於ケル國家機關ノ活動又ハ制度ノ種類性質ニ依リテ手数料ノ種類ヲ分ツニ當リテモ亦種々ノ觀察點ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ學者或ハ根本的ニ學理的分類ヲ試ミ國家機關ノ活動若ハ

私人ノ受クル所ノ利益ノ特質ニ依リテ之ヲ數多ノ種類ニ區別スル者アリト雖モ其分類極テ抽象的ニシテ之ヲ實際ノ制度ト比較スルニ頗ル解シ難キモノアリ抑實際上ニ於ケル手数料ノ種類ハ極テ複雑ナルカ故ニ之カ精確ナル抽象的の分類ヲ試ムルハ容易ノ業ニアラス專ラ實際上ノ制度ヲ基礎トシテ之ヲ分類スルヲ以テ便利ナリトス今其普通ノモノヲ舉クレハ

第一 一般手数料及特別手数料

一般手数料トハ各官廳ヲ通シテ一般普通ニ存在スル事務ニ附隨シテ徵收スルモノニシテ特別手数料ト稱スルハ各官廳ニ於テ取扱フヘキ特殊ノ事務ニ付キテ徵收スルモノナリ

第二 司法手数料及行政手数料

此區別ハ各國ノ實際ニ於テ最モ普通ニ行ハル、分類ナリ而シテ余ハ此區別ニ從ヒテ手数料ノ各論ヲ説明セントスルカ故ニ其詳細ハ之ヲ後段ニ譲ルヘシ

手数料ノ徵收法

第六節 手数料ノ徵收法

手数料ノ徵收法ニニアリ一ハ直接徵收法ニシテ他ハ即チ間接徵收法ナリ直接徵

收法ニ在リテハ手数料ノ賦課徴收ニ際シ當局官吏ヲシテ手数料納付者ヨリ直接ニ現金ヲ收受セシメ國庫ノ現金收納ハ各個ノ手数料課徴ト直接ニ相伴フニ反シテ間接徴收法ニ在リテハ國家ハ豫メ印紙證券等ヲ發行發賣シ手数料納付者ヲシテ現金納付ニ代ヘテ之ヲ使用セシメ國庫ノ現金收納ハ各個ノ手数料課徴ト直接相伴ハス手数料ノ徴收ハ間接ノ方法ニ依ルモノトス

手数料ノ初期ニ於テハ其徴收ハ専ラ直接徴收法ニ依リタルモ印紙證券ノ制發明セラル、ニ及ヒ各國相次テ之ヲ採用セシヲ以テ現今各國ノ手数料ハ主トシテ間接徴收法ニ依リテ收納セラル、ニ至レリ加之印紙ノ制ハ手数料ノ外又租稅ニモ應用セラル、ニ及ヒ直接徴收法、間接徴收法ノ區別ハ手数料ニ於ケル徴收方法ノ區別ト云ハシヨリハ寧ロ國家ノ歲入徴收法ノ區別ナリト云フヲ以テ適當トス然レトモ其沿革上ノ理由ヨリ手数料徴收法ノ區別トシテ之ヲ論スルヲ常トスルカ故ニ余モ亦暫ク之ニ從テ説明ヲ試ミント欲ス

抑手数料ハ廣ク各種ノ國家機關ノ活動又ハ營造物等ニ關シテ徴收セラル、モノナルカ故ニ個人ニ對シテ其額ヲ決定シ之ヲ賦課スルニ適當ナル國家機關ハ必ス

シモ歲入ノ收納ニ適當ナルモノニアラス從テ各種ノ國家機關ヲシテ各其司ル事務ニ關シテ手数料ヲ徴收セシムルコトハ財產整理上極テ不便ニ屬スルヲ以テ出納事務ノ統一ト各行政機關ノ活動トヲ調和セシメンニハ勢ヒ現金ノ徴收ト手数料ノ賦課トハ其機關ヲ分タサルヘカラス此目的ヲ達スルカ爲メニ最モ適當ナル方法ハ夫ノ印紙ノ制度ナリ此方法ニ依レハ國家ハ豫メ一定ノ形式ヲ具ヘタル印紙又ハ證券ヲ發行シテ之ヲ人民ニ發賣スルニ因リテ現金ヲ收納シ而シテ人民ハ各個ノ手数料ヲ納付スルニ當リ此印紙又ハ證券ヲ使用スルカ故ニ一方ニ於テ印紙ノ製造販賣ハ之ヲ國家ノ徴收機關ノ手ニ統一スルヲ得ヘク他方ニ於テハ手数料納付ノ原因タル事件ヲ取扱フ當該機關ヲシテ現金出納ノ煩ナクシテ手数料ヲ賦課セシムルコトヲ得ヘシ

斯ノ知ク間接徴收法ハ最モ手数料ノ徴收ニ適スルヲ以テ現今各國ニ於ケル手数料ハ主トシテ印紙ヲ以テ之ヲ收納スルモノトシ直接徴收法ニ依リテ現金ヲ以テ之ヲ收納スル場合ハ其手数料賦課ノ機關カ同時ニ出納事務ヲ取扱フニ適セル財務機關タル場合ニアラスンハ即チ間接徴收法ヲ以テ寧ロ不便ナリトスル場合若

ハ全ク之ヲ應用シ得サル場合ニ限ル例ハ稅務署ニ於テ徵收スル手数料在外領事館ニ於テ收納スル手数料又ハ印紙ノ製造ニ不便ナル地方公共團體ノ徵收スル手数料ノ如キモノ是ナリ

間接徵收法ハ上述ノ利益アリト雖モ一方ニ印紙又ハ證券ヲ必要トスルヲ以テ其偽造、變造、盜用又ハ再貼用等ノ弊害ヲ防止スル爲メニ嚴密ナル監督方法ヲ設ケサルヘカラス且手数料ノ徵收ニ付キテ各個ノ場合ニ於テ國家機關ノ特別ナル意思表示ヲ特タサルカ如キ場合ニ在リテハ其賦課ノ標準單純ニシテ何人ト雖モ之ヲ知リ易キヲ以テ間接徵收法ヲ行フニ必要ナル條件トス何トナレハ若シ其標準複雜ニシテ國民一般ニ之ヲ知ルコト容易ナラサル場合ニ於テハ各個私人ハ自己ノ負擔スヘキ手数料ノ額ヲ確知スルコト能ハス而モ各個ノ場合ニ於テ一々國家機關ノ命令ナキヲ以テ知ラス識ラス脱漏ノ弊ニ陥ルヲ免レサルカ故ナリ例ハ夫ノ郵便料ヲ以テ一ノ手数料ト看做スヘキ場合ニ於テ若シ其料金ノ制度簡單ナラサルトキハ人民ノ切手ヲ貼用スルニ當リ過納又ハ未納ヲ生スル場合極テ多カルヘキカ如シ

手数料ニ於テ間接徵收法ヲ便トスルト同一ノ理由ノ存在スル場合ニハ租稅ニ付テモ亦同シク間接徵收法ヲ採用スルヲ便トス例ハ夫ノ登録稅ノ如キ元來手数料ヨリ發達シタルモノニシテ其形式上之ト同一ノ性質ヲ有スルカ故ニ其徵收ニハ印紙ヲ用フルヲ常トス加之之ト同一ノ理由ナキモ他ニ印紙收納ヲ以テ便利ナリトスル理由ノ存スル場合ニ於テハ租稅ノ徵收ニ之ヲ採用スルコト少カラス例ハ消費稅ノ場合ニ於テ印紙ヲ以テ之ヲ徵收スルカ如シ

是ヲ以テ現今間接徵收法ハ手数料以外ニ廣ク歲入一般ニ適用セラレ、モノニシテ直接、間接兩徵收法ノ區別ハ歲入ノ徵收ニ關スル形式上ノ區別ニシテ實質上ノ區別ニアラス租稅ニシテ之ニ依ルモノアリ又手数料ニシテ之ニ依ラサルモノアリ故ニ歲入ノ一科目トシテ印紙收入ヲ他ノ實質上ノ歲入科目ト併行セシムルハ理論上頗ル妥當ヲ缺クモノト云ハサルヘカラス然ルニ我現行會計上ノ實際ニ於テ印紙收入ヲ以テ他ノ實質上ノ歲入科目ト併立セシムル所以ハ他ナシ我國ニ於ケル印紙ノ形式ヲ統一シタル結果ナリ蓋從前ニ於テハ收入セラルヘキ歲入ノ種類ノ異ルニ從ヒテ特殊ノ形式ヲ具ヘタル印紙ヲ發行シタルカ故ニ各種ノ收入額

ハ一々之ヲ區別シタリト雖モ印紙類統一ノ結果トシテ政府ノ賣下ケタル印紙カ
果シテ若干ノ割合ヲ以テ各種ノ歳入ニ應用セラレタルヤハ之ヲ確知スルコトヲ
得ス蓋印紙收入ニ於テハ其如何ナル時期ニ於テ政府歳入ノ收納アリタルモノト
スルヲ正當トスヘキカ法律上多少問題ニ屬スト雖モ印紙ヲ以テ收納セラル、租
稅ニ於テハ特別ノ賦課處分ナキ場合多キヲ以テ現實ニ納付義務ノ發生時期並ニ
其額ヲ知ルコト能ハス從テ印紙賣下ノ時ヲ以テ收納ノ時期トシ賣下ノ額ヲ以テ
收納ノ額ト看做スハ實際ノ便宜上已ムヲ得サル所アルカ故ナリ

斯ノ如ク印紙收入ハ形式上ノ觀念タルカ故ニ一方ニ實質上ノ觀念タル租稅、手數
料等ト區別スルヲ必要トスルト同時ニ他ノ一方ニ於テ形式的觀念ヨリ名ケラレ
タル印紙稅其モノト區別スルヲ必要トス何トナレハ印紙稅ハ元來形式的ノ觀念
ニ基キ印紙ニ依リテ徵收スル租稅タルニ依リテ名ケラレタルモノナリト雖モ其
形ニ依リテ名ケタル印紙稅ナル名稱ハ此形式ヲ特質トスル所ノ一種ノ租稅ニ屬
スル固有ノ名稱ニシテ單ニ印紙ニ依リテ收納セラル、租稅タルノ意味ニアラス
換言スレハ其名稱ノ起源ハ形式的觀念ニ出ツト雖モ現今ニ至リテハ一種ノ實質

的ノ區別タルニ至リタルカ故ナリ夫ノ學者カ手數料ノ徵收法トシテ間接直接ノ
二法ヲ説明スルニ拘ラス動モスレハ其實論旨ノ印紙稅ニ關スル問題ニ涉ルモノ
アルハ其論理ノ精確ナラサルモノト云ハサルヘカラス

第二章 各論

手數料ヲ大別シテ行政手數料及司法手數料ノ二トスルコトハ實質ニ依ル手數料
ノ分類中最モ普通ニ行ハル、モノナリ而シテ此區別ハ我憲法上亦認メラル、所
ニシテ即チ憲法第六十二條第一項ニ於テ新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法
律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト規定シ其第二項ニ於テハ但報價ニ屬スル行政上ノ手數
料及其他ノ收納金ハ前項ノ限ニアラスト規定セリ此規定ニ依レハ我憲法上手數
料ナルモノハ行政上ノ手數料ニ限ルカ如キ觀アリト雖モ憲法ノ此規定ハ一方ニ
手數料ヲ以テ租稅ト區別スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ司法手數料ト行政手數料
トヲ區別シタルモノニシテ縱令司法手數料ナル文字ナシト雖モ其行政上ノ手數
料ト稱スルハ即チ司法上ノ手數料ナルモノアルコトヲ前提トシタルモノニシテ
行政上ノ手數料ハ法律ヲ以テ定ムルノ必要ナキモ司法上ノ手數料ハ法律ヲ以テ

定メサルヘカラストノ趣旨ヲ明ニシタルモノト云ハサルヘカラスト

料司法手數

第一節 司法手數料

司法手數料トハ司法的事務ニ伴ヒテ徵收セラル、所ノ手數料ナリ手數料カ其沿革上ヨリスレハ其初期ニ於テハ主トシテ司法手數料ナリシコトハ嘗テ述ヘタル所ノ如シ夫ノ塊地利ノ如キハ主トシテ此慣例ニ依リ近來ニ至ルマテ手數料ハ司法手數料ニ限ラレタリ往時司法手數料ハ國庫ニ對シテ多額ノ收入ヲ與フルノ財源タリシカ司法制度ノ進歩ト共ニ其經費著シク増加シ復手數料ヲ以テ之ヲ支辨スルヲ得サルニ至リ而シテ他ノ一方ニ於テ司法制度ハ一般ニ國民全體ノ利益ヲ保護スルモノナルカ故ニ其經費ノ全部ヲ一部ノ人民ニ課スルノ正當ナラサルノ理明ナルニ及ヒ司法手數料ハ單ニ司法制度ニ關スル經費ノ一部ヲ補フニ止ルニ至レリ

司法手數料ヲ分テ訴訟手數料及非訴訟手數料ノ二トス

第一 訴訟手數料

訴訟手數料トハ裁判ニ關スル手數料ニシテ訴訟當事者ヨリ徵收スルモノヲ謂

フ之ヲ分テ二トス

(一) 司法裁判手數料 司法裁判手數料トハ狹義ノ司法ニ關スル手數料ニシテ

司法裁判即チ民刑事ニ關スル裁判ノ手數料ナリ

(1) 民事訴訟手數料 民事訴訟手數料ハ民事訴訟ニ關シテ其當事者ヨリ徵收スル手數料ニシテ當事者ノ請求若ハ主張ノ種類、性質、價額並ニ裁判所ノ階級等ニ依リテ其率ヲ異ニス我民事訴訟用印紙法ノ規定ニ依レハ民事訴訟ノ書類ニ貼用スヘキ印紙ノ額ハ其書類ノ性質ニ依リテ異ル例ハ訴狀タルト抗告、故障又ハ證據關ノ申立等タルトニ依リテ差アリ而シテ訴狀ハ其請求カ財產權ニ關スルト否ト又其第一審ニ係ルト控訴若ハ上告ナルトニ依リテ差アリ而シテ其財產上ノ請求ニ關シテハ其訴訟物ノ價額ニ從ヒ著シク等差ヲ設ケタリ斯ノ如ク訴訟物ノ價額ニ從ヒテ手數料ニ大ナル差異アリト雖モ裁判ニ關スル國家ノ費用ハ必スシモ之ト同一ノ比例ヲ以テ増減スルモノニアラス從テ此場合ニ手數料ノ率ハ甚タシク其基本的標準ニ違ルモノトス斯ノ如ク民事訴訟ノ場合ニ於テ其手數料ノ標準ノ著シク其

基本的標準ト相離ル、所以ハ之ニ依リテ濫訴ノ弊ヲ豫防シ公益ヲ維持セントスルノ目的ニ出ツ從テ縱令訴訟物ノ價額ニ比例スルモ之ヲ以テ直ニ租税ナリト云フコトヲ得ス

學者或ハ司法制度ナルモノハ一般國民ノ權利ヲ保護スルモノニシテ特ニ一私人ヲ利セントスルモノニアラサルカ故ニ之ヲ當事者ニノミ負擔セシムルハ正當ニアラス又其費用ノ負擔ヲ敗訴者ニ歸セシムルハ酷ニ失スルノミナラス如キ負擔ノ存スルカ故ニ貧民ヲシテ其當然主張シ得ヘキ權利ヲモ拋棄セシメ司法制度存在ノ趣意ニ反スルノ結果ヲ見ルニ至ルトノ理由ニ因リテ民事訴訟手数料ヲ非難スル者アリト雖モ裁判ニ因リテ當事者カ一般人民ニ比シテ特殊ノ利益ヲ享有スルハ明白ナルヲ以テ甚タシク高率ニ失スルコトナキ限ハ相當ナル負擔ヲ命スルコト決シテ不當ナラサルノミナラス依リテ以テ濫訴ノ弊ヲ防クコトヲ得ヘシ若シ夫レ訴訟費用ノ負擔ノ如キニ至リテハ其敗訴者ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキコト固ヨリ理ノ當然ニシテ之ニ關シテ復論議スルノ必要ナシ

民事訴訟用印紙ノ外ニ夫ノ舉證者ヲシテ豫納セシムル證據調ノ費用等モ亦民事訴訟手数料ニ屬ス然レトモ民事訴訟法及民事訴訟用印紙法ニ所謂訴訟費用ナルモノハ茲ニ所謂民事訴訟手数料ト其範圍ヲ同ウセス從テ縱令民事訴訟手数料ヲ全廢スルモ民事訴訟費用ヲ敗訴者ニ負擔セシムルノ法制ヲ廢セサル限ハ敗訴者カ全然訴訟ニ關スル負擔ヲ免ル、コトヲ得サルハ明白ナリトス

(2) 刑事訴訟手数料 刑事訴訟手数料ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ヨリ徵收スル手数料ナリ蓋犯罪者ハ其不法行爲ニ因リテ國家ノ勞費ヲ煩シタル者ナルカ故ニ之ヲシテ其費用ヲ負擔セシムヘキコト固ヨリ當然ナリ我刑事訴訟法第二百一條ニ依レハ被告人有罪トナリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔スヘキ言渡ヲ爲スヘク又其免訴若ハ無罪ノ言渡アリタルトキハ公訴ニ關スル訴訟費用ハ國庫ノ負擔ニ歸スヘキモノトナセリ然レトモ刑事訴訟ニ在リテハ民事訴訟ノ場合ノ如ク當事者ノ主張ニ基キ其手数料ノ納付ヲ待テ始テ裁判ヲ爲スカ如

キ手段ヲ採ルコト能ハサルヲ以テ若シ被告人ニシテ無資力ナルトキハ縱令有罪ノ判決ヲ受ケタル場合ト雖モ訴訟費用ハ結局國家ノ負擔タルヲ免レズ此他刑事訴訟法第二百六條ニ依ル判決正本ノ謄本抄本料等モ亦刑事訴訟手数料ノ一種ナリ我國ニ於ケル重罪輕罪控訴豫納金及罰金追徴ニ係ル上告豫納金モ亦此種ノ手数料ニ屬シタルモ現今既ニ廢止セラレタリ

(二) 行政裁判手数料 行政裁判手数料ナルモノハ行政裁判ニ關シテ徵收スルモノニシテ我現行行政訴訟法ニ依レハ行政訴訟文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルコトヲ必要トセサルモ夫ノ行政訴訟ノ豫納金ナルモノハ行政訴訟手数料ノ一種ニ屬ス

第二 非訟手数料

司法裁判所ハ民事刑事ノ訴訟事件ヲ取扱フノ外法律ニ依リテ特ニ規定セラレタル各種ノ事件ヲ取扱フ之ニ關シテ徵收スル手数料ハ即チ非訟手数料ナリ例ハ夫ノ民事商事ノ非訟事件若ハ不動産並ニ船舶ノ登記等總テ權利ノ發生消滅移轉變更等ノ事實ノ公證ニ關スルモノ頗ル多シ非訟手数料中ニ於テ商事非訟

事件印紙法ニ依リテ納付スヘキ手数料ハ最モ訴訟手数料ニ類シ其他各種ノ登記ニ關スル手数料ハ最モ交通稅ト相關聯ス蓋非訟事件ニ關スル裁判所ノ事務ハ近來益増加シ而シテ之ニ關シテ徵收セラル、交通稅ノ愈増加スルハ一般ノ趨勢ナレハナリ而シテ從前手数料タリシモノ漸次租稅ニ轉化シ現今之ニ關シテ徵收セラル、手数料ハ不動産登記簿、商業登記簿並ニ船舶登記簿等ノ閱覽料謄本抄本下付手数料又ハ證明書ノ交付手数料等ナリトス

第二節 行政手数料

行政手数料ハ行政的事務ニ伴ヒテ徵收セラル、手数料ニシテ其種類極テ多シ今之ヲ大別シテ三トス

第一 内務手数料

内務手数料又小別シテ四トス

(一) 警察手数料 警察手数料ハ嘗テ司法手数料ト共ニ手数料中主要ナル地位ヲ占メタリシカ近來漸ク他ノ種類ノ手数料ニ轉化シ若ハ廢止セラレ現今尙ホ存在スルモノ其種類極テ少ナシ夫ノ狩獵免狀再渡又ハ書換手数料外國旅

券下付手数料等之ニ屬シ又請願巡查ノ經費其他感化法若ハ精神病者監護法等ニ依リテ徵收スル費用等モ亦其性質上之ニ屬スルモノトス

(二) 教育手数料 此種ニ屬スルモノ、中其重ナルモノハ各種官公立學校ノ授業料、入學試驗料其他各種ノ檢定試驗料等之ニ屬ス

(三) 衛生手数料 衛生行政ハ警察行政ト最モ密接ノ關係アルモノナルカ故此兩種ノ手数料ハ彼此相關係スルモノ極テ多シ賣藥營業鑑札料、醫術開業試驗及藥劑師試驗手数料、醫術開業免狀、藥劑師免狀等ノ書換手数料ノ如キ是ナリ其他傳染病豫防法若ハ海港檢疫法等ニ依リテ徵收スル消毒ノ費用又ハ健全證書交付手数料等亦之ニ屬ス

(四) 經濟手数料 經濟手数料ハ手数料中其由來最モ新ナルモ其範圍頗ル廣ク其數亦極テ多シ國家ノ行政ハ其始主トシテ自存ノ目的ニ限ラレ次テ漸ク公共ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メニ危害ヲ豫防スルノ行政起リ更ニ進テ積極的ニ國民民福ヲ増進スルノ手段ヲ講スルニ至レリ之ヲ以テ是ヲ觀レハ經濟行政ニ關スル制度カ最後ニ發達シ而モ之ニ關スル手数料ノ日ニ益其多キヲ加

フルハ行政發達ノ沿革上自然ノ順序ト云フヘシ今之ヲ其目的ニ依リテ區別セントセハ農工商其他廣ク百般ノ産業ニ亘ルト雖モ其行政行爲ノ實質ニ依リテ區別スルトキハ大別シテ左ノ五種トナスコトヲ得

- (1) 免許料 トハ各種營業ノ免許ニ關スル手数料ニシテ例ハ度量衡器ノ製作、修覆並ニ販賣ニ關スル免許料及漁業ニ關スル免許料等ノ如シ
- (2) 證明及認定料 トハ政府力或事實ヲ公ニ證明シ又ハ認定スルニ當リ徵收スルモノニシテ例ハ船舶検査證書手数料、船長ノ就職退職公認證手数料又ハ輸納地金品位證明料等ノ如シ其他國家機關カ經濟行政上爲ス所ノ公ノ證明ニ關シテ徵收スルモノハ總テ之ニ屬ス
- (3) 檢定又ハ検査料 トハ度量衡檢定料、蠶種検査料等ノ如ク産業ノ目的ニ關シテ必要條件タル或事項ヲ審査檢定スル場合ニ徵收スルモノナリ
- (4) 監督料 トハ産業ノ發達ニ伴ヒ國家カ之ヲ監督スルニ際シテ其費用ヲ被監督者ヨリ徵收スル所ノモノナリ我國ニ於テハ此種ニ屬スル手数料現存セス

(5) 使用料 トハ各種ノ營造物ノ使用者ヨリ徵收スルモノニシテ郵便、電信及鐵道等ノ料金ヲ手數料ト看做ス場合ハ何レモ此種類ノ手數料ニ屬スヘシ其他水面ノ使用料、博物館ノ觀覽料若ハ我國現今徵收スル所ノ中央氣象臺ノ氣象通報手數料ノ如キ亦之ニ屬ス

第二 財務行政手數料

財務行政ニ關シテ徵收スルモノニシテ夫ノ稅關ニ於テ徵收スル各種ノ手數料其他土地臺帳ノ謄本手數料並ニ租稅滯納者ニ對スル督促手數料ノ如キ即チ是ナリ

第三 軍事行政手數料

陸海軍ニ關シテ徵收スルモノニシテ我國ニ於テハ殆ト之ニ屬スルモノナク強テ之ヲ求ムレハ夫ノ主理試補及理事試補ノ登用試驗手數料ノ如キ之ニ屬スヘキモノトス

第二部 租稅

第一章 總論

租稅ノ觀念

第一節 租稅ノ觀念

公經濟的歲入中國家又ハ公共團體ノ賦課徵收スル絕對的收納ヲ租稅ト云フ租稅及手數料ノ二者カ各國ヲ通シテ未タ必スシモ立法上一般ニ區別セラル、ニ至ラサルコト既ニ述ヘタル所ノ如シ從テ等シク租稅ト稱スルモノニシテ其性質ヲ異ニスルモノナルハ怪ムニ足ラス況ヤ租稅制度ハ各國歴史ノ成果ニシテ各特別ノ沿革ヲ有スルカ故ニ之カ性質ニ關スル學者ノ説明モ亦區々ニ岐レサルヲ得ス余ハ今混雜ヲ避クル爲メニ自ラ最モ精確ナリト信スル定義ヲ掲ケテ其説明ヲ試ミントス曰ク「租稅ハ國家若ハ公共團體ノ一般ノ經費ニ充當センカ爲メニ賦課徵收スル所ノモノナリ」ト今此定義ヲ分析シテ以テ其意義ヲ明ニセン

第一 租稅ハ國家若ハ公共團體ノ賦課徵收スル所ノモノナリ

租稅ハ手數料ト同シク公經濟的歲入ニ屬シ且國家又ハ公共團體ノ賦課徵收スル所ノモノニシテ一方ニ於テハ私經濟的歲入ト異リ他方ニ於テハ同シク公經濟的歲入中ニ於テモ夫ノ「レガ」リヤ「又」ハ專業等ト異ル

第二 租稅ハ一般ノ經費ニ充當スルヲ目的トス

財政學 歲入論 公經濟的歲入 租稅 總論 租稅ノ觀念

是レ租税ノ手数料ト異ル所以ニシテ嘗テ手数料ニ關シテ屢説明セル所ナリ租税ト手数料トヲ區別セサル學者ハ第一ニ述ヘタル如ク單ニ國家又ハ公共團體カ強制的ニ賦課徴收スルヲ以テ租税ノ性質トセリ然レトモ租税ヲ以テ手数料ト區別スヘキモノトセハ勢ヒ一般經費充當ナル觀念ヲ以テ租税ノ特質トセサルヲ得ス手数料ハ國家ノ歲出中其特別ノ經費ニ充當スルコトヲ目的トシテ徴收セラル、ニ反シ租税ハ一般ノ經費ヲ支辨スル爲メニ賦課セラル、モノナリ從テ其額ハ手数料ノ如ク一定ノ制限アルニアラスシテ一般經費ノ額ニ依リテ定マル換言スレハ各種ノ租税トシテ幾何ヲ徴收シ又各個ノ場合ニ於テ若干ノ税額ヲ負擔セシムヘキカハ單ニ一般ノ經費ノ多少ニ依リテ立法者ノ至當ナリト認ムル分配ノ割合ニ應シテ定ルモノナリ從テ其額ニ於テ毫モ制限ノ存スルモノナシ勿論之ヲ賦課スルニ當リテハ其間ニ一定ノ原則存スト雖モ是レ唯經濟上、財政上ノ關係ニ於ケル自然ノ法則ニ基ク制限ニ過キス夫ノ手数料ニ於ケル經費ノ額ニ基ク制限ト同一ノ觀念ヲ以テ之ヲ論スルヲ得サルヤ明ナリ是レ租税カワグネルノ所謂純粹ナル經費ノ原則ニ從フ所以ニ外ナラス

斯ノ如ク租税ハ一般經費ノ支辨ヲ目的トス國家一般ノ經費ハ一國全體ノ生存發達ニ必要ナルモノニシテ其關係ハ廣ク國家一般ニ及ハサルナシ從テ其負擔モ亦宜シク國民一般ノ分ツヘキ所タリ是レ實ニ近來ニ於テ租税ノ負擔カ廣ク社會ノ各階級ニ亘リテ擴張セラレタル所以ニシテ夫ノ納稅義務カ各國憲法上國民ノ義務トシテ一般ニ認メラレタルノ理亦實ニ茲ニ存ス單ニ國民ノミナラス苟モ一國領土内ニ居住シ國家ノ保護ヲ享受スル者ハ縱令臣民ノ分限ヲ有セサル者ト雖モ亦其負擔ニ任スヘキヲ以テ近世國家ノ租税主義トス學者ノ手数料ヲ以テ特別報償的收納トシ租税ヲ以テ一般の收納ト稱スルハ之カ爲メナリ而シテ余カ前者ヲ以テ相對的收納トシ後者ヲ以テ絕對的收納トスルモ亦此理ニ外ナラス

此他租税ニ關シテハ學者ノ説明スル所區々ニ岐ルト雖モ是レ各國特別ノ國情ニ基キ又ハ其沿革ニ從ヒテ觀念ヲ異ニスルモノナルカ故ニ今一々之ヲ辨明セス唯以上述ヘタル説明ト同一種類ニ屬スヘキ定義ニシテ而モ其趣意ヲ異ニスルモノニ對シテハ少シク辨明ヲ爲サルヘカラス

學者或ハ租税ノ觀念ノ一要素トシテ租税ハ公益ノ爲メ徵收セラル、モノナリト説明スル者アリ即チ租税カ公益ノ爲メナルコトハ一方ニ租税ハ公益ノ目的ヲ達スルカ爲メニ徵收セラレ他方ニ於テ租税其自身カ公益ニ適合スルモノタルコトヲ説明スルニ在リ惟フニ租税ハ國家ノ經費ヲ支辨スルカ爲メニ徵收セラル、モノニシテ國家ノ經費ハ公益ノ爲メニ支出セラル、モノナルカ故ニ租税ハ又公益ノ目的ヲ達スルカ爲メニ徵收セラル、モノナリ且公益ノ目的ヲ達スルカ爲メ徵收セラル、租税其モノモ亦公益ニ適合スヘク又適合セサルヘカラサルコト明ナリ然レトモ是レ唯財政上租税ノ存在スヘキ理由タルニ止リ必スシモ現ニ租税トシテ徵收セラル、歳入カ公益ノ目的ヲ達スルカ爲メニシテ且公益ニ適合スヘキヤ否ヤハ自ラ別個ノ問題ニ屬ス縱令明ニ公益ニ反スルコトアルモ其性質上租税タルノ要件ヲ具フル以上ハ之ヲ稱シテ租税ニアラスト云フコトヲ得ス余ハ必スシモ事物ノ目的ヲ以テ其觀念中ニ加フルヲ否認スルモノニアラスト雖モ租税ノ場合ニ於テハ其公益ノ爲メニシ又公益ニ適合スルコトハ租税ノ一般ノ性質ニシテ又之ヲ賦課徵收スルノ根據タルニ止リ之ヲ以テ觀念ノ要素トスルハ不必要タ

ルノミナラス專口其意ヲ害スルノ嫌アリト信ス若シ之ヲ以テ租税ノ觀念ノ要素ナリトセハ公益ノ爲メニスルコトヲ以テ觀念ノ要素トナスヘキモノ豈ニ獨リ租税ノミニ止ランヤ手數料然リレガリヤ亦然リ其他私經濟的歳入ト雖モ亦然ラサルヲ得ス豈ニ獨リ歳入ノミナランヤ歳出ト雖モ亦然リ財政全體モ亦公益ノ爲メナリト云ハサルヘカラス余ハ斯ル廣漠タル觀念ヲ加ヘテ徒ニ其意義ヲ不正確ナラシムルハ定義ノ體裁ヲ得サルモノナリト信ス又之ト同種ノ思想ヲ有スルモノハ夫ノ經濟學上倫理的原素ノ存在セサルヘカラサルヲ主張スル論者ニシテ或ハ國家カ租税ヲ徵收スルニ當リテハ管ニ收入ヲ得ルノミナラス其收入カ倫理的ナラサルヘカラストノ說ヲ唱フル者アリ是等モ亦前者ト同シク其觀念ノ大體ニ於テハ誤ル所ナシト雖モ倫理ナル觀念ニ重ヲ置クニ過キタルモノト云ハサルヲ得ス單ニ財政上、經濟上ノ觀察點ヨリシテ租税ヲ論スルニ當リテハ是等ノ觀念ヲ以テ其定義中ニ加フルノ必要ナシト信ス

租税ノ沿革

第二節 租税ノ沿革

公經濟的歳入殊ニ租税ニ關スル制度カ中世ノ終ヨリ近世ノ始ニ亘リテ漸次ニ發

達シ近代ニ及テ財政上愈重ヲ加フルニ至リシハ嘗テ説明セシ所ノ如シ現今各國ニ於ケル歳入中租税ハ最重要ナル部分ヲ占メ其財政上至大ノ關係ヲ有ス從テ英米ノ學者ハ多ク租税論ヲ以テ財政學ト同一視シ租税ヲ以テ財政學ニ於ケル唯一ノ研究物體トナス者アリ其說ノ論理上誤レルコトハ嘗テ本講義ノ始ニ於テ説明セシカ如シト雖モ又以テ租税カ如何ニ一國ノ財政上ニ重要ナル關係ヲ有スルカヲ知ルニ足ラン

斯ノ如ク租税カ財政上重ヲ成スニ至リタル所以ハ一ハ近來益進ンテ止サル歳出膨脹ノ結果タルヘシト雖モ又一ハ國民經濟ノ進步發達ニ外ナラス蓋資本ノ増加又ハ産業ノ自由ハ愈國民ノ富ヲ發達セシメ其負擔力益増加スルニ從ヒ收税額ノ愈増加スルハ必然ノ理ナリシニフレー嘗テ曰ク租税ハ社會的、經濟的ノ變化ニ因リテ生スル遠心力及求心力ノ結果ナリト蓋經濟社會ニ於ケル各個人活動ノ自由ノ範圍愈廣ク經濟的獨立ノ地位益確實ナルニ從ヒ各個人ノ利益漸ク相分離シテ貧富ノ懸隔益甚タシキニ至ルト雖モ而モ他ノ一方ニ於テハ相獨立分離セル各人ノ利益ヲ包括統合シテ社會的國家的團結ノ下ニ集中スル勢力ノ益盛大トナレル

カ故ナリ

租税ハ斯ノ如ク近代ニ及ヒテ益重要ナル地位ヲ有スルニ至リシモ古代ニ於テモ亦存在セサリシニアラス唯時ト所トニ依リテ大ニ其性質種類ヲ異ニセルカ故ニ今沿革上大略之ヲ分テ三トスヘシ

第一期 專制的租税制度ノ時代

古代東洋ノ專制國其他嘗テ征服ノ行ハレタル諸國ニ存在セシ制度ニシテ主權者若ハ征服者ハ其臣民若ハ被征服者ニ對シ自己ノ欲スルマ、ニ租税ヲ賦課シ毫モ憚ル所ナシ此時ニ當リテハ租税ノ徵收ハ最モ強大ナル權力ノ作用タリ而シテ近世ノ始夫ノ封建制度額レテ中央集權ノ制漸ク確立セラレ而モ未タ近世國家的立憲制度ノ成立ニ至ラサリシ過渡ノ時代ニ於テ歐洲諸國ニモ亦此種ノ時代ノ存在セシヲ見ル

第二期 契約租税制度ノ時代

古代ノ獨逸等ノ如キ農業國ニ於テハ君主ト人民トノ差ハ單ニ其所有地ノ大小ニ過キスシテ君主ハ大地主ノ如ク其所有地ヨリ生スル私經濟的收入ヲ以テ國

用ヲ辨シタリ從テ當時又租稅ノ必要ヲ感セサリキ然ルニ社會ノ進歩ニ伴ヒ從來ノ財源ヲ以テ歲出ノ増加ニ應スルヲ得サルニ至リ多クノ土地山林等ヲ有スル貴族ニ對シテ寄附ヲ求メ之ニ依リテ其費用ヲ支辨スルニ至レリ是レ獨逸等ニ於ケル租稅ノ起源ニシテ古代ノ東洋諸國ニ於ケル租稅ト全ク其趣ヲ異ニス故ニ租稅ヲ徵收スルニ當リテハ自ラ其納付者ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス換言スレハ其承諾又ハ契約ニ基キテ之ヲ徵收セリ故ニ每年大地主又ハ貴族ノ代表者ヨリ成立スル議會ニ於テ豫算ヲ以テ國費ノ必要ヲ證明シ以テ彼等貢獻者ノ承諾ヲ求メタリ是レ實ニ國會ニ於ケル豫算議定ノ濫觴ニシテ租稅ノ起源ハ主トシテ承諾ニ出テタリ次テ新ニ租稅ヲ賦課シ又ハ之ヲ增徴スル場合ノ外ハ毎年其承諾ヲ得ルヲ必要トセサルニ至リ租稅ハ始テ永續的ノ性質ヲ有シ現行ノモノハ之ヲ改廢セサル限ハ舊ニ仍テ徵收スルモノトセリ是ニ由テ之ヲ觀レハ歐洲諸國ニ於ケル租稅ノ起源ハ地主貴族等カ君主ニ對スル貢獻ノ承諾ニ起源セリ唯此時代ニ於テモ法律上ノ保障ヲ有セサル奴隸猶太人等ニ至リテハ東洋諸國ニ於ケルカ如キ專制的重稅ノ賦課ヲ被レリ

第三期 國民經濟的租稅時代

近代ノ國家ニ於テハ納稅義務ハ一般國民ノ本分トシテ憲法ノ認ムル所ナルト同時ニ租稅ハ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラサルコト亦各國憲法ノ採用セル原則タリ是レ沿革上第二期ニ存在セル租稅ニ關スル議會ノ承諾ニ起因スト雖モ今日ノ法律協賛ニ關スル議會ノ權限ハ第二期ニ於ケルカ如ク主權者ニ對スル承諾又ハ契約タルノ意味ニアラス國民ハ國民タルノ本分ニ於テ當然國家ノ經費ヲ分擔スヘク其間ニ自由意思ノ存在ヲ許サス而モ之カ賦課徵收ハ一定ノ規矩準繩ニ據ルヘキモノニシテ夫ノ專制租稅ニ於ケルカ如ク主權者任意ノ行動ヲ許サス國民ハ一方ニ於テハ絕對ノ納稅義務ヲ負擔スルト同時ニ一方ニ於テハ之ニ關シテ法律ノ保障ヲ有ス余カ之ヲ稱シテ國民經濟的の制度ト稱スル所以ハ其租稅タル國民經濟全體ノ負擔ニ歸スルカ故ナリ換言スレハ專制制度ニ於ケルカ如ク主權者ノ任意ノ指定ニ因リテ特殊ノ人民ノ負擔スル所ニアラス又契約制度ニ於ケルカ如ク承諾ヲ與ヘタル特殊ノ階級ノ負擔タルニアラスシテ其負擔ハ實ニ國民經濟全體ノ任スル所ナリ然レトモ國民經濟ノ負擔ニ歸ス

ト云フハ必スシモ國民經濟ニ參與スル所ノ各個私人ニ付キ總テノ者カ直接ニ之ヲ負擔スルノ意味ニアラス其負擔ノ有無大小ハ之ヲ負擔スル所ノ能力及資產ノ多少ニ依リテ差等アリ而モ其差等ハ經費ノ負擔ヲシテ各國民ニ平等一様ナラシメ而シテ又實ニ國民經濟全體ニ通シテ適當ナル負擔タラシムルニ存スルヲ謂フナリ

要スルニ租税ノ制度ハ經濟社會ノ進歩ニ伴フ歴史的生産物ニシテ國ニ依リ又時代ニ依リテ同一ナラス之ヲ各國ノ文字ニ付テ考フルニ今日ニ於テ租税ナル意味ヲ有スル文字ニシテ或ハ專制時代ノ思想ヲ現ハスモノアリ或ハ契約時代ノ意味ヲ含ムモノアリ或ハ又國民經濟時代ノ觀念ヲ表示スルモノアルカ如キハ何レモ各國特別ノ沿革ノ然ラシムル所ニ外ナラス

第三節 國家課稅權ノ基礎

近來ノ文明國ニ於テハ納税ハ憲法上認メラレタル一般國民ノ義務ニシテ苟モ生ヲ斯土ニ享ケ澤ニ斯邦ニ浴スル者貴賤貧富ノ別ナク總テ納税ノ義務ヲ免ル、コトヲ得ス租税ハ實ニ近世ノ國家ニ缺クヘカラサル歳入ノ要素ニシテ課稅權ハ國

國家課稅
權ノ基礎

家ノ生存ニ缺クヘカラサルノ機能タリ從テ國家課稅權ノ基礎ニ付テハ復其間ニ疑ヲ挾ムノ餘地ナキカ如シト雖モ法律學上刑法學者カ刑罰權ノ基礎ニ疑ヲ懷キ或ハ行政法學者カ警察權ノ基礎ニ付キテ議論スルカ如ク財政學者モ亦國家課稅權ノ基礎ニ付キテ議論セル者多シ蓋契約租稅制度ノ時代ニ於テハ國家ハ契約ニ基キテ租稅ヲ徵收スル權利ヲ有ストナシ又夫ノ社會契約說ノ行ハル、ニ當リテハ國家ノ課稅權ハ社會組織ノ初ニ當リテ吾人ノ祖先カ納税ノ義務ヲ負フヘキ契約ヲ爲シタルニ因ルト唱ヘタルカ如キ當時ノ思想ニ於テハ課稅ノ基礎ニ付キ是等各種ノ議論アリシコト必スシモ怪ムニ足ラス而シテ之ヲ現今ノ法律思想ヨリ云フトキハ國家ハ萬能ナリ國權ハ無限ナリ租稅ヲ徵收スル所ノ權力モ刑罰ヲ行フ權力モ一ニ國家ノ萬能無限ノ權力ノ結果ニ外ナラス若シ夫レ其間ニ疑ヲ挾マハ問題ハ何故ニ國家ノ權力ハ無限ナルヘキカニ在リ特ニ課稅權ノ基礎ニ付キテ疑ヲ懷クカ如キハ事口議論ノ末ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス然レトモ之ヲ社會組織ノ根本ノ理ニ照シテ何故ニ吾人ハ國家ニ對シテ納税ノ義務ヲ負擔スルカノ問題ヲ研究スルハ必スシモ無用ノ業ニアラス況ヤ之ニ關シテ古來幾多ノ異

リタル議論ノ存スルノミナラス其思想ノ異ルニ從ヒ租税ニ關スル所ノ一般學說モ亦自ラ異ルヘキニ於テヲヤ故ニ余ハ以下簡短ニ之カ大要ヲ述ヘントス：

斯ノ如ク國家課税權ノ基礎ハ法律上ノ解釋トシテ何故ニ臣民ハ國家ニ對シテ納税ノ義務ヲ負擔スルカノ問題ニアラス法律上ヨリスレハ吾人ノ納税義務ハ國家ノ命スル所タリ憲法ノ定ムル所タリ又税法ノ規定スル所タリ其間毫モ疑ヲ挾ム餘地アルコトナシ吾人ノ知ラント欲スル所ハ何故ニ吾人ハ法律上斯ル義務ヲ負擔セサルヘカラサルカ又何故ニ國家ハ吾人ニ對シテ斯ル權力ヲ有スルカノ根本的問題ニ在リ今之ヲ沿革上實際ニ付テ觀察スレハ大約三期ノ變遷ヲ經過セリ

第一 古代

古代ニ於テハ課税權ノ基礎ハ全ク戰勝者ト戰敗者換言スレハ征服者ト被征服者トノ間ニ於ケル服從的關係ニ基ケリ租税ハ優者カ自己ノ必要ヲ滿スカ爲メニ劣者ニ對シテ強制スル所ノ貢獻ニシテ單ニ從屬ノ關係、威壓ノ結果ニ外ナラス是レ古代ニ於ケル東洋ノ專制國又ハ希臘羅馬等ニ於ケル歴史ノ證明スル所ニシテ此時代ニ於テハ社會ニ於ケル優等ナル階級ハ毫モ租税ヲ負擔スルコトナカリキ

古代

中世

第二 中世

中世ニ至リテハ課税權ノ根據ヲ以テ一ハ租税ハ恰モ腦髓ノ人身ニ於ケル如ク國家ノ爲メニ必要缺クヘカラサルモノナルコト、一ハ人民ハ元來國家ニ從屬スルモノナリトノ二點ニ歸スルノ思想ヲ生シタリ蓋政治法律ノ學問漸ク發達スルニ從ヒ學問的課税ノ根據ヲ説明セント欲シタルカ故ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ中世ニ於ケル此思想ハ一ハ古代ノ說ヲ承繼シ一ハ近世ニ於ケル必要說ト同一思想ニ依リタルモノト云フコトヲ得ヘシ同時ニ此時代ニ於テ又課税權ノ基礎ト認メラレタルモノハ夫ノ契約說ニシテ租税ハ素ト人民ト國家トノ契約ニ基キテ徵收セラル、モノトナシタリ

第三 近世

近世ニ及ンテ自然法說ノ發達ト共ニ政治法律學ノ研究漸ク隆盛トナリ課税權ノ基礎ニ付キテモ亦種々ノ議論ヲ生スルニ至レリ

一 對價說 此說ハ英國ノ哲學者ホップスノ始テ主張シタル所ニシテ租税ヲ以テ人民カ國家ヨリ購フ安寧ノ對價トナシ國家ハ人民ノ安寧ヲ保護スルモノナル

近世

カ故ニ國家ハ之カ對價トシテ租稅ヲ徵收シ得ルモノトセリ既ニ租稅ヲ以テ安寧ノ對價トス故ニ其額ハ人民カ國家ヨリ受クル保護ノ大小ニ比例スルモノトナサ、ルヘカラス從テ租稅ハ相互提供ノ原則ニ依リテ支配セラルヘキモノニシテ其性質手數料ニ近ツカサルヲ得サルニ至ル何トナレハ手數料ハ其性質上必スシモ報酬ノ意味ヲ含マスト雖モ其性質上相對的ノモノナルカ故ニ租稅ニ比シテ一層報償ノ意味ニ近キカ故ナリ

然レトモ國家ノ活動國家ノ機能ハ之ヲ説明スルニ經濟上ノ議論ヲ以テスルコト能ハス又國家ノ臣民ニ對スル保護ハ之ヲ以テ財貨ノ生産ト同一視スルヲ得ス從テ其經費ノ負擔ヲ以テ物ノ對價ノ支拂ト看做スヲ得サルコト深ク論スルヲ要セス國家ノ活動ハ其生存ヲ全ウスルカ爲メニシテ又其機能ハ臣民ノ福利ヲ増進センカ爲メナリ而シテ其活動ノ範圍其保護ノ及フ所ハ廣クシテ及ハサル所ナシ然レトモ各個ノ臣民ニ付キテ之ヲ觀察スレハ其保護ノ多少及恩澤ノ厚薄ハ必スシモ之ヲ平等一様ナリト云フコト能ハス縱令平等ナリトスルモ各個人民ハ到底其貧富ノ別ナク平等一様ノ負擔ニ堪フルコト能ハサルヲ奈何セ

ン若シ之ヲシテ平等ナラサラシメハ彼等ノ享有スル福利ノ程度ハ果シテ何等ノ標準ニ據リテ之ヲ定ムヘキカ租稅ヲ論スルニ價格ノ理ヲ以テスルカ如キハ當ニ其理論ニ背反スルノミナラス到底之ヲ實行スルヲ得サル架空ノ論タルヲ免レス

二 保險說 此說ハモンテスキューミラボー其他ノ自然法學者ノ唱ヘタル所ニシテ租稅ヲ以テ國民カ其生命財產ニ對スル國家ノ擔保ニ對シテ支拂フ所ノ保險料ナリトスルモノナリ此說ノ誤レルコトハ特ニ説明ヲ要セスシテ明ナリ抑保險ハ價格ノ理ニ基ク既ニ前述セル如ク租稅ヲ論スルニ價格ノ理ヲ以テ説明スルヲ得ストセハ之ヲ説明スルニ保險料ヲ以テスルコトヲ得サルヤ亦明ナリ人ノ生命ハ其價格ヲ評定スルヲ得ス財產ノ價格ハ之ヲ測定スルヲ得ヘシト雖モ租稅ノ額ハ各人ノ財產ノ高ト其危險ノ程度ニ比例スルヲ得サルコト明白ナリ租稅ニシテ若シ財產ニ對スル保險料ナリトセハ危險ノ少ナキ財產ヲ有スル者ハ其負擔モ亦尠カラサルヘカラス然ルニ事實ハ却テ之ニ反シ租稅ノ額ハ其財產ノ確實ナルモノニ對シテ却テ多額ナルハ明ニ其保險料ニアラサルコトヲ證

明スルモノト云フヘシ況ヤ國家ノ保護ハ單ニ保護タルニ過キスシテ保險ニアラサルニ於テヤ國家ハ人民ノ生命財産ヲ保護スヘキ職分ヲ有スルモ毫モ其危險ニ關シテ人民ニ對シ擔保スル所ナシ

三 霑浴說 此說ハロツク、スタイン等ノ唱ヘタル所ニシテ現今尙ホ多少ノ勢力ヲ有ス此說ニ依レハ租稅ハ人民カ其國家ノ恩澤ニ浴スルカ故ニ負擔スルモノニシテ其額ハ恩澤ノ程度ニ比例スヘシトス彼等ハ租稅ヲ以テ必スシモ其恩澤ニ對スル對價ナリト云ハス又其保護ニ對スル保險料ナリト云ハス此點ニ於テ前二說ニ比シ一步ヲ進メタルモノト云フコトヲ得ヘシ然レトモ此說ハ未タ第十八世紀ニ於ケル所ノ法治國說ノ觀念ヲ脱却セサルモノナリ縱令租稅ヲ以テ對價トセス又保險料ナリトナサ、ルモ其根據ヲ國家ノ恩澤ニ置クカ故ニ其租稅ノ額タルヤ自ラ恩澤ノ有無及其厚薄ヲ標準トナサ、ルヲ得ス然レトモ恩澤ノ程度ノ測定スヘカラス又租稅カ之ト比例スルヲ得サルコトハ既ニ前說ニ關シテ述ヘタル所ノ如シ

四 義務說 此說ハ課稅權ノ基礎ハ其納稅カ國民ノ義務タルニ在リト云フニ在リ其趣旨ニ於テ何等誤ナシト雖モ其說明タルヤ法理ニ拘泥スルノミナラス單ニ事實ヲ陳述スルニ過キスシテ毫モ問題ヲ解説スルニ足ラス何トナレハ吾人ノ知ラント欲スルハ何故ニ國民カ此義務ヲ負フヤニ在レハナリ

五 必要說 此說ハ租稅ヲ以テ國家ノ生存發達上ノ必要ニ出ツルモノトス抑國家ハ一ノ有機體トシテ獨立ノ生命ヲ有ス既ニ生命アリ之ヲ維持セサルヘカラス又其發達ヲ期セサルヘカラス國家ニシテ其生存發達ヲ必要ナリトセハ宜シク之ヲ遂行スルノ手段ヲ具備セサルヘカラス其手段ノ一ハ即チ財政ナリ國家ハ其生存發達ヲ遂行スルニ要スル財貨ヲ獲得シ又之ヲ消費セサルヘカラス若シ國家カ其歲入ヲ私經濟的手段ニ求メ得ヘシトセハ即チ可ナリ若シ之ヲ求ムルヲ得ス若ハ之ヲ求メ得ヘシトスルモ尙ホ之ヲ以テ不足ナリトスル場合ニ於テハ國家ハ宜シク他ノ手段ニ依リ其收入ヲ圖ラサルヘカラス是レ即チ公經濟的手段ニシテ其主要ナルモノハ實ニ課稅權ナリ國家ノ歲入ハ其生存發達ニ絶對的必要ナリ之ナクハ國家ハ其生命ヲ全ウスルコトヲ得ス國民モ亦其生活ヲ維持スルコト能ハス抑各個人ノ生存上國家的團結ヲ必要トシ國家的團結ノ

存在スル上ニ於テ歳入ノ手段ヲ必要トセハ國家ノ構成分子タル國民ハ自ラ其必要ヲ分擔セサルヘカラス從テ此負擔ハ人類共存ノ上ニ於テ絶對ニ必要ナルモノナリ國民ハ國家ノ一員トシテ有機體ノ一分子ヲ成スモノナルカ故ニ其國家全體ノ生存ヲ全ウスヘキ手段ヲ講スルニアラスハ其一部タル各個人モ亦其生命ヲ全ウスルコトヲ得ス換言スレハ吾人ノ納稅ハ國家ノ生命ヲ維持スルニ必要ナルト同時ニ又吾人自身ノ生命ヲ維持シ其發達ヲ圖ル上ニ於テ一日モ缺クヘカラサルモノナリ彼等カ租稅ヲ負擔スルハ曾テ國家ニ對シテ納稅ヲ契約シタルカ故ニアラス又國家ノ權力ニ依リテ征服セラレタルカ故ニアラス將又其保險ヲ受ケ若ハ其保護ヲ購フカ爲メニアラス其關係ハ單ニ人類共存上ノ必要ニ基ク從テ其負擔ハ國家ノ必要ニ依リテ定ルヘキモノニシテ國家ヨリ受クル保護ノ厚薄ニ依ルモノニアラス又其受クル利益ノ多少ニ從フヘキモノニアラス唯其レ人類共存上ノ必要ニ依リテ決定セラルヘキモノナリ而シテ人類共存ノ必要ハ遂ニ各人ヲシテ其資力ニ應シテ公益ノ爲メニ其私產ヲ犠牲ニ供セシムルニ至レリ從テ貧者ハ多クノ保護ヲ受クルモ時トシテハ毫モ其負擔ニ

任セサルコトアリ富者ハ其保護ヲ受クルコト少ナシトスルモ其負擔ヲ分ツコト大ナルコトアリ是レ近世ニ於ケル課稅主義ニシテ又國家課稅權ノ基礎トスル所ナリ

租稅ニ關スル術語

第四節 租稅ニ關スル術語

租稅制度ニ關スル説明ヲ爲サンニハ先ツ之ニ關シテ用ヒラル、言語ノ意義ヲ精確ニスルノ必要アリ然ルニ從來多數學者ノ用フル所ヲ見ルニ各區々ニ岐ル、ノミナラス同一ノ學者ニシテ其場所ヲ異ニスルニ從ヒ用語ノ意義ヲ異ニスルモノ少カラス若シ斯ノ如ク其意義確定セサルトキハ租稅制度ノ説明ニ便ニセンカ爲メニセル術語ノ説明モ却テ反對ノ結果ヲ生スルノ恐アリ是ヲ以テ其用語ノ意義ヲ正確ナラシムルカ爲メニハ普通ノ説明ニ對シテ多少ノ變更ヲ加ヘサルヘカラス是レ余カ以下説明スル所ニ於テ稍一般ノ解釋ト異ル所アル所以ナリ

第一 稅源 稅源トハ租稅ノ依テ以テ支拂ハル、所ノ泉源ニシテ直接ニ政府ニ對シテ租稅ヲ納付スルト否トヲ問ハス經濟上ノ關係ニ依リ結局一國租稅ノ支拂ハル、所ノ財源ヲ指稱ス而シテ一國ノ租稅ハ國民ノ財產ノ一部ヲ割キテ國

用ニ供スルモノナルカ故ニ稅源ハ即チ年々新ニ生スル所得若ハ國民ノ從來蓄積シ來リタル財產ニ外ナラス然リト雖モ一國租稅制度ノ永久亘常ノ稅源ト認ムヘキハ即チ前者ニ在リ蓋租稅ニシテ國民ノ所得額ヲ超エテ其從來蓄積セル財產ノ一部ヲ請求スルコトアラハ國富ノ増進ハ得テ期スヘキニアラサレハナリ

第二 租稅ノ主體 租稅ヲ客觀的ニ觀察スレハ即チ國家徵稅權ノ目的タリ而シテ此場合ニ於ケル徵稅ノ主體ハ國家其他ノ公共團體ニシテ其客體ハ人民ニ外ナラス然レトモ普通ニ租稅ノ主體ト云フハ之ヲ納付者又ハ負擔者ノ方面ヨリ觀察シテ法律上國家ニ對シテ納稅ノ義務ヲ負擔シ又ハ經濟上ノ關係ニ因リテ租稅ヲ負擔スル者ヲ指示スルヲ常トス是ニ由テ之ヲ觀レハ租稅ノ主體ニ二種ノ別アリ即チ一ハ納稅者ニシテ他ハ擔稅者ナリ而シテ其納稅者ナルモノハ法律上納稅義務ヲ負擔スル者ニシテ其納付セラル、租稅カ結局自己ノ負擔ニ歸スルト否トヲ問ハス之ニ反シテ擔稅者トハ自己カ直接ニ國家ニ對シテ納稅ノ義務ヲ負擔スルト否トヲ問ハス經濟上自然ノ關係ニ因リテ結局租稅ノ負擔ヲ

免レサル者ヲ謂フ從テ前者ハ純然タル法律上ノ觀念ニシテ後者ハ全然經濟上ノ觀念ニ出ツ而シテ納稅者ハ時トシテ同時ニ擔稅者タリ又時トシテハ二者其人ヲ異ニス直接稅ト間接稅トノ區別ハ實ニ二者其人ヲ同ウスルト否トノ差ニ基クモノナリ例ハ所得稅ノ如キ直接稅ニ於テハ法律上納稅ノ義務ヲ負擔スル者ハ同時ニ經濟上ノ負擔者タリ之ニ反シテ酒稅又ハ砂糖稅ノ如キ間接稅ニ於テハ法律上納稅ノ義務ヲ負擔スル者ハ其製造業者等ナリト雖モ之カ結局ノ負擔ノ歸スル所ハ其消費者ナルカ如キ即チ是ナリ

第三 租稅ノ物體 租稅ノ物體トハ租稅ノ依テ以テ賦課徵收セラル、所ノ基礎ヲ謂フ抑國家カ租稅ヲ賦課スルニ當リテハ先ツ其基礎トシテ租稅ノ主體ニ關シテ存在スル一定ノ事實ヲ捉ヘサルヘカラス是レ即チ租稅物體ノ第一義ナリ然レトモ此事實ニ基キテ租稅ヲ課スルニハ尙ホ進テ此事實ト相關スル具體的ノ物體ヲ求メサルヘカラス是レ即チ租稅物體ノ第二義ナリ然レトモ租稅ヲ實際ニ賦課スルニ當リテハ更ニ一步ヲ進メテ此具體的ノ物體ニ付キ尙ホ數量ニ依リテ一定ノ標準ヲ見出サ、ルヘカラス是レ即チ租稅物體ニ關スル第三義ナ

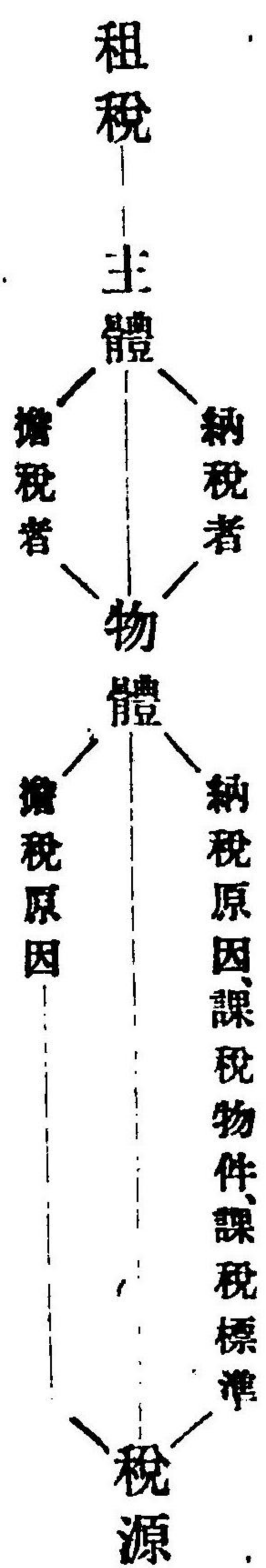
リトス

斯ノ如ク租税ノ物體ハ等シク課税ノ基礎ナリト雖モ精密ニ之ヲ論スレハ其行程ヲ一ニセス加之課税ノ基礎ハ之ヲ納税者ニ付キテ觀察スルト擔税者ニ付キテ觀察スルトニ依リテ大ナル差異アリ從來學者カ漠然之ヲ稱シテ或ハ課税ノ基礎ト稱シ或ハ課税ノ標準ト稱シ而モ此三種ノ意義中時トシテハ其一ヲ取り時トシテハ他ノ一ニ從ヒ加之或ハ之ヲ納税者ニ付テ論シ或ハ之ヲ擔税者ノ方面ヨリシテ論スルカ如キ者アルハ用語ノ當ヲ得タルモノト云フヲ得ス故ニ余ハ今是等ノ意義ヲ區別シテ次ノ如ク云ハントス

(一) 納税又ハ擔税ノ原因 是レ即チ租税物體ノ第一義ニシテ即チ租税ノ主體ヲシテ租税ヲ納付シ又ハ負擔セシムヘキ原因タル事實ヲ謂フ例ハ此意義ニ於ケル地租ノ物體ハ土地ノ所有者タリ若ハ質權者タルノ事實ヲ指スモノニシテ酒造税ノ物體ハ納税者ニ付テ云ヘハ酒ノ製造ニシテ擔税者ニ付テ云ヘハ酒ノ消費ナリ

(二) 課税物體 是レ即チ租税物體ノ第二義ニシテ即チ租税賦課徵收ノ目的タルヘキ物體ヲ謂フ例ハ此意義ニ於ケル地租ノ物體ハ即チ土地ニシテ酒造税ノ物體ハ即チ酒ナリ

(三) 課税ノ標準 是レ即チ租税物體ノ第三義ニシテ課税物體ニ關スル量ナリ而シテ租税ハ之ヲ標準トシテ賦課セラル、モノナリ例ハ此意義ニ於ケル地租ノ物體ハ地價ニシテ酒造税ノ物體ハ酒ノ石數即チ容積ナリトス
右(二)ト(三)ノ場合ニ於テモ亦此觀念ハ之ヲ納税者ト擔税者トニ區別シテ説明スルコトヲ得然レトモ之ヲ(一)ノ場合ニ比スレハ頗ル複雑ナルノミナラス此場合ニ擔税者ノ方面ヨリシテ租税ノ物體ナル名稱ヲ用フルコト極テ稀ナルヲ以テ今混雜ヲ避クル爲メ暫ク之ヲ省ク
以上述フル所ヲ明瞭ナラシムル爲メ之ヲ圖解セハ左ノ如シ



是ニ由テ之ヲ觀レハ納稅者ト擔稅者トカ別個ノ人格ナルトキハ一旦國家ニ對シテ納稅ノ義務ヲ果スモ其負擔ハ結局擔稅者ニ歸スヘキモノナリ換言スレハ國家ハ租稅ノ真正ノ負擔ヲ擔稅者ニ歸セシムルカ爲メニ其手段トシテ之ヲ納稅者ニ課スルニ過キス而シテ又租稅ノ物體ナルモノハ單ニ納稅者ニ對シテ租稅ヲ賦課スルノ目的タリ標準タルニ過キスシテ其支拂ハル、所ハ結局稅源ニ在ルカ故ニ納稅者ト擔稅者トノ關係ハ猶ホ租稅ノ物體ト稅源トノ關係ノ如シト云フヘシ

稅源ハ租稅ノ依テ以テ支拂ハル、泉源ナルカ故ニ課稅ノ額ハ稅源ノ多寡ト相比例スルコトヲ以テ最モ適當ナリトス從テ稅源其モノヲ以テ課稅ノ標準トスルヲ以テ最モ理論ニ合セリトナスヘキモ租稅ノ制度ヲシテ此複雜ナル經濟社會ノ實際ニ適合セシメントセハ勢ヒ各種ノ稅目ヲ設ケサルヘカラス從テ稅源ト課稅ノ標準トハ必スシモ相一致スルコトヲ得ス否ナ寧ロ相一致セサルヲ以テ常態トス例ハ所得稅ニ於テハ其稅源及課稅ノ標準共ニ各人ノ所得ニ存スルモ砂糖稅ノ場合ニ於テハ其稅源ハ消費者ノ所得ニシテ其標準ハ製造又ハ消費

セラル、砂糖ノ數量ナルカ如シ

租稅ハ其物體ニ依リテ名稱ヲ附スルヲ常トス何トナレハ若シ其稅源ヨリスルトキハ何レノ租稅ト雖モ皆所得稅又ハ廣義ノ財產稅トナルヘキカ故ナリ而シテ其物體ニ依リテ之ヲ名クルニ當リ或ハ納稅ノ原因ニ依リ或ハ課稅物件ニ依リ或ハ又課稅ノ標準ニ依リ又時トシテハ擔稅ノ原因タル事實ニ依ルコトアリ是レ前ニ余カ是等ヲ區別シテ説明シタル所以ナリ例ハ營業稅ハ納稅ノ原因タル物體ニ依リ地租ハ課稅ノ物件タル物體ニ依リ酒造稅ハ課稅ノ標準タル物體ニ依リ又砂糖消費稅ハ擔稅ノ原因タル物體ニ依リテ名ケラレタルカ如シ

第四 租稅ノ單位及稅步並ニ稅率 租稅ノ單位トハ各種租稅ノ物體即チ課稅標準ノ一定量ニシテ租稅バ之ヲ基礎トシテ徵收セラル、モノナリ稅步トハ租稅ノ單位ニ對シテ徵收セラル、租稅ノ額ニシテ租稅ノ物體カ價格ヲ以テ言ヒ表ハサル、場合即チ從價稅ノ場合ニ於テハ其單位モ亦價格ナルヲ以テ租稅ノ割合ハ直ニ租稅ノ物體ニ對スル一定ノ比率ヲ以テ表示セラルヘシト雖モ若シ其物體ニシテ他ノ數量即チ數度量衡等ヲ以テ示サル、場合即チ從量稅ノ場合ニ

於テハ租税ノ割合ハ物體ニ對スル一定ノ比率ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ得ス何トナレハ租税ノ物體カ金錢以外ノ量タル場合ニ於テモ之ニ對スル租税ハ金錢ヲ以テ納付セラル、ヲ常トスルカ故ナリ例ハ所得税ノ物體ハ金額ヲ以テ表示セラル、カ故ニ租税ノ額ハ直ニ所得金額ノ何分ノ一ナル比率ヲ以テ表示セラル、ニ反シ酒造税ニ在リテハ其物體ハ釀造セラレタル酒類ノ石數ナルヲ以テ其租税ハ單位ニ對スル一定ノ金額例ハ一石ニ付キ何圓ト云フカ如キ方法ヲ以テ表示セラル、カ如シ斯ノ如ク從價税ノ場合ニ用ヒラル、課税標準ト之ニ對スル税額トノ割合ヲ示ス比率ヲ稱シテ税率ト云フ但税法ノ實際ニ於テハ稅歩ト税率トヲ總稱シテ税率ト稱スルヲ常トス

第五節 租税ノ分類

第一款 總論

租税ノ種類ハ極テ多ク其分類ノ方法モ亦種々ノ標準ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ今其重ナルモノヲ擧ケレハ

第一 實物税及貨幣税 此區別ハ租税トシテ納付セラル、財貨ノ物質ヲ基礎ト

租税ノ分類
總論

シタル分類ニシテ實物經濟ノ行ハレタル時代ニ於テハ租税ノ多クハ實物ヲ以テ納付セラレタルモノトス茲ニ所謂實物トハ廣キ意味ニ於テ云ヘルモノニシテ貨幣以外ノ財貨ヲ總稱ス即チ物品及勞力ノ二者ヲ包含ス夫ノ夫役ノ如キハ即チ勞力ニ依ル租税ニシテ實物税ノ一ナリ

貨幣經濟又ハ信用經濟ノ行ハル、近世ノ國家ニ於テハ原則トシテ租税ハ貨幣ヲ以テ納付セラレ實物ヲ以テスルハ例外ノ場合ニ過キス更ニ進テ手形ヲ以テ納税ノ手段トスルニ至リテハ租税ニ關シテモ亦一般ノ經濟ト同シク貨幣制度ヨリ進テ信用制度ニ入ルモノト云フヘキナリ

第二 常時税及臨時税 此區別ハ租税存續ノ時期ヲ基礎トシタルモノニシテ常時税ハ經常歲入ニ屬シ毎會計年度繰返シテ徵收セラル、モノヲ謂フ我國ニ於ケル非常特別税ノ如キハ會計整理ノ點ヨリシテ之ヲ一般會計ニ組入レ且經常歲入ニ屬セシメタルモ其性質ヨリスレハ非常臨時税トシテ臨時歲入ニ屬スヘキモノヲ含メリ

租稅制度ノ沿革上其發達ノ初期ニ當リテハ租稅ハ寧ロ臨時ノ歲入ニ屬シ戰爭
其他非常臨時ノ經費ヲ要スル場合ニ經常歲入ノ不足ヲ補フカ爲メニ收入セラ
ル、モノタリシモ其漸ク常時ノモノトナリ今ヤ經常歲入中ニ在リテ首位ヲ占
ムルニ至レリ

第三 内國稅及關稅 此區別ハ課稅物件ト土地トノ關係ニ基ク區別ニシテ内國
稅ハ内國ニ存スル所ノ事項ニ付キテ徵收セラレ關稅ハ内外國交涉ノ事項ニ付
キテ徵收セラル、モノナリ或ハ法律ノ行ハル、區域ノ如何ニ依リ此二者ヲ區
別スルノ標準トナス者アリト雖モ此二者ハ共ニ國法ノ行ハル、範圍内ニ於テ
課徵セラル、モノニシテ國法ノ行ハル、區域ヲ超エテ課徵セラル、モノニア
ラサルカ故ニ右ノ標準ハ之ヲ正當ト云フヲ得ス

第四 國稅及地方稅 此區別ハ現今ニ於テハ之ヲ徵收スル所ノ主體ノ區別ニ歸
スルコトヲ得爾者即チ國稅ハ國家ノ徵收スルモノニシテ後者即チ地方稅ハ地
方及團體ノ徵收スルモノナリ然レトモ地方自治制ヲ施行セサル場合ニ於テ
ハ地方稅ナルモノハ一地方ノ經費ニ充ツル目的ヲ以テ中央政府ノ徵收スルモ

ノニシテ兩者ノ區別ハ徵收主體ノ區別ニアラスシテ徵收ノ目的及區域ノ差如
何ニ基クモノトス此場合ニ於テモ尙ホ夫ノ所謂限地稅ト地方稅トハ之ヲ區別
スヘキモノニシテ限地稅ニ於テハ其徵收ノ區域一地方ニ限ラレト雖モ其徵收
ノ目的ハ全國一般ノ經費ニ充テシカ爲メナリ

第五 配付稅及定率稅 此區別ハ其賦課方法ノ異ルニ基ク即チ前者ハ始ヨリ稅
率ヲ一定セス單ニ其課稅ノ標準ヲ一定スルニ止ルモノニシテ政府ハ毎年其所
要ノ稅額ヲ是等ノ標準ニ割當テ、賦課徵收スルモノナリ此方法ニ依ルトキハ
政府ハ毎年一定ノ稅額ヲ收納スルノ便アリト雖モ人民ノ負擔ハ毎年ノ財政狀
況ニ依リテ異ルコトヲ免レサルカ故ニ其不便尠カラス佛國ノ地租ハ此例ニシ
テ我國ニ於テ之ニ類スルモノハ夫ノ府縣及郡カ其市町村ニ分賦スル所ノ費用
ナリ之ニ反シテ定率稅ハ其名ノ如ク賦課ノ標準及稅率ノ一定シ居ルモノニシ
テ政府ノ實際ニ收納シ得ヘキ金額ハ課稅物件ノ増減ニ依リテ自ラ消長アルヲ
免レテ我國ノ租稅ハ主トシテ此種類ニ屬ス此方法ニ依レハ收稅額ノ一定シ難
キ不便アリト雖モ人臣ノ負擔ヲ確實ナラシムルノ利益アリ

第六 所得稅及財產稅 學者或ハ租稅ヲ分テ所得稅及財產稅ノ二トナスト雖モ是レ單ニ課稅標準ニ依ル區別ニシテ稅源ニ依ル區別ニアラス何トナレハ財產稅ト雖モ其支拂ハル、財源ハ所得ニ外ナラス又所得タルヲ必要トスルカ故ニ之ヲ稅源ヨリ觀察スレハ二者共ニ所得稅ニシテ其間何等ノ區別スヘキ點ナケレハナリ然レトモ此名稱ハ人ヲシテ或ハ稅源ニ依ルノ區別タルカノ誤解ヲ懷カシムルカ故ニ適當ナル名稱ニアラス

第七 人稅及物稅 此區別ハ其課稅上納稅者ノ如何ニ重ヲ置クヤ否ヤノ區別ニ基クモノニシテ人稅トハ人頭稅及一般所得稅ノ如ク人ヲ中心トシテ其財源ノ種類ノ如何ニ關セス其人ニ對シ又ハ其所得ニ付キテ課稅スルモノニシテ物稅トハ人以外ノ總テノ物件ヲ標準トシテ其納稅者ノ地位、身分等ニ毫モ關係ナク徵收スルモノヲ謂フ地租、家屋稅、各種ノ消費稅等ハ皆物稅ニ屬ス然レトモ此名稱モ亦適當ナリト云フコトヲ得ス何トナレハ若シ負擔ノ歸スル所ヨリ云ヘハ總テノ租稅ハ皆人稅ニシテ又課稅ノ標準ヨリ云ヘハ總テノ租稅ハ皆物稅ニ外ナラサルカ故ナリ

以上述ヘタル分類ハ各種ノ租稅ニ付キ其外形ニ現ハレタル性質ヲ基礎トシテ種ノ點ヨリ分類シタルモノニシテ其多數ハ極テ簡單明白ナルモノナルカ故ニ之ニ付キテ何等ノ異論ナシト雖モ其學問上ノ價值モ亦甚タ多カラス固ヨリ或場合ニ於テハ是等ノ分類モ亦學問上ノ說明ニ付キテ便宜ヲ與フルコトアリト雖モ唯一二ノ外形の觀察點ヨリシテ之ヲ區別シタルニ過キスシテ一言以テ之ヲ蔽ヘハ多數ノ名稱ヲ形式的ニ彙類シタルニ外ナラス若シ夫レ各種ノ租稅カ實際上經濟社會ニ及ホス所ノ負擔ノ關係ヲ其根本ヨリ分析シテ以テ租稅ノ原理原則ヲ研究スルノ目的ニ供セントセハ宜シク其外形の標準ヲ離レテ他ニ實質的ノ區別ヲ求メサルヘカラス是レ多數學者カ租稅ノ分類ニ付キテ古來種々ノ議論ヲ試ミントセル所以ナリ

實質的ニ租稅ヲ分類スル者ノ間ニ於テモ其分類ノ標準自ラ外形のナルモノト實質的ナルモノトノ區別アリ又實際的ナルモノト純理的ナルモノトアリ以下款ヲ分チテ之ヲ論述セン

第二款 直接稅及間接稅

直接稅及間接稅

財政學 論人論 公經濟的論入 租稅 總論 租稅ノ分類

此區別ハ最モ普通ニシテ且最モ廣ク各國ノ法制上ニ認メラル、モノナリト雖モ其區別ノ基ク所ハ事口租稅負擔ノ根源ニ遡リ實質的ニ研究セラレタル結果ナリトス唯其由來既ニ久シク其理論ノ實際ニ法制上ニ認メラレタルカ故ニ自ラ一般普通ノ區別トナリタルニ過キス斯ノ如ク此區別ハ廣ク行ハル、ニ拘ラス其區別ノ基礎ニ付キテ學者ノ説ク所一様ナラス又時代ニ依リテ異ル所アリ

第一 重農學派ノ見解

直接稅間接稅ノ區別ハ第十六世紀ノ頃ニ於テ既ニジャンボーダンノ論シタル所ナレトモ重農學派ノ出ツルニ及ヒテ最モ學理的ニ之ヲ説明セリ其説ニ依レハ地租ハ唯一ノ直接稅ニシテ其他ノ租稅ハ皆間接稅ナリ換言スレハ直接間接兩稅ノ區別ハ土地ニ課スルノ租稅ト其他ノモノトノ差異ニ在リトセリ蓋彼等ハ土地ヲ以テ唯一ノ生産要素ト看做シ農業ヲ以テ唯一ノ生産的事業トナシ租稅ハ國民ノ所得ヲ稅スルモノナルカ故ニ新價值ヲ生スルモノニアラサレハ其負擔ニ任セシムルコト能ハス而シテ農業ハ新價值ヲ生スル唯一ノ産業ナルカ故ニ土地ニ課スル地租ハ直接ニ農業者ニ對シテ其稅源ヲ稅スル租稅即チ直接稅

ナリ之ニ反シテ商工業其他總テ農業以外ノモノハ皆不生産的の事業ニシテ到底新價值ヲ生セサルカ故ニ毫モ租稅ヲ負擔スルノ能力ナシ從テ之ニ課スル租稅ハ轉轉シテ遂ニ農業者ノ負擔ニ歸スルニ至ルモノナリ故ニ地租以外ノ租稅ハ總テ間接稅ナリトセリ是レ此派ノ學者カ單一地租論ヲ唱道シタル所以ナリ此説ハアダム、スミス以來正統學派ニ依リテ打破セラレタリト雖モ直接稅間接稅ノ區別ハ尙ホ廣ク各國ノ學說上又ハ實際上ニ於テ一般ニ採用セララル、ニ至レリ

第二 間接稅即チ消費稅ナリトスルノ説

嘗テ專ラ獨逸ニ行ハレタル説ニ依レハ間接稅ハ即チ消費稅ト同一ナリト解セラレタリ從テ直接ニ消費者ヨリ徵收セラル、消費稅ノ場合モ亦之ヲ間接稅ナリト稱スルニ至レリ斯ノ如ク縱令總テノ間接稅ハ皆消費稅ナリトスルモ之カ反對ニ消費稅ハ必スシモ間接稅タラサルカ故ニ此説ハ其名實相適ハサルコト明ナリ從テ之ヲ以テ適當ナルモノト認ムルコトヲ得ス

第三 租稅ノ負擔ノ歸スル所ニ依リテ二者ヲ區別スルノ説

此說ニ依レハ直接税トハ其納税者ト擔税者トカ同一ナルモノヲ謂ヒ間接税トハ二者其人ヲ異ニスルモノヲ謂フ換言スレハ直接税ハ國家カ其擔税者ヨリ直接ニ租税ヲ徵收シ間接税ハ納税者ヲ通シテ間接ニ擔税者ヨリ之ヲ徵收スルモノナリ故ニ間接税ニ於テハ納税者ハ法律上一旦租税ヲ納付スト雖モ其租税タルヤ經濟上ノ關係ニ依リテ結局其負擔ヲ他人ニ移シ他人ヲシテ之ヲ償ハシムルコトヲ得ルモノナルカ故ニ納税者ハ他人ニ代リ一時租税ヲ納付スルノ作用ヲ爲スニ過キス即チ租税ノ負擔ハ納税者ヨリ擔税者ニ轉嫁セラル、モノナリ之ニ反シテ直接税ニ於テハ納税者ハ其負擔ヲ他人ニ嫁スルノ餘地ナク自ラ終局ノ負擔者タルヘキモノナリトス

以上ノ説明ハ極テ單純明白ナルカ如シト雖モ而モ租税ノ轉嫁ナルコトハ財政上最モ複雑ナル現象ニ屬シ實際ニ於テ殆ト其區別ヲ認ムルコト能ハサルモノアリ從テ學者或ハ全然兩者ノ區別ヲ排斥スル者アルニ至レリ今直接税、間接税ノ區別ヲ認ムルノ利益トシテ稱セラル、點ヲ擧クレハ

一 負擔轉嫁ノ有無ニ依リテ直接税、間接税ヲ區別スルハ最モ其名稱ニ適切ナリ 即チ直接ニ擔税者ヨリ徵收スルハ直接税ニシテ間接ニ徵收セラル、ハ間接税ナリト云フニ在リ

二 兩者ノ區別ハ各國法制上ニ使用セラレ其由來既ニ久シク一般慣用ノ語トナルニ至レリ從テ此區別ヲ認ムルハ學問上大ニ便利ナリ

三 此區別ハ租税制度ニ關シテ最モ注目スヘキ要件タル所ノ負擔ノ難易ヲ分ツニ最モ適當ナリ 何トナレハ國家カ直接ニ負擔者ヨリ徵收スル租税ハ負擔ノ困難ヲ感スルコト最モ多ク從テ之ニ付キテ人民ノ歎聲亦多カルヘシト雖モ之ニ反シテ第三者即チ中間ノ地位ニ在ル所ノ納税者ヲ介シテ間接ニ徵收セラル、租税ハ負擔者ノ困難ヲ訴フルコト少ナキカ故ナリ

又之ニ反對スル議論ノ重ナルモノハ

一 負擔轉嫁ノ有無ハ各種ノ租税ニ固有ノ性質ニアラス 直接税、間接税ノ區別ヲ適當ナリトスル者ハ之ヲ以テ最モ名實相適ヘルモノナリトナスモ其實此區別ハ最モ名實相適ハサル場合ヲ生スルコトアリ抑租税轉嫁ノ有無ヲ以テ各種ノ租税ニ關スル固有ノ性質ナリトセハ之ニ依リテ直接税ト間接税ト

ヲ區別スルハ最モ名實相適ヘルモノナリト雖モ轉嫁ノ現象ハ財政上最モ複雜錯綜セルモノニシテ必スシモノノ租税ニ付キテ轉嫁ノ有無ヲ斷言スルヲ得ス普通ニ直接税ト稱スルモノニ付キテモ時トシテハ其負擔ヲ他人ニ轉嫁シ得ルコトアリ又普通ニ間接税ト稱スルモノト雖モ却テ其負擔ノ納税者ニ歸スル場合ナキニアラス要スルニ負擔轉嫁ノ有無ハ多少租税ノ性質ニ關係スル所アリト雖モ主トシテ其制度ノ如何ト經濟社會ノ狀況如何ニ因リテ定ルヘキモノニシテ決シテ之ヲ以テ各種ノ租税ニ固有ノ性質ト云フコトヲ得ス故ニ今若シ負擔轉嫁ノ有無ニ依リテ租税ヲ分類セントセハ一ノ租税ニシテ或ハ直接税トナリ或ハ間接税タルノ已ムヲ得サルモノアルニ至ルヘク兩者ノ區別ハ毫モ名實相適フモノニアラス從テ又學問上採用スヘキ區別ニアラス例ハ地租ノ如キハ何レノ國ニ於テモ必ス直接税ト看做スモ其税率ニシテ高キニ過クルトキハ時トシテハ地代ノ騰貴ヲ來シテ其負擔ヲ借地人ニ轉嫁シ若ハ其土地ヨリ生スル生産物ノ價格ヲ騰貴セシメテ其負擔ヲ消費者ニ轉嫁スル場合ナキニアラス之ニ反シテ酒税ノ如キハ常ニ間接税ナリト稱ス

ト雖モ其税率重ニ失シテ到底其全部ヲ消費者ニ轉嫁シ得サル場合ニ於テハ生産者タル納税人モ亦屢其負擔ヲ免レサルコトアリ果シテ然ラハ一ノ租税ニシテ時トシテハ直接税トナリ時トシテハ間接税トナリ又時トシテハ其一部直接税トナリ一部間接税トナルコトアリト云ハサルヘカラス

二 直接税ト間接税トノ區別ハ各國ニ於テ必スシモ其内容ヲ一ニセス 前ニ述フルカ如ク兩者ノ區別ハ各種ノ租税ニ付キテ固有ノ性質ニアラサルカ故ニ甲國ニ於テ直接税ニ列スルモノト雖モ乙國ニ於テハ之ヲ間接税トナスモノアリ從テ之ヲ以テ各國ノ法制ニ通シテ一般ニ實際ノ制度ニ合致スルモノナリトスルハ誤レリ實際各國ヲ通シテ普通ニ存在スルハ唯此名稱カ何レノ國ニ於テモ等シク採用セラルト云フニ過キス

三 兩者ノ區別ハ租税負擔ノ難易ヲ分ツ所以ニアラス 此區別ハ必スシモ負擔ノ轉嫁如何ト一致セサルノミナラス假ニ全ク其轉嫁ノ有無ト合致スヘシトスルモ租税負擔ノ所在如何ハ必スシモ之ヲ以テ負擔ノ難易輕重ヲ分ツ所以トスルコトヲ得ス何トナレハ所謂直接税ノ多數カ負擔者タル所ノ納税者

ニ苦痛ヲ與フルコトノ多大ナルハ其負擔者カ直接ニ租稅ヲ納付スルカ爲メニアラスシテ其租稅納付ノ時期カ法律ヲ以テ一定セラレ自己ノ便宜ニ依リ之ヲ支拂フヘキヲ時期ヲ定ムルコト能ハサルカ故ナリ又所謂間接稅ノ多數カ其納稅者又ハ負擔者ニ苦痛ヲ與フルコト輕少ナルハ其納付シタル租稅カ自己以外ノ負擔者ニ依リ負擔セラレ若ハ其負擔スル租稅カ一旦納稅者ニ依リテ納付セラレ自己ノ負擔ハ間接ノ負擔タルカ故ニアラスシテ其納付又ハ負擔ナルコトカ納付者又ハ負擔者ノ自己ノ便利ナル場合ニ於テ隨時ニ行ハル、カ爲メナリ從テ其負擔ノ難易ハ寧ロ其納付ニ關スル定時稅ト隨時稅トノ區別ニ基クモノニシテ其納付カ直接ナルト間接ナルトノ別ニ依ルニアラス

是ヲ以テ近來直接稅ト間接稅トノ區別ニ反對スル者アリ或ハ之ヲ以テ全然無用ノ區別トナス者ナキニアラサレトモ元來負擔轉嫁ノ如何ニ依リテ兩者ヲ分ツニ當リテ實際ニ轉嫁セラル、ト否トニ依リテ之ヲ區別スヘキモノトスルハ誤レリ兩者ノ區別ハ夫ノミルノ定義セルカ如ク直接稅トハ國家カ租稅ヲ負擔

セシメント企圖シ又ハ希望スル所ノモノヨリ直接ニ徵收スルモノニシテ間接稅トハ納稅者カ一旦之ヲ支拂フト雖モ後日之ヲ他人ノ負擔ニ歸セシメ得ヘシトノ計畫又ハ希望ヲ以テ徵收セラル、モノニ外ナラス換言スレハ兩者ノ區別ハ其實際ニ生シタル所ノ結果如何ニ依ルモノニアラスシテ其結果ノ豫想ヨリシテ名ケラル、モノナリ即チ實際ノ負擔者ヨリ直接ニ徵收セラル、ト否トノ別ニ依ラスシテ立法者カ實際ノ負擔者タラシメントスル者ヨリ直接ニ徵收スルト間接ニ徵收スルトノ區別ニ過キヌ即チ間接稅ノ場合ニ於テ納稅者以外ニ租稅ヲ負擔スル者アリトスルハ國家カ之ニ對シテ負擔ヲ分タシメントノ豫想ニ外ナラス若シ夫レ之ヲ實際ノ結果ヨリスレハ或ハ其豫想ニ反スルコトアリト雖モ其豫想ニ依テ名ケタル名稱ハ其豫想ノ存スル限り毫モ名實相反スルモノト云フヲ得ス唯此豫想ト實際ノ結果ト相一致スルハ其制度ノ宜シキヲ得タルモノト云フヘク之ニ反スルモノハ其宜シキヲ得サルモノト云フヘキノ豫想ニ依ル名稱ハ斯ノ如ク其實際ノ結果ヲ示サ、ルカ故ニ毫モ實益ナキカ如シト雖モ此豫想ハ大體ニ於テ其結果ト一致スルノミナラス縱令一致セサルコト

多シトスルモ立法者ノ豫想ノ在ル所ハ即チ其方針ノ存スル所ニシテ之ヲ以テ租稅制度ノ基礎ト看做スヘキカ故ニ全ク無用ノ區別トスルヲ得サルニ似タリ加之多年各國慣用ノ用語トシテ其大體ニ於テ共通ノ意味ヲ有シ且行政上ノ實際ニ於テ此區別ヲ便トスルコト少カラス

第三款 臺帳稅及從率稅

前ニ説明セルカ如ク直接稅ト間接稅トノ區別ハ實際ノ結果ヨリスレハ租稅ノ負擔轉嫁ノ現象ニ照シテ必スシモ名實相適ハサルノミナラス之ヲ立法上ノ豫想ヨリスルモ實際ノ租稅制度ニ於ケル區別ニ對照スルトキハ尙ホ名實相適ハサルモノヲ生ス何トナレハ行政法上即チ實際ニ於ケル租稅制度上ノ區別ハ必スシモ學理上ノ區別ト相一致セサルモノアルカ故ナリ例ハ夫ノ登錄稅印紙稅又ハ相續稅ノ如キ之ヲ學理上ヨリスレハ直接稅ニ屬スルニ拘ラス其徵收ノ方法一般ニ間接稅ト相類似スルノ故ヲ以テ行政法上之ヲ間接稅中ニ加フルカ如キ是ナリ是ヲ以テ直接間接兩稅ノ區別ニ代フルニ他ノ名稱ヲ以テセントスル者アリ臺帳稅及從率稅ノ別即チ是ナリ

臺帳稅及從率稅

此二者ノ區別ハ租稅賦課徵收ノ手段方法ノ如何ニ依ル區別ニシテ學理上ヨリモ事口行政法上ノ區別ニ屬ス然レトモ其實際ニ至リテハ大略直接稅間接稅ノ區別殊ニ行政法上ニ於ケル兩者ノ區別ト相一致ス是レ此名稱ヲ以テ直間兩稅ノ區別ニ代ヘントスル者アル所以ナリ

臺帳稅トハ其名ノ如ク租稅臺帳ヲ基礎トシテ課徵セラル、モノニシテ人ノ所得財產等ノ如キ永續的ノ性質ヲ有スル事實ニシテ豫メ確定セラレ又ハ確定セラレ得ヘキモノヲ標準トシテ課徵セラル、租稅ヲ謂フ而シテ此確定セラレ又ハ確定セラレ得ヘキ事實ナルモノハ即チ租稅臺帳ノ基礎トナルヘキモノニシテ租稅ハ之ニ依リテ調製セラレタル所ノ臺帳ニ基キ徵收セラル、モノナリ例ハ地租、家屋稅、所得稅ノ如キ是ナリ

從率稅ハ之ニ反シテ租稅臺帳ニ依ラス單ニ一定ノ稅率ヲ適用シテ生産、消費、輸出入、賣買、相續、讓與等ノ如キ一時的ノ事實ニシテ豫メ確定セラレス又ハ之ヲ確定スルコトヲ得ヘカラサルモノヲ基礎トシ之ニ依リテ課徵セラル、所ノ租稅ヲ謂フ例ハ各種ノ消費稅、登錄稅、印紙稅、相續稅、關稅等ノ如キ是ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ臺帳稅ハ確定ノ事實ヲ課稅ノ標準トスルカ故ニ國家ハ豫メ其徵收スル所ノ稅額ト其時期トヲ確定シ得ヘシト雖モ從率稅ニ至リテハ將來ニ於ケル不確定ナル事實ヲ基礎トスルカ故ニ其稅額及收入ノ時期ハ豫メ之ヲ確定スルヲ得ス其豫知シ得ヘキモノハ單ニ各個ノ場合ニ於テ適用スヘキ稅率ニ過キス是レ此名稱アル所以ナリ故ニ其徵收ノ時期ヨリスレハ前者ハ定時稅ニシテ後者ハ隨時稅ニ屬ス

以上説明スル所ニ依レハ臺帳稅ナルモノハ大體ニ於テ直接稅ナリ何トナレハ直接ニ納稅者ノ負擔タラシメント欲スル所ノモノハ多クハ其所得財產等確定永續的ノ物體ヲ求メテ之ヲ課稅ノ標準トナスカ故ナリ之ニ反シテ從率稅ハ大體ニ於テ間接稅ト一致ス何トナレハ間接ニ負擔ノ轉嫁アラシメント欲スル場合ニハ多ク一時的ノ事實ヲ以テ課稅ノ標準トナスカ故ナリ然レトモ此區別ハ之ヲ絕對的ノモノト看做スコトヲ得ス何トナレハ直接稅ニシテ從率稅ナルモノアリ間接稅ニシテ却テ臺帳稅ナルモノアルカ故ナリ例ハ登録稅ノ如キ其性質ハ直接稅ニシテ而モ從率稅ナルモノアリ又酒ノ造石稅ノ如キ間接稅ニシテ而モ殆ト臺帳稅ニ

類スルモノアリ前ノ場合ニ於テハ少ナクトモ行政上ノ意味ニ於テハ兩者相合致スヘキモ後ノ場合ニ於テハ行政上ノ意味ニ於テスラ合致スルヲ得ス夫ノ債券ノ利子ニ對スル所得稅又ハ近來新設セラレタル本邦ノ相續稅ノ如キ學理上ノ意義ヨリスルモノ將又行政上ノ意義ヨリスルモノ直接稅タルニ拘ラス寧ロ之ヲ以テ從率稅ト看做スヲ至當トスヘキヲ見レハ此區別モ亦必スシモ直接稅間接稅ノ區別ト一致スルヲ得サルコトヲ知ルニ足ラン

之ヲ要スルニ臺帳稅及從率稅ノ區別ハ實際上ノ制度ニ於ケル區別タルノミナラス毫モ負擔轉嫁ノ如何ニ關係ナキカ故ニ學理上ニ於ケル直接稅間接稅ノ區別ト一致セサルハ勿論之ヲ行政上ノ意義ニ於ケル兩者ノ區別ニ比スルモ亦必スシモ一致スルヲ得ス蓋租稅ノ徵收上ニ於テ臺帳ヲ用フルト否トハ專ラ實際ノ便宜ニ基クモノニシテ毫モ租稅ノ根本的性質ニ關スル所ナキカ故ナリ人或ハ我國法上ノ直接間接兩稅ノ區別ハ臺帳稅及從率稅ノ區別ノ意義ニ從フヘキモノナリトスル者アリト雖モ余ハ上述ノ理由ニ因リテ全然之ニ同意スルコトヲ得ス

第四款 稅源ノ種類ニ依ル區別

稅源ノ種類ニ依ル區別

財政學 歲入論 公經濟的歲入 租稅 總論 租稅ノ分類

次ニ一層學理的ナル區別ト目スヘキハ稅源ノ由テ生スル原因ノ種類ニ依ル區別ナリ稅源ハ各人ノ所得ニシテ其所得ノ生スル原因ハ土地勞力資本ノ三者ナリ今經濟學上分配ノ理ニ依リ其原因ヨリシテ其所得ヲ分類スレハ即チ地代、賃銀、利潤ノ三者トストアダム、スミス氏ハ租稅ノ由テ支拂ハル、所ノ稅源タル所得ノ源ニ遊リ租稅ヲ地代ニ課スルモノ、賃銀ニ課スルモノ及利潤ニ課スルモノ、三者ニ區別セリ若シ此利潤ヲ分チテ更ニ利子及企業利益ノ二トナサハ租稅ハ應ニ分テ以上四箇ノモノニ課スルモノトスルコトヲ得ヘシ

此區別ハ一見甚タ明白ニシテ且最モ經濟學理ニ適合スルカ如シト雖モ其觀念抽象的ナルニ過キテ學問上ニ於ケル實際ノ利益定ニ少ナキモノト云ハサルヘカラス氏自身ト雖モ亦其租稅論ニ於テ嚴格ニ此區別ヲ維持スルコトヲ得ス氏ノ說ヲ祖述セル多數ノ正統學派ノ說カ其形式ニ於テ之ヲ採用シタルニ拘ラス其實質ニ於テ全ク之ヲ無視スルノ已ムヲ得サルニ至リタル所以亦茲ニ存ス
惟フニ稅源タル所得ハ此四者ニ歸スルモノナルカ故ニ租稅モ亦此四者ニ課セラ
ルヘキモノナルコトハ其負擔ノ歸著スル點ヨリスレハ毫モ疑ヲ容ルヘキ餘地ナ

シト雖モ是レ唯租稅カ結局此四者中ノ一若ハ二以上ノモノニ歸スルコトヲ説明スルニ止リ租稅中ニハ各別ニ此四者ノ一ニ課セラル、モノアルコトヲ斷言スル能ハス何トナレハ各人ノ所得ハ必スシモ此四者中ノ一ニ限ラレスシテ其二以上相合スルコト多キノミナラス租稅其モノハ其稅源タル所得ノ生スル所ノ根源如何ニ關セサルモノ其多數ヲ占ムルカ故ナリ例ハ地租ハ主トシテ地代ニ課セラルヘシト雖モ而モ之ト同時ニ一部分ハ賃銀ニ一部分ハ利子及企業利益ニ課セラル、モノナルコト疑ヲ容レス又夫ノ一般所得稅ノ如キニ至リテハ同時ニ此四者ニ課スルモノト云ハサルヘカラス假ニ一步ヲ譲リ是等ノ場合ニ於テハ四者ノ中必スシモ其一ニノミ之ヲ課セサルモ尙ホ其一又ハ二以上ニ付テ必ス何等カノ特定ノ原因ヨリ生スル所得ニ課スルモノナルコトヲ謂ヒ得ヘシトスルモ夫ノ消費稅ノ如キ間接稅ニ至リテハ到底其稅源ノ種類ニ依リテ之ヲ分ツコトヲ得ス何トナレハ其消費者ノ如何ニ依リ或ハ地代ヨリ支拂ハレ或ハ賃銀ヨリ支拂サレ若ハ利潤ヨリ支出セラル、等毫モ一定スル所ナケレハナリ是レ夫ノミルカ其租稅論ニ於テ是等ノ分類ヲ以テ單ニ所得ニ課スル所ノ直接稅ノ場合ニノミ限ルヘキモノ

トナシタル所以ナリトス
 抑租税ヲ其税源ニ依リ分類スルコトハ其根本ニ於テ誤レリ何トナレハ税源ハ何
 レノ場合ニ於テモ常ニ所得ニ外ナラサレハナリ若シ税源ニ依リテ租税ヲ區別ス
 ルトキハ租税ハ常ニ所得税ノ一種ニ歸若スヘシ租税ノ種類ニシテ若シ一ニ限ル
 トセハ其分類ハ全然無用ナリ否ナ全ク不能ナリ抑租税ノ分類ヲ必要トスル所以
 ハ租税制度ノ存スルカ爲メナリ換言スレハ各種ノ租税カ互ニ相併行シテ相助ケ
 相補ヒ以テ整然タル一國租税ノ系統ヲ形成スルニ基ク而シテ其税源ヲ同ウスル
 ニ拘ラス各種ノ租税カ互ニ相異ル所以ハ實ニ其物體ヲ異ニスルカ爲メニ外ナラ
 ナルヲ以テ租税ヲ彙類シテ其間ノ關係ヲ研究シ之ニ關スル所ノ原理原則ヲ發見
 スルカ爲メニハ宜シク之ヲ分ツニ物體ヲ以テセサルヘカラス而シテ租税ノ物體
 ニ依ル區別ハ自ラ租税制度ノ實際上ニ於ケル區別ナルカ故ニ租税論ニ於ケル租
 税ノ分類ハ以上述ヘル各種ノ分類ヲ離レ其實際上ニ於ケル制度ヲ基礎トシテ
 之ニ加味スルニ學理的ノ見解ヲ以テシ適當ニ之ヲ分類スルヲ必要ナリトス
 右ニ述フル如ク實際上ノ分類ヲ爲スニ當リテモ之ニ加味スヘキ學理的ノ解説ノ

租税ノ物體ニ依ル區別
 一般所得税

程度方法ニ關シテハ從來學者ノ採用スル所必スシモ一ナラス或ハ簡單ニ之ヲ二
 三ノ種類ニ分ツモノアリ或ハ詳細ニ之ヲ分類スルモノアリ今悉ク之ヲ舉クルハ
 頗ル繁ニ且ルカ故ニ之ヲ略シテ茲ニ余カ最モ適當ト信スルモノ、ミヲ掲ケテ説
 明セントス

第五款 租税ノ物體ニ依ル區別

第一項 一般所得税

一般所得説トハ人ヲ中心トシテ其之ヲ生スル原因ノ如何ニ拘ラス其人ノ所得全
 體ヲ標準トシテ賦課徴收スルモノヲ謂フ是ヲ以テ一般所得税ニ於テハ其所得カ
 財產ヨリ生スル収益タルト將又勞力ヨリ生スル所得タルトヲ問ハス又其収益カ
 土地ヨリ生スルト又ハ營業ヨリ生スルト若ハ資本ヨリ生スルトヲ問ハス廣ク人
 ノ收ムル所得全體ヲ標準トシテ課税スルモノナリ思フニ税源ニシテ各人ノ所得
 ニ存スルモノトセハ所得ヲ物體トスル所ノ租税ハ最モ税源ニ直接ニシテ又最モ
 之ニ適切ナルモノト云ハサルヘカラス是レ近來發達セル租税制度ニ於テ所得税
 カ最モ重要ナル地位ヲ占ムル所以ナリ普通ニ所謂所得税ハ即チ之ニ屬ス

第二項 特別所得税

特別所得税トハ之ニ反シテ納税者全體ノ所得ヲ物體トセスシテ其所得ヲ生スヘキ個々ノ原因ヲ捉ヘ其税源ノ源ニ遡リテ課税スルモノナリ蓋人ノ所得ハ其額ヲ同ウスト雖モ之ヲ生スルノ原因ノ如何ニ依リテ大ニ其人ノ經濟上ニ於ケル地位ヲ異ニシ從テ其納税力ニ大ナル徑庭アルカ故ニ其所得ノ原因ノ異ルニ從ヒ之ニ對シテ各適當ナル租税ヲ設クルハ實際上最モ必要ナレハナリ特別所得税ニ屬スル重ナルモノハ地租、家屋税、營業税、資本利子税、勞銀税等トス

特別所得税ハ更ニ之ヲ細別シテ二トス收益税及勞力的所得税是ナリ前者ハ即チ財産ヲ基礎トシテ之ヨリ生スル所得ニ課スルモノニシテ後者ハ財産ニ關係ナク單ニ勞力ニ因リテ生スルモノニ課セラル、モノナリ地租、家屋税、資本利子税等ハ前者ノ例ニシテ勞銀税ハ後者ノ適例ナリ地租ノ如キハ單ニ經濟上ノ所謂地代又ハ土地ニ加ヘタル資本ノ利子ノ上ニノミ課セラル、モノニアラスシテ多少之ニ加ヘタル勞力ニ對スル報酬ヲモ課税ノ目的トスルモノ而モ其大體ニ於テ土地ヲ基礎トスル收益ニ課セラル、モノナルコト疑ヲ容レス營業税ノ如キニ至リテハ各

國實際ノ制度ニ依リテ或ハ收益税ニ組入ル、ヲ適當トスルモノアリ或ハ寧ロ勞銀税ニ類スルモノナキニアラス

次ニ收益税ノ特質ハ其税源ノ確實ニシテ納税者ヲシテ經濟上安全鞏固ナル地位ヲ有セシメ從テ他ノ原因ヨリ生スル所得ヲ有スルモノニ比シテ比較的ニ其納税力ニ餘裕多カラシムルノ點ニ存ス之ニ反シテ勞力的所得税ハ其税源タル所得カ毫モ其基礎ヲ財産ニ有セスシテ繫リテ全ク其人ノ技術、智識及ヒ精神的並ニ肉體的ノ活動ニ存スルカ故ニ其所得ハ其人ノ身體生命ト消長ヲ共ニスヘキモノニシテ之ヲ收益税ノ場合ニ比スレハ所得者ノ地位極テ不確實ナリト云ハサルヲ得ス從テ同一ノ所得額モ未タ以テ同一ノ納税力ヲ有セシムルニ足ラス

特別所得税ハ斯ノ如ク特別ノ所得ニ付キテ各別ニ之ヲ税スルモノナリト雖モ其一般所得税ト異ル所ハ當ニ之ニ止ラス一般所得税ハ即チ純粹ノ所得税ニシテ一方ニ荷モ所得ヲ有スル者ハ其財産ヲ有スルト否トヲ問ハサルト同時ニ他方ニ於テハ縱令財産ヲ有スルモ荷モ之ヨリ生スル所得ナキ限ハ之カ所有者ニ所得税ヲ課スルヲ得サルニ反シ特別所得税殊ニ收益税ニ於テハ各個ノ所得ノ原因ヲ税ス

ルカ故ニ其課税自ラ外形的ノ事實ニ重ヲ置キ苟モ所得ヲ生スヘキ財產其他ノ關係ヲ有スルモノハ現ニ所得ヲ生スルト否トヲ問ハス之ニ課税セラレ、ハ又自然ノ勢ナリ從テ之ヲ特別所得税ト稱スト雖モ一般所得税ニ比スルトキハ遙ニ財產税ノ性質ニ近キモノアルヲ見ル

抑租税ニシテ各人ノ所得ヨリ支拂ハルヘキモノトセハ其賦課ハ所得ヲ標準トスルヲ以テ最モ適當ナリトスヘシ徒ニ外形的ノ事實ヲ捉ヘテ其所得ノ有無ニ拘ラズ財產ヲ標準トシテ租税ヲ徵收スルハ不當ト云ハサルヲ得ス此點ヨリスレハ一般所得税ハ最モ理論ニ適切ナルカ如シト雖モ所得ノ原因ノ如何ニ依リテ納税力ニ差等アリトセハ單ニ所得ノミヲ以テ課税ノ標準トナスハ之ヲ他ノ方面ヨリ觀察スレハ寧ろ形ニ失スルノ嫌ナキニアラス要スルニ一得一失アルヲ免レス特別所得税ハ各個ノ所得原因ヲ物體トスルカ故ニ其種類自ラ多岐ニ亘リ總テ之ヲ網羅スルヲ得ス若シ之ヲ網羅シ盡サントセハ徒ニ苛細ニ過クルノ税法ヲ設ケサルヘカラス之ヲ補ハントセハ須ク一般所得税ヲ以テセサルヘカラス要スルニ兩者互ニ相俟テ初テ租税制度ノ完全ヲ期シ得ヘキモノト云フヘシ

財產税

第三項 財產税

財產税トハ其名ノ如ク財產ニ課税スル租税ニシテ其收益ノ有無ニ關セス單ニ人カ財產ヲ所有スルノ事實ニ依テ之ニ課スルモノナリ古代ニ於テハ最モ重要ナル一種ノ税目タリシカ近來租税制度ノ發達スルニ從ヒ漸ク其必要ノ度ヲ減シタリ何トナレハ單ニ財產ヲ有スルノ事實ハ未タ其人ノ所得ノ有無ヲ決定スルニ足ラス縱令之ニ依リテ所得ノ存在ヲ推定シ得ヘシトスルモ其詳細ヲ盡スコト極テ困難ナリトス故ニ財產税ヲシテ其人ノ所得ニ適應セシメント欲セハ其物體タル財產ハ宜シク通常ノ場合ニ於テ必ス所得ヲ生シ又ハ所得ノ存在ニ相伴フ性質ヲ有スルモノタラサルヘカラス從テ其之ヲ課スルニ當リテハ勢ヒ特別ノ財產税タラサルヲ得ス

人ノ所有スル財產ハ之ヲ別テ收益財產及享有財產ノ二種トスルコトヲ得ヘシ而シテ收益財產ニ課スル租税カ收益税トシテ特別所得税ノ性質ニ變シテ以來財產税ノ大部分ハ既ニ他種ノ租税ニ變化シ殘ル所ノ財產税ハ寧ろ享有財產ニ課セラレ、モノニシテ庭園税別荘税ノ如キ此例ナリト雖モ是等ノモノモ亦收益税タル

地租、家屋税等ト相混シテ殆ト之ヲ別ツコトヲ得ス而シテ他ノ尊有財産ニ課セラ
ル、モノ、内尙ホ財産税ト見ルコトヲ得ヘキモノハ各種ノ直接使用税ニシテ例
ハ獵犬税、乘馬税、自用馬車税、人力車税、自轉車税ノ如キ是ナリ若シ夫レ使用税ヲ以
テ凡テ消費税中ニ包含セシムヘシトセハ今日ニ於テハ又別ニ財産税ヲ以テ一個
獨立ノ租税ト見ルノ必要ナシ何トナレハ嘗テ之ニ屬シタルモノハ今ヤ既ニ他ノ
各種ノ租税中ニ分屬スレハナリ

交通税

第四項 交通税

交通税トハ經濟上各人ノ間ニ於ケル價格ノ移轉、變更等一言以テ之ヲ蔽ヘハ所謂
濟經的交通ノ現象ノ發生スルニ當リ之カ交通ノ事實ヲ目的トシテ課スル所ノ租
税ナリ

抑經濟社會ニシテ交換ヲ以テ其組織ノ基礎トスルニ當リテハ經濟的交通ハ各人
ノ生活上一日モ缺クヘカラサル所ナリ其交通ノ手段、能力ニ富ム者ハ即チ經濟上
ニ於ケル地位ノ鞏固ナルモノニシテ之ニ反スルモノハ其地位ノ薄弱ナルモノナ
ルカ故ニ交通ノ現象ハ又之ニ關係スル各人ノ經濟上ノ地位ヲ表示シ且其納税力

ノ大小ヲ表明スルモノト云ハサルヘカラス是レ交通税ヲ以テ特種ノ租税ト看做
ス所以ニシテ又近來社會經濟ノ進歩ト共ニ愈發達シタル所以ナリ各人所得ノ大
小ハ直接ニ各人ノ納税力ヲ表示スルニ反シ交通ノ現象ハ間接ニ之ヲ表示スルモ
ノトス何トナレハ交通ノ現象ハ直接ニ所得其モノヲ現ハサスト雖モ而モ之ト密
接ナル關係ヲ有シ其裏面ニ於テ所得ヲ生スヘキ能力ノ存在ヲ默示スルカ故ナリ
人或ハ之ヲ稱シテ財産移轉税ト云フト雖モ交通税ハ必スシモ財産移轉ノ場合ニ
限ルニアラス但其重ナル場合ハ財産ノ移轉アルコト勿論ナリ而シテ之ニ屬スル
主要ナルモノヲ舉クレハ證券印紙税、登録税、相續税、贈與税等トス之ヲ税源ニ對ス
ル關係ヨリ見レハ交通税ハ一般所得税又ハ特別所得税ニ比シテ其關係間接ナル
モノト云ハサルヘカラス

第五項 消費税

消費税ハ各人ノ消費ナル行爲ヲ物體トシテ賦課徴收スルモノニシテ或ハ直接ニ
消費者ニ課スルコトアルモ主トシテ間接ニ賦課セラレ、ヲ常トス故ニ多數ノ場
合ニ於テハ之ヲ負擔ノ點ヨリ云ヘハ消費税ナリト雖モ之ヲ納税者ノ方面ヨリ觀

消費税

財政學 收入論 公經濟的課入 租税 總論 租税ノ分類

審スレハ或ハ製造税タリ或ハ輸入税タリ又時トシテハ販賣税タルコトアリ抑人ノ消費其モノハ寧ロ財貨ノ滅失ニシテ毫モ租税負擔ノ基礎タルヘキ理由ナシト雖モ所得ノ多大ニシテ生活上餘裕ニ富ムモノハ所得ノ僅少ニシテ生活上ノ餘裕ニ乏シキ者ニ比スレハ其消費スル所自ラ多キコト自然ノ順序ナリ而シテ人ノ所得ナルモノハ必スシモ其總テニ通シテ外界ヨリ其内容ヲ窺ヒ知ルコト能ハサルコト多キカ故ニ其消費ノ状態ニ依リテ間接ニ其所得ノ多少ヲ推知スルモ亦一ノ課税方法タルヲ失ハス是レ消費税ノ存スル所以ナリ消費ノ目的タル物ヲ標準トシテ之ニ課税シ依テ以テ消費者ヲシテ其消費額ニ應シテ租税ヲ負擔セシムル所以ノモノハ之ヲシテ間接ニ其所得額ニ應シテ負擔ヲ分タシムルノ趣旨ニ外ナラス然レトモ時トシテハ消費少ナクシテ所得多キモノアリ又所得小ニシテ消費ノ大ナルモノアリト雖モ是等ハ特別ノ理由ナキ限ハ一ハ極テ節儉ニシテ他ハ極テ不謹慎ナル結果ナルカ故ニ其所得ノ大小ニ拘ラス消費ノ多少ニ依リテ之カ負擔ヲ分タシムルモ亦必スシモ妨ナカルヘシ

消費税ハ時トシテハ最も廣キ意味ニ解セラレ目前直ニ消費セラル、モノ、外多

年ニ亘リテ使用セラル、所ノモノニ賦課スル所ノ所謂使用税ヲ包含スルコトアリ例ハ前述セル乗馬税馬車税ノ如キ即チ是ナリ此意味ニ於ケル消費税ハ即チ前ニ云ヘル財産税ヲ包含スルモノナレトモ余ノ信スル所ニ依レハ消費ノ意義ヲ斯ノ如ク擴張スルハ適當ニアラス蓋經濟上ノ意義ヨリスレハ使用モ亦一ノ消費ナルヲ以テ物ノ使用ニ課スル租税モ亦廣キ意味ニ於テ消費税タルコトヲ得ヘシト雖モ消費ノ一時的ナルト否トニ拘ラス其消費ノ全部ヲ一括シテ之ニ課税スルト其各部ニ對シテ課税スルトハ其經濟上ノ關係ニ於テ大ニ異ル所アルカ故ナリ例ハ酒ノ消費税モ自轉車ノ輸入税モ其廣キ意義ニ於ケル消費ヲ税スルモノタルハ同一ナリト雖モ自轉車ノ輸入税ニ對スル使用者ノ關係ト其者カ自轉車ノ使用者トシテ毎年納付スル租税トノ關係トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノアルカ如シ故ニ余ハ消費税中ニ包含セシムヘキ使用税ハ其使用全體ヲ一ノ消費ト看做シテ課税物件トスル場合ニ限ルヲ正當ノ見解ナリト信ス從テ自轉車ノ輸入税ハ所謂消費税ナルモ其自轉車ノ使用税ハ消費税ニアラスシテ財産ニ課スル特別財産税ノ一種ナリトス

消費税ハ之ヲ細別シテ二トスルヲ得即チ内國消費税及關稅是ナリ此兩者ハ等シク消費税ナリト雖モ其之ヲ徵收スル機會ヲ異ニスルノミナラス其一國經濟上ニ及ホス關係ヲ異ニスルコト甚タ大ナリ

以上述ヘタル各種ノ租税ニ付キテ見ルニ一般所得税ハ毫モ物ニ關係セス單ニ人ヲ中心トスルカ故ニ所謂人税ト稱セラルル而シテ交通税ニ至リテハ稍人ニ關スルモ主トシテ物ニ關シ特別所得税及財產税ニ至リテハ更ニ物ニ重ヲ置キ最後ニ消費税ニ至リテハ全然物ヲ主トスルモノト云フヘキナリ是レ是等ノ諸税ヲ稱シテ物税ト云フ所以ニシテ殊ニ消費税ヲ以テ物ヲ主トスル租税ト稱スル所以ナリ

第二章 租税ノ原則

第一節 總論

租税ノ原則ハ即チ租税ノ賦課徵收ニ關スル原理原則ニシテ租税論中最モ重要ナルモノ、一ニ屬ス租税ノ原則ニ付テハ嘗テヅォーバン、ユスチー等之ヲ論シ重慶學派ニ至リテハ更ニ詳細ニ之ヲ説明シタリト雖モ其說ノ根本ニ於テ誤アルカ爲メニ學者ノ視聽ヲ惹クニ至ラザリシカアダム、スミス氏ニ至リ所謂租税ノ四大原則

ヲ説明セシ以來後世ノ學者ヲシテ之ヲ祖述セシムルニ至レリ今氏ノ述ヘタル租税ノ原則ノ大要ヲ舉クレハ

第一 平等ノ原則 臣民ハ出來得ル限り其能力ニ比例シテ國家ノ維持ニ貢獻セラルヘカラス即チ彼等ノ國家ノ保護ノ下ニ享有スル收入ニ比例シテ租税ヲ負擔スルヲ必要トス租税ノ平等不平等ハ即チ此原則ノ行ハル、ト否トニ因リテ岐ル、モノナリ

第二 確實ノ原則 租税ハ正確ニシテ放恣ナラサルヲ要ス租税ノ納期、納税ノ方法、納税ノ額等ハ總テ正確ニシテ納税者及其他一般人民ニ對シテ極テ公平正大ナルコトヲ要ス然ラサレハ納税者ハ屢收稅官吏ノ無法苛酷ナル收斂ニ苦シメラル、ノ恐アリ

第三 便宜ノ原則 租税ハ納税者ニ最モ便宜ナル時期ニ於テ又最モ便宜ナル方法ニ依リテ徵收スルヲ必要トス若シ其時期方法ニシテ不便ナルトキハ其租税ノ實際ノ負擔ハ割合ニ僅少ナリト雖モ尙ホ人民ノ之カ爲メニ感スル苦痛ハ比較的大ナルヘシ

第四 最少費ノ原則 租税ハ直接間接ニ其徵收ニ要スル所ノ費用換言セハ人民ノ負擔スル租税ノ額ト之ニ因テ實際ニ國庫ニ收納セラル、純歲入額トノ差カ成ルヘク少額ナルヲ必要トス

以上氏ノ說ハ一時各國學者ノ採用スル所トナリシモ第十九世紀ノ央頃以來之ニ對シテ非難ヲ加ヘ租税ノ原則ニ付キテ漸ク變更ヲ企ツル者アルニ至レリ蓋氏ノ說ハ其源ヲ個人主義ニ汲ミ總テノ原則ヲ皆納稅者ノ方面ノミヨリ立論シタルカ故ニ自ラ租税ノ本領タル所ノ財政上ノ見解換言スレハ國家ヲ主眼トスル思想ニ違レルモノアリトセルト又其說カ所謂比例稅ノ主義ヲ採用シタルモノナリトスルトノ二點ニ基ク

租税ノ原則ニ付テ近世學者ノ採用スル所ノモノモ亦種々ニ岐ルト雖モ就中最モ普通ニ採用セラル、所ニ依レハ之ヲ分テ左ノ三トス

一 財政上ノ原則

二 正理ノ原則

三 經濟上ノ原則

抑租税ノ存在スル所以ハ實ニ之ニ由テ國家ノ慾望ヲ充シ其必要ニ應センカ爲メナリ換言スレハ租税存在ノ基礎ハ實ニ國家ノ財政ニ存ス是レ租税ニ財政上ノ原則アル所以ニシテ又其原則中ノ首位ヲ占ムル所以ナリ斯ノ如ク租税ハ一國財政上ノ必要ニ應スル手段ナリト雖モ而モ其存在ハ又實ニ人類共存ノ必要ニ基クモノニシテ換言スレハ社會人道ノ正理ノ要求スル所ナリ故ニ又之カ爲メニ社會ノ正義公道ニ悖リ一般國民ノ正義ノ觀念ヲ害スルヲ許サス是レ租税ニ正理ノ原則ナカルヘカラサル所以ニシテ又其第二位ニ位スル所以ナリトス然レトモ租税ハ元來一ノ經濟的現象ニ外ナラス其源ハ即チ國民ノ所得ニ在リ換言スレハ即チ一國ノ富源ニ存ス故ニ其制度ノ不備ナルカ爲メニ國民ノ所得ヲ害シ一國ノ富源ヲ損スルヲ許サス是レ第三ニ於テ租税ノ原則トシテ經濟上ノ原則アル所以ニシテ又其最後ニ位スル所以ナリ

第二節 財政上ノ原則

租税ノ財政上ノ原則ハ即チ如何ニセハ最モ能ク租税存在ノ素因タル財政上ノ目的ヲ達シ得ヘキカニ在リ蓋租税ハ國家ノ必要ヲ滿シ其缺乏ヲ補フカ爲メナルカ

財政上ノ原則

財政學 歲入論 公經濟的歲入 租税 租税ノ原則 財政上ノ原則

故ニ租税ノ財政上ノ原則ナルモノハ如何ニシテ此必要ヲ滿タシ其效力ヲ發揮シ得ヘキカニ存ス其原則ヲ分テ二トス

財政上ノ
二原則

第一款 財政上ノ二原則

第一 租税ハ國家ノ經費ヲ支辨スル爲メニ必要ニシテ且充分ナルコトヲ要ス抑租税ハ財政上ノ必要ヲ滿スカ爲メニ徵收スルモノナルカ故ニ其效力ヲシテ充分ナラシムルカ爲メニハ其税額ヲシテ國用ヲ辨スルニ充分ナラシムルコトヲ必要トス國家ノ財源ハ其種類一ニシテ止マラスト雖モ夫ノ私經濟的歳入ノ如キハ近世ノ國家ニ於ケル財源トシテハ到底之ヲ以テ其主要ノモノト認ムルコトヲ得ス近世著シク膨脹セル國家ノ歳出ニ應シ能ク其必要ヲ滿シ得ルモノハ實ニ租税ニ外ナラス租税ヲシテ此任務ヲ遂行シ此效力ヲ發揮セシムルニハ其收入ノ額ノ多大ニシテ其目的ヲ達スルニ充分ナルヲ必要トスルコト理ノ最モ看易キ所ナリ唯各種ノ租税ニ付テハ必スシモ多額ノ徵收額アルコトヲ必要トセサルカ如キモ國家カ租税ノ收入ニ待ツ所種テ甚大ナルカ故ニ小額ノ租税ヲ以テ之ニ應セントセバ勢ヒ多數ノ税目ヲ設ケテ其財政ヲ維持セサルヘカラ

ス租税制度ノ實際ニ於テハ單一税ノ主義ハ到底之ヲ實行スルヲ得ス從テ實際
上各種ノ税目ヲ設ケ彼此相補フハ便宜ニシテ且必要ナル手段ナリト雖モ之カ
爲メニ徒ニ苛細ノ税目ヲ設クルハ策ノ得タルモノニアラス從テ之ヲ各種ノ税
目ニ付テ見ルモ多額ノ收入ヲ生スヘキ數種ノ租税ヲ擇ヒ之ヲ以テ財政ノ大本
ヲ維持スルノ必要アルコト極テ明白ナリトス

租税ハ斯ノ如ク國家ノ經費ヲ支辨スルニ充分ナルコトヲ要スルト同時ニ又其
經費ヲ支辨スルニ必要ナルコトヲ要ス換言スレハ其必要ノ限度ニ限り敢テ之
ヲ超越シテ無用ノ徵收ヲ爲サ、ルコトヲ要ス蓋租税ハ元來財政上ノ必要ニ基
キテ徵收セラレ人類共同生存ノ必要上各個人ノ資財ノ一部ヲ割テ之ヲ強制徵
收スルモノナルカ故ニ其必要ノ度ヲ超ユルトキハ毫モ權力ヲ用ヒテ之ヲ課徵
スルノ理由ナケレハナリ租税カ財政學上所謂純粹ナル經費ノ原則ニ從フノ理
ニ照スモ亦其然ルヲ知ルヘシ且ヤ收税額カ財政上ノ必要ノ度ヲ超過シタルカ
爲メニ弊害ノ生スルコト少ナシトセス是レ財政史ノ明ニ吾人ニ教フル所ナリ

第二 租税ハ屈伸力ニ富ムコトヲ必要トス

財政學 歳入論 公經濟的歳入 租税ノ原則 財政上ノ原則

國家ノ經費ハ近來各國ニ於テ著シク膨脹セルノミナラス尙ホ將來ニ於テモ益増加ノ傾向アルコト人類社會ノ發達上自然ノ趨勢ナリトス而シテ租稅ハ此漸次増加スヘキ經費ヲ支辨スルニ充分ナルコトヲ必要トスルノミナラス之ヲ租稅制度發達ノ跡ニ徵スルモ租稅カ漸次他ノ歳入ノ不足ヲ補充スルカ爲メニ發達セルコトハ嘗テ屢述ヘタル所ノ如シ從テ租稅ノ收入ハ又自ラ此歳出ト共ニ増加スルノ必要アリ加之是等社會進步ノ大勢ノ外ニ臨時ノ出來事ニ依リテ國家ノ歳出カ一時遽ニ増減スルコトナキニアラス是等ノ場合ニ租稅ノ額ヲシテ需要ヲ充スニ充分ニシテ且必要ナラシメント欲セハ租稅ハ又之ト共ニ伸縮セナルヘカラス要スルニ租稅ハ其レ自身ニ於テ屈伸力ヲ有シ國家經費ノ増減ト相伴ヒテ伸縮スヘキ性質ヲ具フルコトヲ要ス何トナレハ其經費ノ増加スル毎ニ新ニ稅目ヲ起シ又其減少ト共ニ稅目ヲ廢スルカ如キハ徒ニ經濟社會ヲ擾亂スルノ虞アルカ故ニ成ルヘク之ヲ避タルヲ以テ得策トスレハナリ

第二款 各種ノ租稅ト財政上ノ原則トノ關係

前款ニ述ヘタル財政上ノ原則ニ照シテ各種ノ租稅ヲ比較セハ其種類ニ依リテ是

各種ノ租稅ノ關係上ノ原則

等ノ原則ニ適合スルノ程度同一ナラサルノミナラス一ノ租稅ニシテ甲ノ原則ニ適合スルモ乙ノ原則ニ適合セサルモノアリ以下簡單ニ各種ノ租稅ニ付キ之カ說明ヲ試ミン

第一 特別所得稅

特別所得稅殊ニ收益稅ハ其財源確實ニシテ且收入モ亦少カラサルモノナルカ故ニ之ヲ以テ租稅制度ノ基礎トスルニ適スト雖モ財政上ノ第二原則タル屈伸力ニ至テハ極テ乏シキモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ收益稅中地租家屋稅等ニ付テ云ヘハ土地又ハ家屋等ノ物件ハ經濟上ノ進步ニ從ヒ急速ノ進步ヲ爲スヲ得ス殊ニ前者ハ多年ヲ通シテ殆ト確定不動ノモノタリ加之收益稅ノ屈伸力ニ乏シキ所以ハ其稅率ノ變更容易ナラサルニ在リ蓋收益稅ハ財產ヨリ生スル所得ヲ稅スルモノナルカ故ニ其課稅ノ目的ハ常ニ是等ノ收益ヲ生スル財產タリ而シテ收益財產ニ對スル租稅ノ率ヲ増減スルトキハ其歩合ニ應シテ其財產ノ價格ヲ高低セシムルノ結果ヲ生ス從テ稅率ノ増加ハ其財產ノ所有者ヲシテ從來ニ比シテ一層高キ租稅ヲ負擔セシムルノミナラス永久ニ其所有財產ノ

財政學 歲入論 公經濟的歲入 租稅 租稅ノ原則 財政上ノ原則

價格ノ下落ヨリ生スル損失ヲ負擔セシメ之ト同一ノ作用ニ依リテ其稅率ノ輕減ハ亦其所有者ヲシテ稅率ノ輕減其モノ、外ニ尙ホ其所有財產ノ價格ノ騰貴ニ依ル利益ヲ得セシム從テ收益稅ハ其性質上最モ不動ナルヲ尙フモノナルカ故ニ到底財產上ノ第二ノ原則ニ適合スルコトヲ得ス

第二 一般所得稅

一般所得稅ハ其收入必スシモ多大ナラス從テ其財政上ノ第一原則ニ適合スルコト適切ナラサル場合アリト雖モ其第二ノ原則ニ適合スルニ至リテハ他ニ其比類ヲ見ス蓋經濟社會ノ進歩ハ即チ國民所得ノ増加ニ基クカ故ニ所得ヲ物體トスル租稅ハ世運ノ進化ト共ニ漸次増加スルノミナラス縱令經費ノ増加カ所得ノ増加ヨリ速ナリトスルモ租稅ノ源ハ結局國民ノ所得ニ存スルカ故ニ國家ノ必要ニ應シテ所得ニ對スル稅率ヲ増加スヘキハ最モ當然且公平ナレハナリ加之所得稅ハ國費ノ増減ニ應シ之カ稅率ヲ増減スルコト極テ容易ナリ何トナレハ所得稅ハ一般ノ所得ニ課稅スルモノナルカ故ニ其所得ノ源カ財產タル場合ニ於テモ之ニ對スル稅率ノ變更ハ其財產ノ價格ヲ高低セシムルノ結果ヲ生

セサルカ故ナリ蓋收益稅ニ於ケル稅率ノ増減カ直ニ其收益ヲ生スル所ノ財產ノ價格ニ影響ヲ及ホス所以ノモノハ他ニ同シク所得ヲ生スヘキ財產ニシテ之カ稅率増減ノ適用ヲ受ケサルモノアルカ爲メナリ今若シ總テノ稅源ヲ通シテ其稅率ノ改正ヲ見ルトセハ之カ爲メ特ニ或種類ノ財產ノ價格ヲ増減スルコトナキヤ明白ナリ且所得稅ハ廣ク一般臣民ノ所得ニ課スルモノナルカ故ニ其増減ハ社會ノ各方面ニ亘リテ廣ク一般臣民ノ利害得失ヲ同ウスル所ニシテ特ニ或一部ノ納稅者ノミノ關スル所ニアラス是レ所得稅カ補充稅トシテ廣ク一般租稅收入ノ不足ヲ補充スルノ作用ヲ具フル所以ナリ夫ノ南阿戰爭ノ際ニ於ケル英國ノ戰時稅ノ如キ主トシテ所得稅ノ増率ニ依リテ行ハレタルヲ視レハ蓋思半ニ過クルモノアラン本邦現時ノ戰時増稅ノ如キ其大部分ヲ此ニ求メ得サル所以ノモノハ一ハ其所要額ノ極テ大ナルニ依ルト雖モ一ハ我國所得稅ノ組織未ダ不完全ニシテ之ニ依リテ多大ノ收入ヲ得ルノ氣運ニ達セサルカ故ナリトス

第三 交通稅

交通税ハ經濟的交通ヲ以テ課税ノ目的トナスモノナルカ故ニ其物體ハ經濟社會ノ進歩ニ伴ヒテ漸次ニ發達スヘシト雖モ戰爭其他ノ原因ニ因リテ苟モ經濟上ニ恐慌又ハ類似ノ變態ヲ來ス場合ニハ其收入著シク減少セサルヲ得ス從テ國家カ其收入ヲ圖ルニ最モ急ナル場合ニ於テ却テ其收入ヲ減少スルノ缺點アリ而シテ經濟上ノ事情ニシテ異狀ナキトキハ其税率ノ變更ハ必スシモ交通ヲ阻害セス何トナレハ經濟的交通ハ元來變動的ノ性質ヲ有スルモノニシテ之カ爲メニ特ニ或財產ノ價格ヲ減少スルノ悞ナキカ故ナリ但特種ノ物件ノ賣買ニ付キテ重税ヲ課スル場合ニハ勢ヒ其物ノ價格ヲ下落セシメ其交通ヲ阻害スルコトナキニアラス要スルニ交通税ハ其屈伸力ニ於テ所得税ニ及ハサルコト遠シトス

第四 財產税

財產税ノ地位ハ前ニ述ヘタルカ如ク重要ナラサルカ故ニ今特ニ之ヲ説明スルヲ要セス

第五 消費税

國民ノ消費力ハ其生産力ノ増加即チ一般經濟上ノ進歩ニ伴ヒテ著シク増加スルカ故ニ之ニ課スル消費税モ亦社會ノ進歩ニ伴ヒテ益發達スルハ自然ノ數ナリ是レ消費税カ古來租税制度上ニ重ヲ成シタル所以ナリ然レトモ消費ノ現象ハ經濟上ノ狀況ニ依リテ左右セラル、コト多キカ故ニ一旦不景氣等ノ場合ニ際シテハ其收入著シク減少スルヲ免レス但消費税中ニ於テモ此現象ハ課税ノ目的タル物品ノ種類ニ依テ果ル蓋人類生活上ノ必需品ニシテ廣ク一般ニ消費セラル、モノニ於テハ經濟上ノ變態ノ爲メニ影響スルコト奢侈品ノ如ク甚クシカラサルカ故ナリ

次ニ屈伸力ニ付テ見ルニ税率ノ變更ニ依リテ其收入ヲ増減スルコトハ消費税ニ於テ最モ其力ニ乏シキヲ見ル勿論或程度マテハ其税率ヲ増加スルニ依リテ其收入ヲ増加スヘシト雖モ其増率ハ直ニ物價ノ騰貴ヲ來シ其騰貴ハ速ニ物品ノ消費ヲ減少スルカ故ニ或一定ノ程度ヲ超エテ消費減少ノ割合カ税率増加ノ割合ヲ超過スルニ至レハ租税ハ却テ其收入ヲ減スヘシ之ト反對ニ税率ノ輕減ハ其物品ノ價格ヲ低落セシメ其低落ハ消費ヲ獎勵シ却テ收税額ヲ増加スルノ

現象ヲ生ス面シテ此場合ニ於テモ亦其作用ハ物品ノ性質ニ依テ差アリ即チ必要品ノ場合ニ於テハ其稅率ノ變更ハ奢侈品ノ場合ニ於ケルカ如ク著シク其消費額ヲ増減スルコトナシ從テ稅率ノ増加ニ依リテ收入ヲ増加シ得ヘキ程度ハ必要品ノ場合ニ於テ奢侈品ノ場合ヨリモ著シク大ナリトス

第三節 正理ノ原則

第一款 總論

租稅ニ關スル正理ノ原則ナルモノハ如何ニセハ租稅ノ納稅者又ハ擔稅者ニ及ホス苦痛ヲシテ最モ公平一様ナラシメ從テ又最モ其困難ヲ僅少ナラシメ租稅ヲシテ社會的正義ノ要求ニ適應セシメ得ヘキカヲ論スルニ在リ
抑租稅ノ存在スル所以ハ國家ノ生存發達ニ必要ナル財政上ノ手段トシテ缺クヘカラサルモノタルカ故ナリ從テ租稅ハ先ツ第一ニ此目的ヲ達スルニ適當ナル資格ヲ具ヘサルヘカラス是レ租稅ニ財政上ノ原則アル所以ナリ然レトモ此必要ナル租稅ヲ各個ノ臣民ヨリ徵收スルニ當リテハ其各人ノ負擔ニ關シテ最モ能ク正理公道ノ命スル所ニ從ハサルヘカラス是レ即チ租稅ニ正理ノ原則アル所以ナリ

正理ノ原則
總論

是ニ由テ之ヲ觀レハ財政上ノ原則ナルモノハ租稅ニ關シテ之ヲ國家全體ヨリ觀察セル思想ニ基キ正理ノ原則ナルモノハ各個個人ノ租稅ニ關スル負擔苦痛ノ點ヨリ之ヲ觀察シタルモノト云フコトヲ得ヘシ

是フニ租稅ハ公益ノ爲メニ各個個人ノ財產ノ一部ヲ強制徵收スルモノナルカ故ニ此點ヨリ云ヘハ租稅其モノハ既ニ其根本ニ於テ各個個人ノ利益ニ反スルモノニシテ從テ之ニ付テ毫モ正理公道ニ適合セシメントスルカ如キ餘地ナキニ似タリ然レトモ之ヲ以テ租稅ニ正理ノ原則ナシト斷スレハ大ナル誤ナリ蓋所謂公益ノ爲メニ私益ヲ犧牲ニ供スト稱スルハ社會ニ於ケル思想ノ變遷發達ノ跡ヲ説明シ又ハ政治上ノ趨勢ヲ説明スルニ當リテ極テ便利ナル語ナリト雖モ而モ同時ニ屢誤解ヲ生スルノ恐アリ蓋公益ノ爲メニ私益ヲ犧牲ニ供スル場合ハ大ナル公益ヲ收ムルカ爲メニ之ト兩立シ能ハサル小ナル私益ヲ棄ツルノ場合ニ外ナラス一ノ利益ヲ棄テ、他ノ利益ヲ求ムルハ一見其利益ヲ毀損セラル、カ如キ觀アリト雖モ之ヲ以テ利益ニ反スルモノトスルハ元來兩立シ能ハサル利益ヲ以テ兩立スルモノト想像スルカ故ナリ斯ル場合ニ小ナル利益ヲ棄テ、大ナル利益ヲ收ムルハ毫

モ其利益ニ反スル所ナシ況ヤ公益私益ナルモノハ最モ區別シ難キ觀念ニシテ公益ナクシテ私益ノ存スルコトナク私益ナクシテ公益ノ存在スヘキ理ナシ誰カ自己ノ財産ノ一部タル食物ヲ消費シテ其生命ヲ維持スルヲ以テ自己ノ損失ナリト觀念スル者アラシキ國民カ其共同ノ生存而モ若シ之ナクンハ彼等各自ノ生存ヲ全ウスルコト能ハサルヘキ共同生存ヲ維持スルカ爲メニ自己ノ私財ヲ投スルコトヲ以テ其利益ニ反スルモノトスルカ如キハ其思想ノ根本ニ於テ既ニ誤レリ此場合ニ於テハ毫モ公益私益ノ間ニ衝突ナク各個人民ハ公益ヲ收ムルト同時ニ私益ヲ全ウスルモノト云フヘシ

斯ノ如ク租税ハ各人ノ生存發達ヲ維持スル上ニ於テ必要ナルモノナルカ故ニ國家ノ構成分子タル各個人ヲシテ之ヲ負擔セシムルノ最モ正理ニ適合セルモノト云ハサルヘカラス然レトモ租税ハ又單ニ各人ノ單獨ナル生存發達ヲ期スルニ必要ナルノミナラス又實ニ共同ノ生存發達ヲ維持スルニ必要ナルモノナリ從テ其國家ヲ組織スル各人ヲシテ相共ニ之ヲ分擔セシムルハ又理ノ應ニ然ルヘキ所ナリトス而シテ之ヲ分擔セシムルニ當リテハ各人ノ負擔ハ皆公平平等ナラサルヘ

カラス若シ各個人ノ單獨ノ生存發達ニ必要ナルノ故ヲ以テ同時ニ其共同ノ利益タルニモ拘ラス若シ各個人ノ間ニ不平等ナル負擔ヲ分タシムルコトアラシキ共同ノ利益共通ノ必要ノ爲メニ一部ノ人民ハ過重ノ負擔ヲ被リ遂ニ正理ニ反スルニ至ルヘシ蓋各人カ皆同一ノ壓迫ヲ受クルニ當リテハ其間ニ毫モ差等ナキヲ以テ結局壓迫ヲ受ケサルト等シカルヘキカ故ナリ

斯ノ如ク負擔ノ公平ナルコトハ租税ニ關スル正理ノ原則トスル所ナレトモ此平等公平ナルコトハ元來抽象的ノ觀念ニシテ如何ニセハ此平衡ヲ期シ得ヘキカハ更ニ研究スヘキ問題ニ屬ス而シテ余ハ此正理ノ原則ヲ説クニ當リ之ヲ分テ次ノ二トセント欲ス

- 第一 租税ノ負擔ハ一般的ナラサルヘカラス
- 第二 租税ノ負擔ハ公平ナラサルヘカラス

第二款 租税ノ負擔ハ一般的ナラサルヘカラ

租税ノ負擔ハ一般的ナラサルヘカラ

租税ノ負擔ヲシテ公平平等ナラシメント欲セハ其負擔カ國民内全體ニ亘リテ一

財政學 收入論 公經濟的輸入 租税 租税ノ原則 正理ノ原則

般的ナラサルヘカラサルコトハ殆ト言フ俟タスシテ明ナリ從テ正理ノ原則中其第一ノ原則ハ殆ト第二ノ原則中ニ包含セラレ、モノト云フモ不可ナシ然レトモ之ニ付キテハ租稅制度ノ上ニ於テ特別ノ沿革ヲ有シ又多少特異ノ觀念ヲ有スルヲ以テ今特別ニ之ヲ説明セント欲ス

往時貴族僧侶等カ社會上優等ナル階級ニ屬シ一般ノ人民ニ比シテ特殊ノ權利ト身分トヲ享有シタル場合ニ於テハ彼等ハ其財產所得等カ遙ニ一般人民ニ比シテ餘裕ニ富メルニモ拘ラス却テ租稅ノ負擔ヲ免除セラレタルカ故ニ一般農民等ノ租稅ニ對スル不平ノ聲實ニ少カラサリキ勿論此時代ニ於テモ貴族ハ一國軍事上ニ其力ヲ致シ僧侶ハ布教ノ上ニ其力ヲ竭シ各其地位ニ應シテ公ニ奉スルノ途アリシト雖モ而モ之ヲ農民ヨリ見レハ唯彼等ノ階級ノミカ鋤鋤ヲ採リテ其粒粒辛苦ノ生産物ヲ以テ一國ノ生民ヲ扶養セルカ如キ觀ナキニアラス蓋經濟社會ニ於ケル利益ノ觀念ト雖モ其物質的利益ノ外ニ精神的感情ニ依テ支配セラレ、コト少カラス否ナ物質的ノ利益其モノト雖モ其價值ハ元來人ノ感覺ニ基クモノニ外ナラサレハナリ然ルニ爾來社會的勢力ノ發展ニ伴ヒ國家ノ進歩ト共ニ漸時是等

階級的ノ區別ヲ消滅セシメ今日ニ於テハ租稅ハ總テ一般的性質ヲ有スルニ至レリ而シテ其茲ニ至ル間沿革上大略三箇ノ變遷ヲ經過セリ

第一 租稅主體ノ擴張

前述セシカ如ク租稅ノ主體即チ納稅者又ハ擔稅者ナルモノハ嘗テ下級人民ノミニ限定セラレタリシカ其不公平ナルコトハ漸次ニ社會一般ノ認ムル所トナリ次第ニ其範圍ヲ擴張シ社會的階級ノ貴賤高下ニ拘ラス總テ一般ニ租稅ノ負擔ヲ免レサルニ及ヒ納稅ハ憲法上認メラレタル一般ノ國民義務タルニ至レリ而シテ之ニ付キテ注意スヘキ二三ノ點ヲ擧クレハ

一 自然人及法人ノ別 自然人ニ付キテハ總テ租稅ノ負擔ヲ免レス唯其例外タルヘキモノハ夫ノ主權者並ニ其一族タリ各國共ニ之ニ對シテ國稅ヲ賦課セサルヲ常トスレトモ歐洲諸國ニ於テハ之ニ對シテ地方稅ヲ課スルモノ少カラス殊ニ英國ノ如ク主權者ノ財產ト雖モ尙ホ其主權者トシテ有スルモノト一個人トシテ有スルモノトヲ區別スルモノニ在リテハ後者ニ付テハ主權者ト雖モ之ニ對スル租稅ノ負擔ヲ免レス我國ニ於テハ固ヨリ之ニ對シテ租

税ヲ賦課スルコトナシ自然人ニ次テ法人ニ對シテモ亦漸ク其負擔ノ範圍ヲ擴張スルニ至レリ私法上ノ法人ニ付テハ自然人ト同シク一般ニ租税ノ負擔ヲ免レス公法人ニ至リテハ各國ニ於ケル實例ハ國有又ハ公有財産ト雖モ地方税ヲ負擔セシムルノ例多シト雖モ我國ニ於テハ是レ亦其負擔ヲ免ル蓋我國ノ租税制度ハ此點ニ付テ未タ充分ニ發達セザルモノト云ハサルヘカラス

二 内國人及外國人ノ別 内國人ニ付テ一般ニ租税ヲ負擔セシムルト同時ニ一國ニ特別ノ關係ヲ有スル外國人モ亦漸ク其租税ヲ負擔スルニ至レリ之カ例外タルヘキモノハ各國主權者ノ代表者ト認ムヘキ公使及其附屬吏員及他國ノ公ノ機關タル領事等ナリ

内外國ノ關係上租税ノ負擔ニ付テ最モ複雑困難ナルモノハ國際租税制度ノ問題ナリ蓋一國ノ領土内ニ居住シテ茲ニ財産ヲ有シ職業ヲ營ミ所得ヲ收メ生産消費貯蓄等ノ經濟的行爲ヲ爲スニ當リテハ其者ノ國籍ノ如何ヲ問ハス之ニ對シテ等シク租税ヲ負擔セシムヘキモノナルコトハ洵ニ當然ノ事理ナリト雖モ一國ノ臣民ニシテ其本國ニ居住シ外國ニ於テ財産ヲ有シ所得ヲ收

ムル場合若ハ外國ニ居住シテ本國ニ財産ヲ有シ所得ヲ收ムル場合其他苟モ二以上ノ國ニ亘リテ其住所職業財産所得等カ各地ニ散在スル場合ニ於テ或ハ其國籍ニ依リ或ハ其住所ニ關シ將又其職業財産並ニ所得等ニ關シ各特別ノ關係アル所ノ是等ノ諸國カ各自之ニ對シテ如何ナル程度ニ於テ租税ノ負擔ヲ命シ又如何ナル程度ニ於テ之ヲ免除スヘキカハ最モ複雑ナル問題ナリトス若シ各國ニ於テ悉ク之ニ課税スルトキハ其者ハ其關係セル國ノ數ニ同シキ積極的ノ衝突アル課税ヲ負フヘク又各國カ總テ之ヲ放任スルトキハ其者ハ消極的ノ衝突ニ依リテ全ク其負擔ヲ免ル、ニ至ルヘシ而シテ是等ノ不都合ヲ避ケントセハ勢ヒ國際條約ノ規定ニ依リテ各國共同シテ之ヲ實行スルノ外ナシ是レ近來類ニ國際租税法規ノ必要ノ唱道セララル、所以ナリ我國ニ於テハ未タ之ニ關スル一般ノ原則ナシ唯各個ノ税法ニ付テ其特別ノ明文ニ依リ又ハ其性質ニ從ヒテ之ヲ判斷セサルヘカラス例ハ現行所得税法第一條ニ依レハ我國ノ所得税ハ我帝國内ニシテ此法律ヲ施行スル土地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヨリ之ヲ徵收スルヲ原則トス然レ

トモ同法第二條ニ依レハ其例外トシテ縱令前述セル資格ヲ有セサル者ト雖モ此法律施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ其所得ニ付キテハ尙ホ所得稅ヲ納付スヘキモノトス而シテ同法第五條ニ依レハ縱令此法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ト雖モ外國又ハ帝國内ノ此法律ヲ施行セサル土地ニ於ケル資産營業又ハ職業等ニ因ル所得ニ付テハ所得稅ヲ課セス但此法律ノ施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ハ此限ニアラストス是ニ由テ之ヲ觀レハ我現行法ニ於テハ此法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ハ其所得ヲ生スル原因カ内國ニ在ルト又ハ外國ニ在ルトヲ問ハス總テ之ニ對シテ課稅セラルト雖モ其他ノモノニ至リテハ其住所又ハ居所ノ如何ヲ問ハス總テ内國ノ法律施行地内ノ所得ニ限リテ課稅セラル、ヲ原則トスト云フヲ得ヘシ

元來外國人ニ對スル課稅ニ付テハ從來二ノ異リタル極端ナル主義アリ即チ一ハ外國人ハ全然租稅ノ負擔ヲ免ル、ノ主義ニシテ他ハ内國人ニ比シテ一層重キ負擔ヲ負フヘキモノトスルノ主義ナリ此二ノ主義カ漸次相接近シテ遂ニ内外人平等ノ待遇ヲ受ケ原則トシテハ其國籍ノ如何ヲ分タス又其住所ノ如何ヲ問ハス各國共ニ總テ自國內ノ所得ニ付テノミ課稅スルノ主義ヲ採用スルニ至リシナリ

第二 稅源ノ擴張

前述セシカ如ク租稅ノ主體ニ付キテ漸次其範圍ヲ擴張シタルニ次テ近來ニ至リ各國政府ハ又其稅源ニ付キテ大ニ其範圍ヲ擴張シ各種ノ租稅ヲ設ケテ凡ラユル稅源ヲ誅求スルニ至レリ而シテ之ニ付テ最モ有效ナルハ夫ノ一般所得稅ナリトス何トナレハ此種ノ租稅ハ其原因ノ如何ヲ問ハス凡テ人ノ所得ヲ以テ物體トスルモノナレハナリ

第三 生活ノ最少費ノ免除

上述ノ如ク總テノ稅源ニ付キ又總テノ人ニ對シテ租稅ヲ賦課スルニ當リテハ苟モ所得ノ存スル所ハ何人ト雖モ其負擔ヲ免ル、ヲ得サルニ似タリ然レトモ其所得ノ極テ僅少ナルモノ換言スレハ其生活上ノ最少ノ費用ヲ償フノ外他ニ餘裕ナキノ所得ニ在リテハ又毫モ租稅ヲ負擔セシムルノ餘地ヲ存セス是レ近

亦ニ於テ漸ク其生活ノ最少費用ト看做スヘキ所得ニ對シテ租稅ヲ免除スルニ至リシ所以ナリ此事タルヤ一見恰モ租稅ノ一般的タルヘキコトノ原則ニ對スル例外タルカ如キ觀ナキニアラスト雖モ其實却テ此原則ヲ實行スルノ必要ニ出テタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ租稅ノ負擔ヲ一般的ニストハ其人ノ社會ニ於ケル階級的身分即チ貴賤上下ノ別ニ依リテ租稅ノ負擔ヲ區別スルコトナク又其所得ノ種類ニ因リテ其負擔ヲ輕重スルコトナキノ謂ニシテ生活ノ最少費用ヲ免スルハ其階級的ノ身分ニ關係セス又其所得ノ種類ニ關セスシテ單ニ納稅力ノ有無ニ因リテ之ヲ區別スルニ過キス加之租稅ヲシテ一般的ナラシメント欲セハ勢ヒ納稅ニ付キテ全ク無能力ナル者ニ對シテ之ヲ免除スルノ固ニ已ムヲ得サルモノアルニ至ルカ故ナリ

第三款 租稅ノ負擔ハ公平ナラサルヘカラス

社會的正理觀念ノ要求トシテ租稅ノ負擔力廣ク一般人民ニ亘リ且其各個人ノ負擔スル所カ平等一様ナラサルヘカラスナルコト斯ノ如シ是レ極テ單純明白ナル事理ニシテ別ニ説明ヲ要セスト雖モ如何ニシテ其負擔ノ公平ヲ期スヘキカハ最モ

租稅ノ負擔ハ公平ナラサルヘカラス

困難ナル問題ニシテ亦最モ說ノ岐ル、所ナリ

抑吾人カ國家ニ對シテ租稅ヲ負擔スルニ當リテ貴賤貧富ノ別ナク總テ一定平等ノ金額ヲ納付スルヲ以テ公平ナル負擔ト認ムルヲ得ルヤ否ヤ縱令斯ノ如キ制度ニシテ正理ニ合スヘシトスルモ財政上ノ原則ハ到底之カ存在ヲ許サ、ルヲ奈何セン何トナレハ貴賤貧富ノ別ナク總テ一定ノ金額ヲ納付セシムルモノトセハ貧賤ナル者ハ富貴ナル者ト同一ノ負擔ニ堪ヘサルノ結果其金額ハ勢ヒ之ヲ最貧者ノ堪ヘ得ヘキ程度ニ止メサルヘカラス換言スレハ其國民中多額ノ納稅ニ堪ヘ得ル者アルニ拘ラス各人ノ負擔ハ最モ其能力ノ少ナキ者ノ能力ヲ標準トシテ之ヲ定メサルヘカラス從テ一國ノ租稅ノ額ハ到底其國家所要ノ額ニ達シ得サルコト最モ明白ナル事理ナリトス斯ノ如ク各個人カ皆一定均一ノ負擔ヲ爲スハ到底租稅ノ財政上ノ性質ト兩立スルヲ得サルノミナラス之ヲ正理ノ原則ニ照スモ亦巨萬ノ富ヲ有スル者ヲシテ赤貧洗フカ如キ者ト全ク同一ノ稅額ヲ負擔セシムルカ如キ到底之ヲ以テ公平ナル主義ト看做スヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ負擔ノ平等公平ナルコトハ其各人ノ負擔スル絕對的ノ均一ナルコトニ依リテ期セラル、ニ

アラスシテ寧ロ或標準ニ依リテ其間ニ輕重ノ別ヲ設クルニ依リテ其目的ヲ達シ得ルモノト云ハサルヘカラス
各人ノ間ニ租稅負擔ノ差等ヲ設クヘキ標準ニ關シテハ大別二種ノ議論アリ相互提供ノ原則及應能提供ノ原則是ナリ

相互提供ノ原則

第一項 相互提供ノ原則

相互提供ノ原則ナルモノハ即チ交換的正理ノ原則ニシテ私經濟的交通上ニ於ケル正理ノ原則ナリ私經濟的交通ニ於テハ各人間ノ交換ヲ以テ經濟組織ノ基礎トスルカ故ニ各自ノ交換スル利益ノ相均シキコトヲ以テ正理ニ合スルモノトス
國家課稅權ノ基礎ニ關シ嘗テ對價說保險說又ハ露浴說等ノ學說カ自然法學者其他同様ノ流ヲ汲メル學者ニ依リテ主張セラレタルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ今若シ租稅ヲ以テ人民カ國家ヨリ受クル保護又ハ安寧ノ對價トシ又ハ其保險料トシ若ハ是等ノ恩澤ニ對スル報酬ナリトセハ租稅ハ經濟學上價格ニ關スル理論ヲ以テ説明シ得ヘキヲ以テ各人ノ負擔ハ又其受クル所ノ保護恩澤ノ程度ニ比例シ保險ノ割合ニ相當スルヲ以テ最モ正理ニ合スルモノトスヘク從テ租稅ニ關ス

ル正理ナルモノハ相互提供ノ原則ニ依リテ之ヲ期待シ得ルモノト云ハサルヘカラス然レトモ嘗テ論シタルカ如ク租稅ハ國家ト人民トノ間ノ契約ニ基キテ徵收スルモノニアラス又其保護恩澤ニ浴スルカ爲メニ支拂フ報酬ニモアラサルカ故ニ之ヲ論スルニ價格ノ原則ヲ以テスルコトヲ得ヌ又之ヲ説明スルニ交換ノ理ヲ以テスルコトヲ得ヌ今若シ貧困ニシテ自ラ衣食ヲ給スルコト能ハサル者アルニ當リテ國家カ之ヲ救フニ公費ヲ以テシ或ハ自ラ學費ヲ支辨シ得サル者ニ對シ國家カ無報酬ニテ之ヲ教育スル場合ニ於テ其者カ國家ヨリ受クル保護恩澤ハ他ノ自ラ衣食シ又ハ自ラ修學スル者ニ比シテ頗ル厚キカ如シト雖モ之ニ對シ前者ヲシテ後者ヨリモ多額ノ負擔ヲ爲サシムルヲ得サルノミナラス又之ヲ負擔セシムルハ毫モ正理ニ適合スル所以ニアラサルコト論ヲ俟タスシテ明ナリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ租稅ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルハ到底相互提供ノ原則ノ能ク期シ得ル所ニアラス從テ國民經濟的租稅制度ニ關スル思想ノ發達スルニ從ヒ租稅ハ漸ク第二ノ原則タル應能提供ノ主義ニ依ルニ至レリ

第二項 應能提供ノ原則

應能提供ノ原則

財政學 收入論 公經濟的收入 租稅 租稅ノ原則 正理ノ原則

上來論述シタルカ如ク各人皆均一ノ税額ヲ負擔スルヲ以テ負擔ノ公平ヲ期スルコトヲ得ス相互提供ノ原則モ亦租税ノ素質ニ反シ且其正理ニ適合スル所以ニアラストセハ負擔ノ公平ナルハ唯之ヲ應能提供ノ理ニ求メサルヲ得サルナリ蓋相互提供ノ原則ハ各人平等ノ關係ニ於ケル經濟上ノ正理ナリ國家團體ノ一員タル各私人間ノ關係ニ付テハ相互提供ノ原則ニ依ル交換的正理ハ能ク人類ノ正理ノ觀念ニ合スト雖モ租税ハ元來國家ト人民トノ間ニ於ケル關係ニシテ對等ノ地位ニ立ツ者ノ間ニ於ケル關係ニアラス團體ノ各員間ニ於ケル平等ノ關係ヲ律スル交換ノ利ヲ以テスルヲ待ヘシ團體其モノト其一員トノ關係ニ至リテハ即チ之ヲ以テスルコトヲ得ス

惟フニ人類ハ生レナカラニシテ精神上ニ於テハ賢愚智鈍ノ別アリ有形的ニハ強弱貧富ノ差アリト雖モ賢智ニシテ且富強ナル者ト雖モ唯自己ノ力ノミニ依リテ單獨ニ其生存ヲ全ウスルコトヲ得ス必スヤ鈍愚ニシテ貧弱ナル者ト共同スルヲ必要トス是ヲ以テ共同生存ノ必要上精神上ニ於テハ賢者ハ愚者ヲ導キ智者ハ鈍者ヲ救ヘテ社會ノ進歩ヲ圖ラサルヘカラス又有形的ニハ強者ハ弱者ヲ輔ケテ以

テ共同ノ利益ヲ保護増進セサルヘカラス蓋斯ノ如ク一方ニ餘力アル者ハ一方ニ其足ヲサル所ヲ補ヒ相倚リ相助ケテ以テ共同ノ生存發達ヲ期スルハ人類社會ノ天則ニシテ又實ニ社會ノ正義公道ニ外ナラス夫ノ兵役ノ義務ノ如キ往時ニ於ケル世襲的常職的ノ武門武士ノ制額レ士農工商ノ別ナク一般國民ノ義務タルニ至リシコトハ恰モ夫ノ納税ノ義務カ下級ノ人民ヨリ廣ク一般國民ニ擴張セラレタルト同一ナルニ拘ラス之ヲ實際ノ有様ヨリ見レハ身體ノ強壯ナル者ノミ獨リ兵役ニ服シ其羸弱ナル者ハ毫モ其負擔ヲ分タサル所以ノモノハ兵役ノ義務ヲ以テ特ニ一部ノ人民ニノミ課セントスルノ主義ニアラス又特ニ強壯者ニ薄クシテ羸弱者ニ厚クセンカ爲メニモアラス單ニ其餘力アル者ヲシテ餘力ナキ者ヲ補足セシメントスルノ人道ニ基キ而シテ又實ニ共同生存ヲ實行スルノ必要ニ出ツルニ外ナラス然ラハ則チ公共ノ經濟ニ於テモ亦餘力アル者ヲシテ餘力ナキ者ヲ助ケテ社會ノ利益ヲ増進セシメサルヘカラス是レ即チ應能提供ノ原則アル所以ナリ應能提供ノ原則ハ即チ所謂分配的正理ノ法則ナリ私經濟的交通ニ於ケル正理ハ其交換スル所ノ利益ノ等シキニ在ルモ公經濟的交通ニ於ケル正理ハ之ニ反シテ

其各人ノ提供シ得ヘキ能力ニ應シテ其負擔ヲ分ツニ在リ分配ノ公平ナルト否トハ一ニ其提供力ノ大小ニ應スルト否トニ依リテ定ル所謂應能提供ノ原則ハ即チ各人ノ提供ノ能力ニ應シテ提供セシムルノ義ニ存ス

斯ノ如ク租税ヲシテ各人ノ提供力ニ應セシメサルヘカラストスルモ提供力ナルコトハ元來一ノ無形的ノ觀念ニシテ之ヲ實際ニ行フニ當リテハ必スヤ之ヲ或有形的ノ標準ニ求メテ其提供力ノ大小ヲ決定セサルヘカラス而シテ如何ナル標準ニ依リテ此提供力ノ大小ヲ判斷スヘキカハ次ニ生スル所ノ問題ニシテ又最モ說ノ岐ル、所ナリ

抑租税ハ結局各人ノ所得中ヨリ支拂ハル、モノナルカ故ニ提供力ハ又直接間接ニ各人ノ所得ト相關ス換言スレハ提供力ハ結局所得ヲ以テ其標準トナサ、ルヘカラス然レトモ所得ニ關シ如何ナル方法ニ依リテ提供力ヲ定ムヘキカニ付テハ學者ノ見ル所一様ナラスアダム、スミス氏ハ嘗テ各人ノ所得額ヲ以テ租税ノ負擔ヲ定ムヘキコトヲ說ケリ詳言スレハ所得ノ額ヲ以テ直ニ提供力ノ標準トスヘキコトヲ主張シタリ是レ後ノ學者カ氏ノ說ヲ以テ比例稅說ナリトシテ排斥スル所

以ナリ

所得ハ各人ノ提供力ニ相關スルコト最モ直接ナリト雖モ縱令所得ノ金額同一ナリトスルモ其所得者ノ身分、地位、生活ノ状態、家族ノ多少等ニ依リテ又其所得ヲ生スル原因ノ如何ニ依リテ其者ノ經濟上ノ地位ニ大ナル差等アルコト嘗テ述ヘタル所ノ如シ從テ所得ノ總額ハ必スシモ直ニ其者ノ提供力ヲ表明セス換言スレハ各人ノ所得ノ總額ニ比例シテ租税ヲ徵收スルハ必スシモ負擔ノ公平ヲ期スル所以ニアラス是レ學者ノ或ハ擔稅力ト提供力トヲ區別スル所以ナリ

斯ノ如ク所得ヲ生スル原因ノ如何ニ依リテ其提供力ニ差等アリトセハ確實ナル原因ヨリ生スル所得ヲ有スル者ハ不確實ナル原因ヨリ生スル所得ヲ有スル者ニ比スレハ重大ナル負擔ニ堪フルヲ得ヘク又其生活ノ状態ニシテ良好ナラハ其所得ハ同シト雖モ其不良ナルモノニ比シテ重キ負擔ニ任セシムルヲ以テ正當トスヘシ若シ其所得ノ原因同シク又生活上ノ状態モ同一ナル場合ニ於テハ多大ナル所得ヲ有スル者ハ僅少ナル所得ヲ有スル者ニ比シテ絶對的ニ提供力ニ富ムノミナラス比較的ニモ亦其能力ノ大ナルモニアリトセハ是等ノ二者ノ間ニハ自ラ負擔